

91  
222

# 改正刑法通解

全



91-222

警察部長

大阪府事務官從五位勳四等

池上四郎君序

# 刑法通解

警務課長

大阪府警視正七位勳六等

岸本蔦次著

Handwritten notes in the right margin, including the characters "印" and "池上".



警 察 宣 言

巡查タル者ハ官吏服務紀律ヲ格守スヘキハ  
言ヲ俟タス常ニ上官ノ命令ヲ遵守シ勤務中  
ハ勿論勤務ニ服セサルトキト雖モ猥ニ政治  
ノ是非得失ヲ論評スルカ如キコト決シテア  
ルマシキ事



警察宣言

巡查タル者ハ常ニ人民ノ保護者タルコトヲ  
記憶シ之ニ對シ丁寧親切ヲ旨トシ而モ之ト  
相狎昵スルカ如キコトナク職務上ニ於テ負  
擔スル百般ノ責務ハ最モ嚴正忠實ニ之ヲ踐  
行スヘキ事

序

社會科學ノ發達進步ハ諸般制度ニ影響ヲ及シ  
二十有餘年間施行セラレタル刑法モ數回ノ立  
案審議ヲ經テ改正ヲ見ルニ至リタリ新刑法ハ  
範ヲ歐洲最新ノ學理ニ採リ我國情ヲ斟酌シ過  
去二十餘年ノ實驗ニ照シ長短取捨シタル法典  
ナリ故ニ法文ノ整然トシテ燦爛タルハ之ヲ歐  
米各國ノ刑法ニ比較スルモ嶄然トシテ一頭地  
ヲ占ムルニ似タリ我國民カ如斯良法典ヲ得タ



ルハ寔ニ幸福トスル所ナリ然トモ之ヲ運用シテ其實蹟ヲ舉クルニハ審ニ裁判官而已ナラス犯罪檢舉ノ職責ヲ有スル警察官ハ勿論國民全體カ改正法ノ精神ヲ會得シ大意ニ通シテ適從スル所ヲ知ルハ極メテ緊要ナル所ナリ而シテ一度改正法ノ公布セララルルヤ幾多ノ註釋書雜然トシテ書肆ノ店頭ニ列ヌルモ何レモ一長一短ヲ免カレス學理ニ精ナルモノハ實務ニ適セス實用ヲ主トスルモノハ法意ヲ悉クサス要ス

ルニ専門ニ偏シテ初學ノ士ニ適セサルモノ多シ然ルニ頃日岸本警視主トシテ警察官吏ノ參考用ト爲ス目的ヲ以テ新刑法ニ註釋ヲ加ヘタルモノヲ予ニ示シ序ヲ徵ス之ヲ通覽スルニ平易通俗能ク大体ノ法意ヲ明ニシ實務家ノ好參考書タルコトヲ信シテ疑ハス依而一言ヲ叙スト云爾

明治四十二年十一月

## 池上四郎識之



警察宣言

巡查タル者ハ一端奉職ノ上ハ他念  
ナク職務ニ従事シ五箇年未滿ニシ  
テ一身ノ故ヲ以テ辭職スルカ如キ  
コト決シテアルマシキ事

一凡ソ刑法ノ必要ハ犯罪事實ヲ基礎トスルモノナルヲ以テ  
斯法ヲ研究セント欲スル者ハ宜シク犯罪ノ發生特ニ其遠  
因近因ト爲ルヘキ動機即社會ノ欲陷人情風俗等ノ方面ヲ  
忽諸ニ附ス可カラス約言セハ世態ノ事情ニ通スルユトナ  
要ス社會觀人情觀ヲ有セスシテ法律ヲ運用セントスルハ  
猶恰カモ琴柱ニ膠シテ瑟ヲ彈スルカ如シ其直情徑行ニ陷  
リ情理至ラス社會ノ實際ト調和セス酷刑ヲ叫ヒ苛察ニ泣  
ク者ヲ生ス可シ殊ニ司法警察ノ職責ヲ有スル者留意ス可  
キナリ

一本書ハ實用ヲ旨トシ俗解ニ易カラシメ簡潔ヲ主トシタル  
ヲ以テ刑法ノ沿革主義實例等所謂刑法學ニ關スルモノハ  
悉ク省略シ各條ニ付適切ナル解釋ヲ示スニ止メタルヲ以



テ深遠ナル學理巧妙ナル議論ハ關スル所ニ非ス然トモ實  
際ノ問題ヲ決スルニ必要ナル範圍ニ於テハ多少之ニ論及  
シタルモノアリ

一本書ハ僅ニ刑法各條ノ解釋ニ過キササルヲ以テ斯學研究ニ  
志ス者決シテ之ニ満足スヘキニアラス深ク堂奧ニ入ラン  
ト欲スル者ハ宜シク他ノ好著ヲ參酌研鑽ス可キナリ要ハ  
初學者座右ノ一資料タレハ著者ノ本懷之ニ過キス特ニ之  
ヲ附記ス

### 著者

#### 警察宣言

巡査タル者ハ自身ハ勿論家族ニ至ル迄専ラ品行ヲ正クシ警察官吏  
タリ又其家族タル体面ヲ汚損スルカ如キ所業決シテアルマシキ事

## 改正刑法通解

### 目次

#### 第一編 總則

第一章 法例	二
第二章 刑	一一
第三章 期間計算	二一
第四章 刑ノ執行猶豫	二二
第五章 假出獄	二四
第六章 時効	二六
第七章 犯罪ノ不成立及刑ノ減免	二八
第八章 未遂罪	四五
第九章 併合罪	五一
第十章 累犯	五七



第十一章 共犯……………六〇  
 第十二章 酌量減刑……………六七  
 第十三章 加減例……………六八

第二編 罪

第一章 皇室ニ對スル罪……………七一  
 第二章 内亂ニ關スル罪……………七四  
 第三章 外患ニ關スル罪……………七八  
 第四章 國交ニ關スル罪……………八六  
 第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪……………九一  
 第六章 逃走ノ罪……………九三  
 第七章 犯人藏匿及證憑湮滅ノ罪……………九七  
 第八章 騷擾ノ罪……………九九  
 第九章 放火及失火ノ罪……………一〇二

第十章 溢水及水利ニ關スル罪……………一一一  
 第十一章 往來ヲ妨害スル罪……………一一三  
 第十二章 住居ヲ侵ス罪……………一一八  
 第十三章 秘密ヲ侵ス罪……………一二〇  
 第十四章 阿片煙ニ關スル罪……………一二三  
 第十五章 飲料水ニ關スル罪……………一二五  
 第十六章 通貨偽造ノ罪……………一二七  
 第十七章 文書偽造ノ罪……………一三三  
 第十八章 有價證券偽造ノ罪……………一四六  
 第十九章 印章偽造ノ罪……………一四八  
 第二十章 偽證ノ罪……………一五一  
 第二十一章 誣告ノ罪……………一五四  
 第二十二章 猥褻姦淫及重婚ノ罪……………一五五



第二十三章	賭博及ヒ富籤ニ關スル罪	一六二
第二十四章	禮拜所及墳墓ニ關スル罪	一六五
第二十五章	瀆職ノ罪	一六七
第二十六章	殺人ノ罪	一七三
第二十七章	傷害ノ罪	一七六
第二十八章	過失傷害ノ罪	一七九
第二十九章	墮胎ノ罪	一八〇
第三十章	遺棄ノ罪	一八二
第三十一章	逮捕及監禁ノ罪	一八四
第三十二章	脅迫ノ罪	一八六
第三十三章	略取及誘拐ノ罪	一八七
第三十四章	名譽ニ對スル罪	一九〇
第三十五章	信用及業務ニ對スル罪	一九三

第三十六章	竊盜及強盜ノ罪	一九五
第三十七章	詐欺及恐喝ノ罪	二〇四
第三十八章	横領ノ罪	二〇九
第三十九章	贓物ニ關スル罪	二一二
第四十章	毀棄及ヒ隱匿ノ罪	二一四

○附 錄

警察犯處罰令	一
治安警察法	四
同法第十八條ノ適用ニ關シ報告方	八
豫戒令	九
行政執行法	一一
行政執行法施行令	一二
出版法	一四

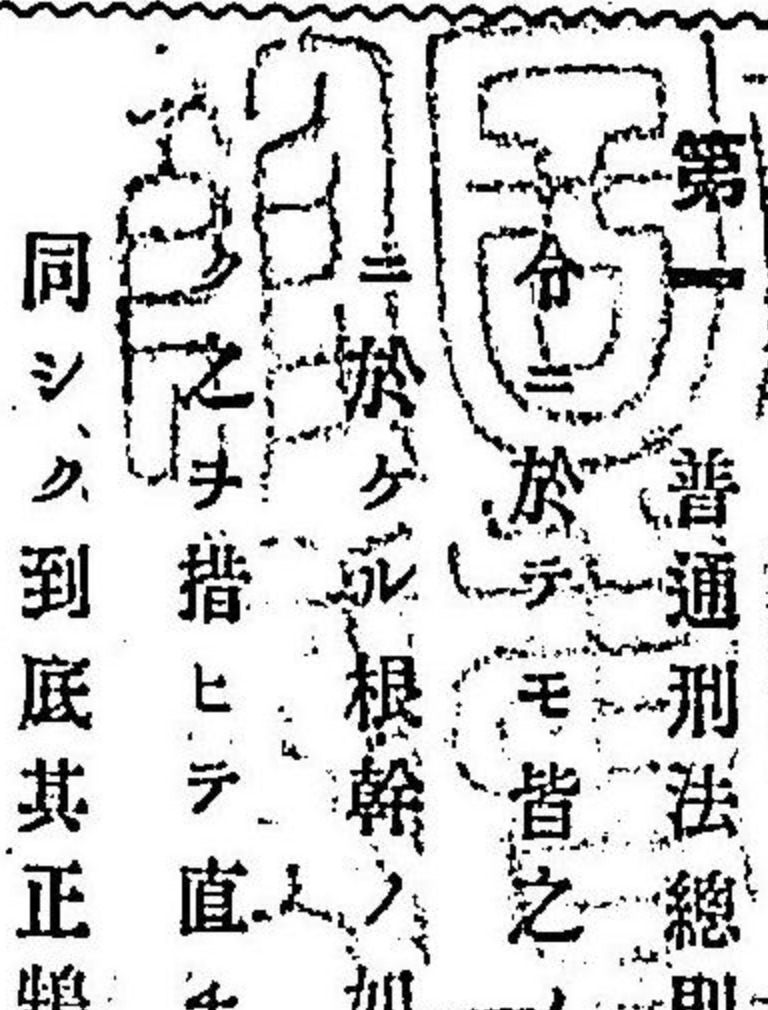


新聞紙法 ..... 一八  
新聞紙法ニ依リ保證金ニ充ツル事ヲ得ル有價證券 ..... 二四

# 刑法通解

警視 岸本 蔦次 著

## 第一編 總則



第一 普通刑法總則ハ刑法全体ニ通スル原則ノ規定ニシテ陸軍刑法其他ノ罰令ニ於テモ皆之ノ適用ヲ受クルモノナルヲ以テ其解釋ノ必要ナルコト樹木ニ於テ根幹ノ如ク苟クモ刑法ヲ研究スル者ハ先ツ總則ノ規定ヨリ始ムヘシ之ヲ措ヒテ直チニ各本條ニ入ルハ恰カモ本ヲ正サスシテ枝葉ヲ論スルニ同シク到底其正鵠ヲ得ル能ハサルヘシ

第二 總則ノ重要ナルコト右ノ如ク而シテ解釋ノ困難ニシテ議論ノ歸一セサル亦本論ニ過クルモノナシ古今東西ノ學者及實務家カ學世ノ精力ヲ傾注シ議論紛々或ハ刑事社會學ヨリ或ハ刑事人類學ヨリ或ハ刑事政策學或ハ刑事法醫學ヨリ辨難攻撃常ニ歐洲法學界ニ雙龍玉ヲ爭フノ偉觀ヲ演出スルハ重ニ刑法總則ニ屬スル問題ナリ故ニ少シク之ヲ細論セハ本編ノミニテ優ニ尨



大ナル著述ヲナスモ尙未タ足ラサルノ實例ナリ然トモ本書ハ實用ヲ主トシ且小冊子ニ刑法ノ全部ヲ網羅スルモノナルヲ以テ學說又ハ判例ニ據リ學理的ニ叙述スルハ到底不可能ニ屬スルヲ以テ條文ノ順序ニ從ヒ繁簡宜シキヲ制シ極メテ平易ニ其大要ヲ述ヘント欲ス

第三 總則編ハ第一章法例第二章刑第三章期間計算第四章刑ノ執行猶豫及免除第五章假出獄第六章時効第七章犯罪ノ不成立及刑ノ減免第八章未遂罪第九章併合罪第十章累犯第十一章共犯第十二章酌量減刑第十三章加減例ノ十三段ニ分類シ排列セラル依テ以下逐次之ヲ説明スヘシ

### 第一章 法 例

第一條「本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス」

「帝國外ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ」

第四 本條ハ我刑法カ場所及人ニ及ホズ効力ニ付キテノ規定ナリ即チ如何ナル人ニ如何ナル場所ニ於テ刑法ヲ適用スルヤヲ定メタルモノナリ治外法權

ノ存在シタル時代ニ於テハ歐米人ニ對シテハ我領土内ニ在リナカラ我法律ノ効力ヲ及ホス能ハス獨立國ノ体面ニ關スル至大ナリシモ我國權ノ振張ニ伴ヒ條約改正ノ結果歐米國ノ有シタル治外法權ハ明治三十一年撤回セラレタルヲ以テ苟クモ我帝國領土内ニ在ル者ハ内外國人ノ別ナク等シク我國家ノ支配ヲ受ケサルヘカラス本條ハ即チ之ノ原則ヲ明カニシタルモノトス

第五 本條第一項ノ帝國内トハ日本帝國主權ノ及フ可キ土地ノ範圍ヲ云フ即チ

- （一）日本帝國領土帝國領土ハ本州四國九州北海道臺灣其他附屬島嶼ヲ總稱ス
- （二）帝國領海領海トハ領土ニ接近シタル一定ノ海上ニシテ國際法上領土ト看做シタル區域ヲ云フ此區域ハ干潮線ヨリ最大砲彈ノ達スル迄ヲ通則トシテ而シテ其距離ハ三海里ト決定セラレタリ然ルニ近時科學ノ進步ニ伴ヒ三海里以上ニ達スル大砲ヲ發明セラレシヲ以テ最近ノ國際法會議ニ於テハ遂ニ六海里以内ヲ以テ領海ト爲サントノ議アリタルモ未タ實行ニ至ラサルモノトス其他ノ海上ハ公海ト稱シ何國ノ主權ニモ服セサルモノトス
- （三）帝國軍艦軍艦ハ帝國主權ノ延長ニシテ國家ヲ代表スルモノト認メラル故ニ外國領海



ニ碇泊中ト雖モ其國ノ國權ニ服セス即チ乗組員等ノ犯罪ニ付テハ我刑法ヲ適用スヘキモノトス商船ニアリテハ國家ヲ代表セス一私人ト異ナラサルヲ以テ主權ノ延長ト看做ス能ハス故ニ碇泊國ノ法律ニ服セサルヘカラス然レトモ公海上ニ在ル我帝國船舶内ニ於テ行ハレタル犯罪ハ我國法ヲ以テ處斷スルハ何國ト雖モ異論ナキ處ナルニ依リ本條第二項ヲ以テ之ヲ明示シタリ(四)治外法權ヲ有スル外國ニ在留スル我臣民我國ニ對シテハ治外法權ヲ有スル列國ナキモ我國ハ歐米各國ト同シク清韓國ニ對シ治外法權ヲ有セリ故ニ此二國ニ在留スル我臣民ニ對シテハ本法ノ効力ヲ及ホスモノトス

第六 以上ハ本法ノ行ハルル土地及ヒ人ニ關スル範圍ノ説明ナルモ反之帝國内ニ在リナカラ刑法ノ支配ヲ受ケサルモノアリ即チ(一)天皇 天皇ハ我帝國主權者ニシテ憲法第五條ニ「天皇ハ神聖ニシテ侵ス可ラス」トアリ之レ主權者ハ立法權司法權及行政權ヲ掌握シ給ヒ國法ノ上ニ立タセ給フ御一人タルヲ以テ假令如何ナル行爲在ラセ給フモ國法ノ支配ヲ受ケラルルモノニアラス(二)帝國議會ノ議員議員ハ議院内ニ於テハ重要ナル國政ヲ審議スルモノナ

ルヲ以テ其言論ノ自由ヲ保障シ發言表決ノ方法カ假令刑法ニ觸ルルモ無責任ト爲シ以テ充分ニ自己ノ所信ヲ開陳セシム之レ憲法第五十二條ノ規定ニシテ無責任ノ範圍ハ議場内ニ於ケル發言及表決ニ限ルモノトス(三)外國ノ君主大統領及其家族從者之レ國際間ノ相互禮讓ニ基クモノニシテ列國ノ和親ヲ維持スル慣例ノ認ムル所ナリ(四)外國使節及其家族從者之等ノ者ハ國家ヲ代表シテ他國ニ駐劄スルモノナルヲ以テ其地位ヲ保護尊重シ駐在國ノ法律ノ適用外ニ置クモノトス(五)外國軍艦及軍隊軍艦及軍隊ハ共ニ其性質上他國ノ法權ニ服從スヘキモノニアラス故ニ外國領海ニ碇泊セル軍艦及ヒ他國ノ承認ヲ經テ駐屯スル我軍隊ニ對シテハ假令外國ニ在ルモ我國法ヲ以テ律スルト同シク我國ニ在ル外國軍艦軍隊ニ對シテモ我刑法ヲ適用スルヲ得サルモノトス

第二條「本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス」

一「第七十三條乃至第七十六條ノ罪」

二「第七十七條乃至第七十九條ノ罪」



- 三「第八十一條乃至第八十九條ノ罪」
- 四「第四百十八條ノ罪及其未遂罪」
- 五「第五百四十四條第百五十五條第百五十七條及第百五十八條ノ罪」
- 六「第六十二條及第百六十三條ノ罪」
- 七「第六十四條乃至第百六十六條ノ罪及第百六十四條第二項第百六十五條第二項第百六十六條第二項ノ未遂罪」

第三條「本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス」

- 一「第百八條第百九條第一項ノ罪第百八條第百九條第一項ノ例ニ依リ處斷ス可キ罪及ヒ之等ノ罪ノ未遂罪」
- 二「第百十九條ノ罪」
- 三「第百五十九條乃至第百六十一條ノ罪」
- 四「第百六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪」
- 五「第百七十六條乃至第百七十九條第百八十一條及ヒ第百八十四條ノ罪」
- 六「第百九十九條第百條ノ罪及ヒ其未遂罪」

- 七「第二百四條及第二百五條ノ罪」
  - 八「第二百十四條乃至第二百十六條ノ罪」
  - 九「第二百十八條ノ罪及同條ノ罪ヲ犯シ因リテ人ヲ死傷ニ致シタル罪」
  - 一〇「第二百二十條及第二百二十一條ノ罪」
  - 一一「第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪」
  - 一二「第二百三十條ノ罪」
  - 一三「第二百三十五條第百三十六條第百三十八條乃至第百四十一條及ヒ第百四十一條及ヒ第百四十三條ノ罪」
  - 一四「第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪」
  - 一五「第二百五十三條ノ罪」
  - 一六「第二百五十六條第二項ノ罪」
- 「帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ」
- 第四條「本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス」
- 一「第百一條ノ罪及ヒ其未遂罪」



二「第百五十六條ノ罪」

三「第百九十三條第百九十五條第二項第百九十七條ノ罪及ヒ第百九十五條第二項ノ罪ヲ犯シ因リテ人ヲ死傷ニ致シタル罪」

第七

右各條ハ帝國領土外ニ於テ犯サレタル罪ニ付キテノ規定ナリ而シテ第三條ハ我帝國臣民ニ限り處罰スルノ規定ナリ而シテ第四條ハ我公務員ニ限り本法ヲ適用スル條文ナリトス抑モ國內ニ於ケル犯罪ハ治安ノ維持上内外人ノ區別ナク一切ノ犯罪ヲ處罰スルノ必要アルモ領土外ニ於テハ微細ノ罪迄悉ク追隨シテ處罰スルノ必要ナシ日本臣民ハ國家構成ノ一員ナルヲ以テ飽迄モ之ヲ追及スルノ必要アルモ外國人ニシテ外國ニ在ル者ノ如キハ我帝國ノ威信ヲ傷ケ秩序ヲ紊ルコト重大ナル罪ニ限り之ヲ處罰スレハ事足ルヘシ之ノ等シク我帝國領土外ニ於テ行ハレタル犯罪ト雖モ我臣民ト外國人トノ間ニ第二條第三條ノ區別ヲ設ケタル所以ナリ即チ第二條ハ内外人トモ處罰スルノ罪第三條ハ內國人ノミヲ處罰スルノ罪ヲ舉ケタルモノニシテ第三條

ハ公務員ノミニ適用スル罪ヲ掲ケタルモノトス

第八

外國ニ於ケル犯罪ニ對シ我刑法ノ効力ヲ及ホスハ一見帝國主權ヲ外國領土ニ行ハントスルモノニシテ一國ノ主權ハ其領土内ニ限ルトノ原則ニ矛盾スルカ如キモ第二條ノ意義ハ決シテ右ノ如キモノニアラス外國ニ於テ生シタル我刑法違反ノ事實ニ對シ帝國裁判所之ヲ裁斷シ一定ノ刑罰ヲ宣言スルニ止マリ外國主權ヲ侵シテ被告人ヲ逮捕シ又ハ刑ノ執行ヲ爲スモノニアラス故ニ之ヲ混同セサルヲ要ス而シテ他日其外國人カ任意ニ我領土内ニ來リ又ハ犯罪人ノ引渡ヲ受クルトキ等ニ於テハ刑ノ執行ヲモ爲スコトヲ得ヘシ

第五條「外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行為ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得」

第九

本條ハ外國裁判所ノ判決ノ効力ニ付キテ規定シタルモノナリ元來外國裁判所ノ下シタル判決ノ効力ハ我帝國ニ對シテハ何等ノ拘束力ナキヲ以テ



一事不再理ノ原則ヲ適用スヘキモノニアラス然トモ一度外國ニ於テ判決ヲ受ケ刑ノ執行ヲ經タルモノハ我刑法ニ照シテ相當ナルモノハ再ヒ之ヲ論スルノ必要ナク又其輕キモノハ更ニ殘部分ノ刑ヲ科スレハ足ルヲ以テ減輕又ハ免除スルコトヲ得ヘキモノト規定シタルナリ

第六條「犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス」

第一〇 本條ハ刑法ノ時ニ及ホス効力ニ付キテノ規定ナリ凡ソ法律ハ實施以前ノ事實ニ遡リテ効力ヲ有セサルヲ原則トス之レ所謂不遡既往ノ原則ニシテ古今東西ノ法理皆然ラサルハナシ之ニ對スル一大例外ハ新法カ舊法ヨリ輕キ場合ニハ遡及シテ經キ新法ヲ適用スルコト之レナリ故ニ確定判決ヲ經サル内ニ法律ノ改廢アリテ犯罪當時ノ法律ニテハ死刑ニ處スヘキ罪モ判決當時有期懲役ニ處スヘキ規定ト爲リタルトキハ輕キニ從ヒ新法ヲ遡及セシメテ之ニ依リ處斷スヘキモノナリ

第一一 本條ニ刑ノ變更アリタルトキハ法律ノ廢止又ハ變更ノ結果異動シタルコト云ヒ幾度變更スルモ其内最モ輕キモノヲ適用ス故ニ全然廢止セラレ

タルトキハ無罪ト爲スヘキモノナリ而シテ右ハ確定判決以前ノコトニ屬ス故ニ既ニ確定シタルモノハ假令法律ノ廢止ニ逢フモ亦如何トモスル能ハサルモノトス

第七條「本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ」

「公務員ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ」

第一二 本條ハ公務員及ヒ公務所ノ意義ヲ定メタルモノナリ犯罪ハ公務員タル資格ニ於テノミ成立スルコトアリ又其資格アルカ爲メニ特ニ重ク罰セラレルコトアリ又公務所ニ對シ犯罪成立スルコトアリ之レ本條ヲ要スル所以ナリ

第八條「本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限りニアラス」

第一三 本條ハ刑法總則ノ規定ヲ他ノ刑罰法令ニモ之ヲ適用スルコトヲ定メタルモノナリ故ニ特別ノ規定ナキ限り犯意年齢併合罪共犯累犯等ノ規定ハ



陸海軍刑法其他特別法ニモ適用スヘキモノトス

## 第二章 刑

第一四 刑ノ概念 刑トハ國家カ犯罪ノ制裁トシテ犯人ニ科スル苦痛ヲ謂フ  
モノトス刑ノ目的ハ刑罰ニ因リテ達セラル而シテ古ヘハ刑罰頗ル重ク火刑  
磔刑鋸首等最モ森嚴酷烈ヲ極メ斬首ノ如キハ其情輕キモノニ科シ切腹ハ武  
士ニ對スル名譽ノ刑ト爲シ甚シキハ六族ヲ根絶シ遺族ノ財産全部ヲ官沒ス  
ルカ如キ之ヲ聞ク尙慄然トシテ肌ニ粟ヲ生セシム然ルニ今ヤ刑ハ一身ニ止  
マリ犯人死亡スレハ一切ノ犯罪消滅スルモノト爲シ累ヲ親族ニ及ホスカ如  
キコトナク死刑ノ方法モ苦痛ノ最モ尠ナキ絞首ニ限ラレ陸軍ニ於テハ銃殺  
スルモ之ノ例外ナリ自由刑モ亦一定ノ場所ニ錮シ外部トノ交通ヲ禁シ勞役  
ヲ科スルモノアルモ古ヘノ如ク或ハ笞<sup>レ</sup>或ハ黥<sup>レ</sup>爲スカ如キ肉体ニ直接強  
力ヲ加フル刑ハ全ク之ヲ廢止シタリ之レ時勢ノ進歩ニシテ人情寛和ニ赴キ  
無用ノ苦痛ヲ與フル如キハ社會人心ニ適セサルト一ハ古ヘニアリテハ報復

主義ヲ採リ刑罰ヲ以テ自懲他戒ノ具ニ供シタルモ今ヤ刑ノ目的ハ犯人ヲ懲  
戒矯正シシテ善良ナル社會ノ一員ト爲スカ又ハ到底見込ナキ不良分子ハ社  
會ヨリ隔離シ其害ヲ除去スレハ足ルトノ新主義ニ基キタルモノニ他ナラス  
第一五 刑罰ハ之ヲ犯人ニ科スルニ止マリ其相續者ニ及ホスコトナシ而シテ  
判決確定セハ直ニ之ヲ執行ス但シ死刑ニ付キテハ司法大臣ノ命令アルコト  
ヲ要ス之レ死刑ハ一度執行スレハ亦還ラス人命ニ關スル最モ重大ナルモノ  
ニシテ殊ニ天皇ハ大赦特赦減刑等ノ恩典ヲ施コシ給フ大權ヲ有セラルルヲ  
以テ特ニ此ノ手續アル所以ナリ其他ノ自由刑財産刑ハ檢事ノ指揮ニ依リ自  
由刑ハ司獄官財産刑ハ主トシテ執達吏ヲシテ執行セシム  
第一六 刑ハ如何ナル時ニ消滅スルヤト云フニ(一)刑ノ執行ヲ終リタル時ハ勿  
論ナルモ(二)犯人ノ死亡(三)大赦特赦減刑ノ恩典(四)時効(舊法ノ期滿免除)(五)刑ノ  
執行猶豫期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第九條「死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス」

第十條「主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ



有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス」

「同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス」

「二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム」

第一七 第九條ハ刑ノ種類ヲ分チテ死刑以下六個ノ主刑ト一附加刑ヲ定メタリ更ニ之ヲ大別セハ生命刑自由刑財産刑ノ三ト爲スヲ得ヘシ即チ死刑ハ生命刑ニシテ懲役禁錮拘留ハ自由刑ナリ罰金沒收ハ財産刑ナリ死刑ハ之ヲ廢止スヘキモノナルヤ否ヤニ付キテハ歐米各國及ヒ我國ニ於テモ議論アル所ナルモ新刑法ニハ依然之ヲ存スルコトニ決定シタリ

第一八 第十條ハ刑ノ輕重ヲ定メ同種ノ刑ニアリテハ長期ノ長キモノヲ重シトシ罰金科料ニ付キテハ多額ノ最モ多キモノヲ以テ重シトナシタリ他ハ自ラ明瞭ナラン

第十一條「死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス」

「死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ル迄之ヲ監獄ニ拘留ス」

第十二條「懲役ハ無期及有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス」

「懲役ハ監獄ニ拘留シ定役ニ服ス」

第十三條「禁錮ハ無期及有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス」

「禁錮ハ監獄ニ拘留ス」

第一九 第十一條ハ死刑執行ノ方法ヲ規定シタルモノナリ而シテ本條ニハ絞首シテ執行ストアルヲ以テ絶命スル迄ハ何回ニテモ行フコトヲ要ス彼ノ一度執行シテ後蘇生シタルトキハ如何ニスヘキヤノ如キ問題ハ新刑法ニ於テハ生スルノ餘地ナキモノトス而シテ死刑ニ付キテハ司法大臣ノ命令ヲ要スルコトハ前述シタルカ如シ又若シ懷胎ノ婦女ナルトキハ其分娩後一百日ヲ經ルニアラサレハ死刑ノ執行ヲ許サ、ルモノトス

第二〇 第十二條ハ懲役ノ期限及ヒ性質ヲ第十三條ハ禁錮ノ期限及性質ヲ示シタルモノナリ何レモ無期有期ニ分チ有期ハ一月以上十五年以下ニシテ二者ノ異ナル點ハ懲役ハ定役ニ服セシムルモ禁錮ハ無定役ナルコト之レナリ之レヲ區別スル標準ハ通常破廉耻罪ニハ懲役ヲ科シ國事犯又ハ軍事犯ノ或



ルモノニハ禁錮ヲ科ス各本條ニ付キテ知ルヘシ之ノ犯人ノ性質犯罪ノ目的種類ニ依リ一ハ勞役ヲ必要トシ一ハ之ヲ要セスト認メタルニ依ルモノナリ

第十四條「有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル

場合ニ於テハ一月以下ニ下スコトヲ得」

第十五條「罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ下スコトヲ得」

第二一 第十四條ハ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スルトキハ更ニ一層之ヲ擴張スルコトヲ得ル規定ナリ即チ加ヘテ二十年ニ至リ減シテ一月以下ニ下スコトヲ得ヘシト爲シタリ之ノ裁判官ニ與フル大ナル權限ニシテ能ク犯人ノ人格ヲ究メ犯罪ノ動機及種類性質ヲ明カニシ犯情ニ適スル判決ヲ下サシメンカ爲メナリ故ニ裁判官其人ヲ得レハ運用宜シキヲ制シ刑事政策上新主義ヲ採リタル効果ヲ收メ得ヘキモ若シ其人ヲ得サレハ奸獪ノ徒ヲ逸シ愚直ヲ重ク罰スルノ弊ニ陥リ却リテ桎梏ヲ加ヘラレタル往時ノ舊主義勝ソルヲ思ハシムヘキナリ裁判官タルモノ宜シク三省スヘキ要點ナラン

第二二 第十五條ハ罰金刑ニ付キテノ規定シタルモノナリ即チ罰金ハ最下限

二十圓トシ最高額ハ之ヲ規定セサルナリ蓋シ新刑法ニ於テハ偽造ノ貨幣紙幣又ハ銀行券ナルコトヲ知リテ之ヲ行使シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金ニ處スル規定ナルヲ以テ時トシテ數萬圓ニ上ルコトアリ豫メ高ヲ明示スルヲ得ス其他酒造稅法等特別法ニモ右ト略同一ノ規定アルヲ以テナリ

第十六條「拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留場ニ拘留ス」

第十七條「科料ハ十錢以上二十圓未滿トス」

第二三 第十六條ハ拘留ノ期限及ヒ性質ヲ第十七條ハ科料ニ付テ規定シタルモノナリ舊刑法ニ於テハ拘留ハ一日以上十日以下トシ科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ナリシモ新法ハ著シク範圍ヲ擴張シタリ

第十八條「罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス」

「科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス」

「科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス」

「罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡スヘシ」



「罰金ニ付キテハ裁判確定後三十日内科料ニ付キテハ裁判確定後十日内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス」

「罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其全額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス」

「留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス」

**第二四** 本條ハ罰金又ハ科料ヲ納附セサル場合ニ之ヲ換ヘテ留置シ勞役ニ服セシムルコトヲ定メタル規定ナリ一讀明瞭ナルヲ以テ説明ヲ省略ス

**第十九條**「左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得」

一「犯罪行爲ヲ組成シタル物」

二「犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物」

三「犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リテ得タル物」

「沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル」

**第二十條**「拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付キテハ特別ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ科スルコトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此限ニ在ラス」

トヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此限ニ在ラス

**第二五** 本條ハ沒收ニ付キテノ規定ナリ沒收ニ司法上ノ沒收アリ行政上ノ沒收アリ而シテ舊刑法第四十三條第一號ニハ法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ストアリシヲ以テ其意義漠然トシテ廣キニ失シ犯人以外ノ者ノ所持スル禁制物モ尙之ヲ沒收セサルヘカラサルノ結果時トシテハ當事者ナキニ沒收ノ宣告ヲ爲ス如キ現象ヲ生シタルヲ以テ本法ニ於テハ之等ハ行政規則ニ讓ルコトトシ司法上ノ沒收ノミニ規定シタルナリ

**第二六** 犯罪行爲ヲ組成シタル物件トハ犯罪ノ構成上其物自体ヲ必要ト爲シタル物件ナリ例ヘハ阿片煙ニ關スル罪ニ付キ阿片及ヒ吸食用ノ器具通貨偽造罪ニ於ケル偽造貨幣文書偽造罪ニ於ケル偽造文書ノ如キ所謂罪体ト爲リタル物件ヲ謂フモノトス

**第二七** 犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物件トハ罪ヲ犯スニ付キ直接ニ使用シ又ハ使用セントシタル物件ナリ例ヘハ殺人ノ用ニ供シタル刀劍ノ如キ或ハ竊盜ノ用ニ供セントシタル梯子ノ如シ



**第二八** 犯○罪○行○爲○ヨ○リ○生○シ○又○ハ○之○ニ○因○リ○テ○得○タル○物○件○ト○ハ○第○一○ノ○場○合○ハ○其○物○件○ヲ○生○セ○シ○ム○ル○行○爲○カ○犯○罪○ヲ○構○成○ス○ヘ○キ○場○合○ニ○此○行○爲○ヨ○リ○生○シ○タル○物○件○即○チ○貨○幣○偽○造○文○書○偽○造○罪○ノ○結○果○生○シ○タル○偽○造○貨○幣○偽○造○文○書○ノ○如○シ○第○二○ノ○場○合○ハ○犯○罪○ヲ○爲○ス○ニ○依○リ○獲○得○シ○タル○物○件○即○チ○強○窃○盜○罪○ニ○依○リ○テ○得○タル○脏○物○狩○獵○法○違○反○ノ○行○爲○ヨ○リ○得○タル○鳥○獸○ノ○如○シ

**第二九** 没○收○ハ○其○物○件○犯○人○以○外○ノ○者○ニ○屬○セ○サ○ル○ト○キ○ニ○限○リ○行○フ○モ○ノ○ト○ス○故○ニ○他○人○カ○其○物○ニ○付○キ○權○利○ヲ○有○ス○ル○ト○キ○ハ○之○ヲ○没○收○ス○ル○コ○ト○ヲ○得○ス○然○レ○ト○モ○所○有○者○ナ○キ○ト○キ○又○ハ○不○明○ナ○ル○ト○キ○ハ○權○利○者○ナ○キ○モ○ノ○ト○シ○テ○没○收○ス○ル○ヲ○得○ヘ○シ

**第三〇** 第○二○十○條○ハ○拘○留○又○ハ○科○料○ノ○ミ○ニ○該○ル○罪○ニ○付○テ○ハ○犯○罪○行○爲○ヲ○組○成○シ○タル○物○件○ニ○限○リ○没○收○シ○他○ハ○特○別○ノ○規○定○ナ○キ○限○リ○没○收○セ○サ○ル○モ○ノ○ト○爲○シ○タル○規○定○ナ○リ○之○レ○極○マ○テ○輕○微○ノ○犯○罪○ニ○付○キ○例○外○ヲ○設○ケ○タル○ニ○他○ナ○ラ○ス

**第二十一條** 「未決勾留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得」

**第三一** 之○レ○新○刑○法○ニ○特○設○シ○タル○規○定○ニ○シ○テ○從○來○ノ○例○ニ○依○レ○ハ○未○決○審○理○中○ノ○日○數○時○ト○シ○テ○ハ○半○歲○又○ハ○一○年○以○上○ヲ○費○シ○被○告○ハ○空○シ○ク○鉄○窓○ノ○中○ニ○呻○吟○シ○其

苦楚殆ト定役ナキ禁錮ト異ナラス判決確定ノ上更ニ刑期間服役セシムルハ事情憫諒スヘキモノアリ依テ裁判所ハ之ヲ酌量シテ未決勾留日數ノ一部ヲ本刑期ニ通算スルコトヲ得ヘキモノト爲シタルナリ故ニ保釋責付ノ日數ノ如キハ之ヲ算入スルヲ得サルモノトス

### 第三章 期間計算

**第二十二條** 「期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス」

**第二十三條** 「刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス」

「拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス」

**第二十四條** 「受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時効期間ノ期日亦同シ」

「放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ」

### 第四章 刑ノ執行猶豫

**第二十五條** 「左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ



裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一「前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者」

二「前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者」

第三二

刑ノ執行猶豫ハ刑法學上最モ進歩シタル人格矯正主義ヲ採用シタル結果ニシテ初犯ノ犯人ヲ直チニ監獄ニ投シテ極惡人ト同棲セシメ惡風ニ感染セシムルハ徒ラニ改過遷善ヲ妨クルノミナラス遂ニハ不良ノ徒ト化シ害毒ヲ流ス者多キヲ以テ新刑法ニ於テハ北米合衆國白耳義佛蘭西等ノ新主義立法ニ倣ヒ一定ノ制限ヲ設ケテ執行ノ猶豫ヲ與フルコトト爲シタルモノトス

第三三

刑ノ執行猶豫ヲ與フル條件ハ(一)最近七年以内ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者(二)二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキ(三)其情狀ニ於テ猶豫ヲ與フヘキモノト認ムルトキトス故ニ死刑又ハ二年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル如キ重キ罪ニ付キテハ犯罪必罰ノ原則ヲ

貫キ之ヲ猶豫スル如キハ却リテ社會ニ害アリト認メテ之ヲ許サス而シテ執行猶豫ハ元來法律ノ淚ニシテ其情狀憐ムヘク又改悛ノ見込アルモノト認マラルル場合ニ限ルモノトス爰ニ新刑法ニ對シ稅難スヘキハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ付キテ猶豫ヲ與ヘナカラ罰金ニ付キテ之ヲ與ヘサルハ如何ナル理由ナルカ或ハ罰金ハ監獄ニ入ラサル故惡風ニ感染セス不良ニ陥ルノ恐レナシトノ理由ナランモ薄弱ニシテ充分ナラス吾人ハ罰金ニ付キテモ之ヲ與フルノ規定ヲ希望シテ止マサルモノナリ

第二十六條「左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ」

一「猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ」

二「猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ」

三「前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ」

第三四

本條ハ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ條件ヲ定メタルモノナリ即チ猶豫ノ期間内ハ一層謹慎スヘキニ更ニ禁錮以上ノ罪ヲ犯ス如キ又ハ言渡前ニ



犯シタル罪ニ付禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル如キ又ハ言渡前ニ他ノ罪ニ付  
キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタル場合ナリトス

第三五 猶豫ヲ取消シタルトキハ直ニ言渡サレタル刑ノ執行ヲ受クヘク其新  
ニ犯シタル罪ニ付キテハ通常ノ規定ニ從ヒ更ニ裁判ヲ受クヘキモノトス

第二十七條 「刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ  
刑ノ言渡ハ其効力ヲ失フ」

第三六 本條ハ猶豫ノ効力ヲ規定シタルモノニシテ即チ猶豫限内無事ニ經過  
シタルトキハ全ク刑ノ効力ヲ喪失スルモノト爲シタリ之レ犯人ニ於テハ最  
モ大ナル特典ニシテ單ニ刑ノ執行ヲ受ケサルノミナラス法律上初メヨリ刑  
ニ處セラレタルコトナキ者ト看做サル故ニ再犯加重ノ原因トナラサルハ勿  
論諸種ノ法令例ヘハ衆議員府縣會議員等ノ撰舉被撰舉資格ニ影響ヲ生セカ  
ルモノトス

### 第五章 假出獄

第二十八條 「懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ有期刑ニ付キテハ其ノ刑期  
三分ノ一無期刑ニ付キテハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假リニ出獄ヲ許ス  
トヲ得」

第二十九條 「左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得」

- 一 「假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ」
- 二 「假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ」
- 三 「假出獄前他ノ罪ニ付罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲スヘキト  
キ」

四 「假出獄取締規則ニ違背シタルトキ」

「假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス」

第三十條 「拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場  
ヲ許スコトヲ得」

「罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ」

第三七 本章ハ假出獄ニ關スル規定ナリ假出獄ハ刑ノ執行中犯人ノ情狀刑ヲ



執行スルノ必要ナシト認メタルトキ假リニ獄外生活ヲ許スモノナリ舊法ニ於テモ之ヲ許シタルモ其條件ハ刑期四分ノ三ヲ經過スルコトヲ要件トシタルヲ以テ嚴格ニ過キ却リテ自暴自棄ニ陥ル弊アルヲ認メ新法ニ於テハ有期刑ニ付テハ刑期三分ノ一無期刑ニ付キテハ十年ト爲シタリ故ニ此限内獄内ニ於テ行狀ヲ悛ニ改過遷善ノ狀顯著ニシテ殘部ノ刑ヲ執行スルノ必要ナシト認ムルトキハ行政處分ヲ以テ出獄ヲ許スモノトス

**第三八** 第二十九條第三十條ハ假出獄ノ處分ヲ取消ス場合及ヒ拘留場ニ留置セラレタル者ハ何時ニテモ出場ヲ許スコトヲ定メタルモノ別ニ説明ヲ要セス

### 第六章 時効

**第三十一條** 「刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得」

**第三十二條** 「時効ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス」

一 「死刑ハ三十年」

二 「無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年」

三 「有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三年未滿ハ五年」

四 「罰金ハ三年」

五 「拘留料及ヒ沒收ハ一年」

**第三九** 刑ノ時効ハ舊法ニ於テ期滿免除ト稱セシヲ改メタルモノナリ而シテ時効トハ刑ノ言渡ヲ受ケ其判決確定スルモ一定ノ期間其執行ヲ遯レタルハ其刑ヲ免除スルコトヲ云フ此制度ハ各國刑法ニ之レヲ採用スル所ナリ其理由ニ付テハ學說種々アルモ要スルニ罪アル者ニ刑ヲ科スルモ遯レテ永年ノ間經過スルトキハ社會ハ犯罪事實ヲ遺忘シ犯人ニ於テハ常ニ戰々競々トシテ精神上ニ受クル畏怖ノ念ハ其苦痛殆ト体刑ヲ受クルト同シク又永ク逮捕ヲ免レ居ルハ善良ナル生活ヲ繼續セルモノト推定セサル可カラズ然ルニ罪アリタルヲ理由トシ十有餘年ノ後之ヲ執行スル如キハ社會人情ニ適セサルモノト認メタルニ因ル刑ノ時効ノ他公訴ノ時効ナルモノアリ刑事訴訟法ニ規定スル所ナリ這ハ判決以前ニ屬シ一定ノ年限間公訴ノ手續ヲ怠ルトキ



ハ起訴權消滅スルモノヲ謂フ混同セサルヲ要ス

第四〇 第三十二條ハ時効期間ノ規定ナリ重キ刑ハ長ク輕キモノハ短カキハ重キ刑ハ社會ノ記憶深刻ニシテ遺忘シ難キモ短期刑ノ如キハ比較的速カニ犯罪事實ノ痕跡消滅スルヲ以テ差等ヲ設ケタルモノナリ

第三十三條「時効ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ進行セス」

第三十四條「時効ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス」

「罰金、料料及ヒ沒收ノ時効ハ執行行為ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス」

第四一 第三十三條ハ時効期間ノ進行ヲ停止スル場合第三十四條ハ之ヲ中斷スル場合ヲ定メタルモノナリ別ニ説明ヲ要セス

### 第七章 犯罪ノ不成立及刑ノ減免

第四二 本章ハ刑法總則ノ主眼タル犯罪ノ成立ニ關スル規定ナリ各條ノ説明ニ先キ犯罪ノ意義ヲ述フルノ必要アリ犯罪トハ刑事上ノ責任ヲ科スヘキ行為ナリ即チ刑罰法令ニ列舉シタル責任能力者ノ行為ニシテ犯意又ハ過失ニ

基ク不法行為ヲ謂フ此ノ要素ヲ分析セハ左ノ如シ

(イ) 犯罪ハ刑罰法令ニ違反シタル行為ナリ刑罰ヲ科セサル行為ハ犯罪ニ非ス之レ民法上ノ不法行為ト異ナル所ナリ犯罪タルニハ必ス刑罰ヲ科シタル法令アリテ此ノ法令ニ違反シタル行為ナルコトヲ要ス

(ロ) 犯罪ハ責任能力者ノ行為ナリ刑事上ノ責任ヲ負ハサル幼年者心神喪失者等ノ行為ノ如キ假令刑罰法令ニ違反スル行為アルモ之ヲ目シテ犯罪ト稱スルヲ得ス

(ハ) 犯罪ハ犯意又ハ過失ニ基ク行為ナリ犯意トハ一定ノ犯罪行為ヲ實行セントスル意思ヲ謂フ換言スレハ不法ナルコトヲ知リテ或行為ヲ行ハントスル決心ナリ何人ト雖トモ自己ノ意思ニ出テサル結果ニ付キテ責任ヲ負フコトナシ反之或ル結果ノ實現ヲ認識シテ或ル動作ヲ爲ス以上ハ其行為ニ付キ全責任ヲ負フノ義務アルモノトス而シテ犯意ハ犯罪實行ノ決心ナルヲ以テ犯罪構成要素ノ事實ヲ惹起セント欲スル決意ナラサルヘカラス例ヘハ甲者アリ乙者ニ仇ヲ報セント欲シ其思慮一定セハ報



仇ノ決心アルモノナリ然レトモ犯意ト謂フヲ得ス何トナレハ報仇ハ犯罪ニ非サレハナリ更ニ進ンテ乙者ヲ殺シテ仇ヲ報セント決心スルニ至リ其思慮一定セハ爰ニ殺人ノ犯意アリト謂フヘキナリ然レトモ犯罪ノ遠因ハ犯意ニ非ラス遠因トハ犯意ヲ決心スルニ至リタル理由ナリ即チ殺人罪ニ付キテ云ヘハ何か故ニ人ヲ殺スノ決心ヲ爲シタルヤ天下ノ奸惡ヲ除カンカ爲メナルヤ父祖ノ怨恨ヲ晴ラサンカ爲メナルヤ金品ヲ奪取センカ爲メナルヤ竊盜罪ニ付キテ云ヘハ色慾ノ情ヲ満足セント欲セシヤ父母ノ飢餓ニ迫ルカ爲メナリシヤ等之レナリ此ノ遠因ハ犯罪ノ成立ニハ關係ナシト雖モ刑期ノ量定上大ニ斟酌スヘキモノナルコトヲ忘ルヘカラス過失トハ注意ヲ缺キタル意思ノ状態ナリ即チ不注意ニ因リ認識セサル結果ヲ惹起シタルコトヲ云フ換言セハ此ノ如キ結果ヲ惹起スルコトヲ知ルナラハ此ノ如キ動作ヲ爲ササリシト謂ヒ得ヘキ場合ヲ過失ト謂フナリ例ヘハ狩獵家カ獸ト誤信シテ人ヲ射殺シタルカ如シ而シテ刑法ニ於テハ過失ニ因ル行爲ハ之ヲ罰セサルヲ原則トス過失殺傷

(二) 罪ノ如ク之ヲ罰スル場合ハ各本條ニ明文ヲ設ケタリ  
 犯○罪○ハ○不○法○行○爲○ナ○リ○刑○罰○法○令○ニ○違○反○シ○タル○行○爲○ハ○皆○犯○罪○ナル○カ○如○キ○モ  
 權利ノ執行緊急状態ニ基ク行爲等法律上許サレタル行爲ハ刑罰法令ニ

列舉セラレタル行爲ヲ行フト雖モ之ヲ稱シテ不法行爲ト謂フヲ得ス從ツテ犯罪アリト云フヲ得サルモノトス

**第四三** 本章ハ犯罪ノ成立セサル場合及ヒ刑ヲ減免スヘキ場合ヲ合シテ規定シタルモノナリ即チ(一)業務行爲(二)正當防衛(三)緊急状態(四)犯意ナキ行爲(五)心神喪失者ノ行爲(六)瘖啞者ノ行爲(七)幼年者ノ行爲(八)自首減輕之レナリ以下各條ニ付キ説明スル所アルヘシ

第三十五條「法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス」

**第四四** 本條ハ業務行爲ハ之ヲ罰セサルコトヲ定メタルモノナリ即チ法令又ハ正當ノ業務ヲ執行スル行爲ハ之ヲ犯罪ト看做ササルコトト爲シタルモノナリ而シテ法令ニ因ル行爲トハ法律命令ノ規定ニ因リ檢事ノ指揮ニ從ヒ巡查憲兵卒カ拘引狀ヲ執行スル如キ司獄官吏カ死刑ヲ執行スルカ如キ之レナ



リ正當ナル業務ニ因リ爲シタル行爲トハ外科醫カ治療上患者ノ身体ノ一部ヲ切斷スルカ如キ擊劍相撲演劇其他ノ興業師カ業務上爲シタル行爲ノ如キ法律命令ヲ守リ慣習上許サレタル範圍内ニ於テハ創傷ヲ生スルモ之ヲ罪トシ論セサルモノトス若シ其範圍ヲ逸出シタルトキハ不問ニ附スヘカラサルヤ勿論ナリトス

第三十六條「急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ己ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス」

「防衛ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得」

第四五 本條ハ所謂正當防衛ノ規定ナリ總テ權利ヲ侵害セラレタルトキハ國家ノ救濟ヲ求ムヘキモノナリ然トモ國權ノ保護ハ普ク常ニ各個人ニ及フモノニアラス時トシテハ其侵害急迫ニシテ徒ヲニ手ヲ束ネテ國家ノ保護ヲ待ツトキハ挽回スヘカラサル危害ヲ受クルコトアラソ此ノ如キ場合各人ニ自存權ヲ認メ反撃シテ不正ノ侵害ヲ除去スルコトヲ許スハ國權ノ缺陷ヲ補充スルノ途ニシテ各國刑法トモ之ヲ認ムル所ナリトス

第四六 前述ノ如ク正當防衛ハ國家ノ保護ヲ要求スル暇マナキ場合ニ止ムヲ

得ス自ラ危害ヲ排除スル行爲ナルヲ以テ其場合ハ法律ニ於テ限定スル所ナリ其條件左ノ如シ

(イ) 急迫不正ノ侵害タルヲ要ス是レ正當行爲ニ對シテハ防衛權ナシトノ意味ナリ而シテ不正トハ其行爲カ權利トシテ保護セラルルモノニ非サル

モノノ謂ヒナリ而シテ不正ノ侵害カ急迫ナルヲ要ス即チ目前ニ迫リ餘

裕ナキ場合ニ限ルモノトス

(ロ) 自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メナルコトヲ要ス苟クモ法律上ノ權利ヲ保護スル爲メナレハ身体生命ニ對スルト財産及ヒ名譽ニ關スルト

ヲ問ハス又自己ノ爲メニスルト他人ノ爲メナルトヲ問ハサルモノトス此ノ點ハ舊刑法ト異ナリ範圍ヲ擴張シタリ即チ舊法第三百十四條ニハ身体生命ヲ正當防衛シ云々第三百十五條ニハ(一)財産ニ對シ放火其他ノ暴行ヲ爲ス者ヲ防止シ云々(二)盜犯ヲ防止シ云々(三)夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り云々と列記シタルヲ以テ實際上種々ノ議論ヲ生シ判



例モ區々一定セカリシカ名譽權ニ對シテハ防衛權ナク財産ニ付キテハ  
列記以外ノモノニ付キテハ防衛權ナシト云フコトニ一定セリ然ルニ新  
刑法ハ身體生命ハ勿論財産名譽ニ對シ總ヘテ防衛權アルコトヲ認メタ  
リ。

(ハ) 己ムコトヲ得サルニ出テタルコトヲ要ス「己ムコトヲ得ス」トハ危害目  
前ニ追マリ之ヲ排除スルニ必要ナル手段アリシコトヲ云フ多クハ事實  
問題ニ屬スヘシ然トモ暴行者去リタル後追跡シテ之ヲ殺傷スルカ如キ  
ハ之ヲ含マスト雖モ攻撃ヲ慮リテ豫メ防衛ノ方法ヲ講シ置キ必要ニ際  
シ之ヲ利用スル如キハ正當ナリ例ヘハ強盜ノ押シ入ルヲ豫想シ爆裂彈  
ヲ裝置スルカ如シ又權利ヲ防衛スルニ必要ナル以上ハ害ノ輕重ヲ論ス  
ルノ必要ナシ例ヘハ財産ヲ保護スル爲メニ侵害者ヲ殺傷スルモ不可ナ  
シ。

第四七 本條第二項ハ防衛ノ程度ヲ超エタルトキハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又  
ハ免除スルコトヲ規定シタリ本項ノ場合ハ正當防衛ニ非ラスト雖モ多クハ

憤怒ノ餘勢ニ乘シテ決行スルモノニシテ情狀酌量スヘキモノアレハナリ例  
ヘハ逃走スル盜兒ヲ追跡シテ殺傷スルカ如シ

第三十七條「自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ己  
ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エ  
サル場合ニ限り之ヲ許セス但其程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スル  
コトヲ得」

「前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス」

第四八 本條ハ緊急狀態緊急危難又ハ緊急行爲トモ謂フニ基ク行爲ヲ許セサ  
ル規定ナリ緊急狀態トハ自己又ハ他人ノ權利(名譽ヲ除ク)ニ對スル現在ノ危  
難ヲ避クル爲メ己ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ナリ彼ノ正當防衛ハ不正  
ノ侵害ヲ反撃スル行爲ニシテ之レハ現在ノ危難ヲ避クル行爲ナリ其區別ヲ  
舉クレハ左ノ如シ

(イ) 正當防衛ハ各人ノ自存自衛ノ爲メニスル權利ナルモ緊急狀態ハ權利ニ  
アラスシテ其行爲ヲ放任シテ處罰セスト謂フニ過キス



(ロ) 正當防衛ハ不正ノ侵害ナルヲ以テ人ニ對スルモノナルモ緊急状態ハ人

爲ト天災ヲ問ハス現在ノ危難ヲ避クル行爲ナリ

(ハ) 正當防衛ハ一切ノ權利ニ付キ之ヲ認ムルモ緊急状態ハ生命身体自由若

クハ財産ニ限ルモノトス

第四九

緊急状態ハ各人ノ權利兩立スルヲ得サル場合ニ何レカ一ノ權利ヲ犧

牲ニ供スルトキニ生ス例ハ航海上難船シ一片ノ板幸フシテ一人ヲ載スル

ニ足ルキ二人以上之ヲ争ヒ遂ニ腕力勝レル者カ他ノ者ヲ海中ニ突キ放テ生

存シタル如キ或ハ甲者乙者ヲ脅迫シ丙者ノ家屋ニ放火セサレハ汝ヲ立トコ

ロニ殺サント迫マリ乙者ハ止ムヲ得ス放火シ以テ甲者ノ加フル危害ヲ避ケ

タル如キ之レナリ故ニ其危難ヲ避クル方法他ニ存在シタルキハ之ヲ認メス

例ハ自ラ危難ノ地ニ入り之ヲ避クル爲メニ他人ヲ殺傷スル如キ或ハ前第

二ノ例ニ於テ乙者ハ甲者ノ脅迫ヲ受クルモ時間ニ餘裕アリ相當官憲ノ保護

ヲ請求スルヲ得ルニ拘ハラス容易ク放火シタル如キ之レナリ要スルニ現在

ノ危険切迫シ他人ノ權利ヲ侵害スルノ外他ニ之ヲ避クルノ方法手段一モ之

レナク萬己ムヲ得サル場合ニ限ルモノトス之レ正當防衛ト異ナリ名譽權ノ  
侵害ニ對シテ之ヲ許ササル所以ナリ

第五〇

右述フル場合ニハ緊急状態トシテ其行爲ヲ無罪トスルモ其避ケンカ

爲メニ加ヘタル害ハ危難ヲ受ケタル害ノ程度ヲ超過セサルヲ要スルモノト

ス何トナレハ自己ノ小ナル權利ヲ保護スルカ爲メニ他人ノ大ナル權利ヲ侵

害スルカ如キハ事理ノ許ササル處却ツテ弊害ノ伴フヘキヲ以テナリ故ニ財

産上ノ損害ヲ受クルカ爲メニ人ヲ殺傷スル如キハ本條ノ認容セサル處ナリ

トス(正當防衛ト異ナル點注意スヘシ)

第五一

特別ノ職務ヲ有スル者即チ船長船員警察官消防夫等ハ難破船火災等

ノ際ハ危險ヲ冒シテ之ヲ救援スルノ義務ヲ有ス之レ等ノ者カ其災害ニ當リ

自己ノ危險ヲ避クル爲メ他人ヲ殺傷スル如キハ職務ノ神聖ヲ無視スルモノ

固トヨリ本條ヲ適用スヘキモノニアラス之レ第二項ノ規定アル所以ナリ

第三十八條「罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス」

「罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス」



「法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得」

**第五二** 本條ハ犯意ナキ行爲ヲ罪トセサル規定ナリ犯意ノ如何ナルモノナルヤハ本章ノ初メニ於テ説明シタル處ナリ即チ犯罪事實ヲ認識シテ或ル動作ヲ行フ決心ナリ犯意ニ出テサル行動ハ犯罪ニアラス抑モ人ハ行爲ノ是非善惡ヲ識別シ之ヲ行フト行ハサルトノ自由ヲ有スルモ時ニ或ハ罪ヲ犯スノ意思ナクシテ刑罰法令ニ觸ルルコトアリ如斯者ヲ罰スルハ刑法ノ目的ニ反ス意思ト行爲ト連結スル場合ニ限り罪トスルヲ刑法ノ原則ナリトス例ハ夜間自己ノ下駄ナリト信シテ友人ノ下駄ヲ履キ歸ルカ如キ或ハ他人ノ帽子ヲ自己ノ帽子ト信シテ持チ歸ルカ如キ或ハ處女ト信シテ有夫ノ婦ヲ姦スルカ如ク罪ヲ犯ス意思ナキ者ハ客觀的ニハ犯罪タル如キモ意思ト行爲ノ連鎖ヲ缺キ初メヨリ犯意ヲ以テ實行スルモノトハ其心情ニ於テ全ク異ナリ之ヲ罰スルハ事理ニ反スルヲ以テナリ

**第五三** 過失ニ基ク行爲ハ犯意ナキモノナルヲ以テ之ヲ罰セサルヲ原則トス之レヲ罰スル場合ハ特ニ明文ヲ設ケヨリ例ハ過失傷害ノ如キ重大ナル結果ヲ生スルモノハ犯意ナキモ十分ナル注意ヲ拂ハサリシト云フ點ニ付テ相當ノ責任ヲ科スヘキモノナリ各本條ニ付テ之ヲ知ルヘシ

**第五四** 罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ重キ罪ニ對シテハ犯意ナキ者ナルヲ以テ其重キニ依リテ處罰スルヲ得ス例ハ殺人罪ヲ犯スニ當リ自己ノ父母タルヲ知ラスシテ殺シタルトキハ重キ殺親罪ノ規定ニ依ラスシテ普通ノ殺人罪トシテ處罰スルカ如シ

**第五五** 犯意ナキ行爲カ罪トナラサルハ犯罪事實ニ關スル場合ニ限ル故ニ法律ヲ知ラサルヲ以テ無責任ト爲スヲ得サルナリ例ハ有夫ノ婦ト通スルモ之レヲ罰スルモノニアラスト信スルカ如キ或ハ要塞内ニ於テ狩獵ヲ行フモ差支ヘナシト信スルカ如キ之レ法律ヲ知ラサルモノナルヲ以テ無罪トスヘキモノニアラス一層之レヲ適切ニ説明セハ有夫姦ハ法律ノ禁スル處ナルモ處女ト通スルハ禁セザル處ナリ故ニ有夫ノ婦タルコトヲ知ラス處女ト信シテ有夫ノ婦ト通スルハ之レ罪トナルヘキ事實ヲ知ラサルモノナリ然レトモ



有夫ノ婦ト通スルモ法律上罪トナルヘキモノニアラスト信シテ通スルハ之  
 ノ法律ヲ知ラサルモノナリ混同セサルヲ要ス斯ノ如ク法律ヲ知ラサル者ニ  
 尙刑事上ノ責任ヲ科スルハ人情ニ適セサルカ如キモ法律ハ一度公布實施シ  
 タル以上ハ何人モ之レヲ知ルモノト推定シ實際ニ於テ知ルト否トニ關セス  
 一様ニ適用セカレハ知ラサルヲ理由トシ法ヲ免ガレントスル者ヲ生シ法律  
 ノ目的ヲ達スル能ハサルニ至ラントス之レ各國刑法ノ等シク採用スル原則  
 ナリ然レトモ事實上新法ノ公布ヲ知ルコト不可能ノ地位ニ在リシ者ノ如キ  
 ハ裁判官ニ於テ其情狀ヲ酌量シ刑ヲ減輕スルコトヲ得ヘシトシ以テ其缺點  
 ヲ補足セリ

第三十九條「心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス」

「心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス」

第四十條「瘡腫者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス」

第四十一條「十四歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス」

第五六 第三十九條ハ心神喪失者ノ行爲ヲ罰セサル規定同條第二項ハ心神耗

弱者ノ行爲ハ刑ヲ減輕スルコトノ規定ナリ心神喪失者トハ知覺精神ノ機能  
 ナ喪失シ行爲ノ辨別力ナキ者ノ謂ヒニシテ心神耗弱者トハ全ク辨別力ナキ  
 ニ非サルモ心神機能ニ異狀アリ時々發作シ又ハ老耄者ノ如ク通常人ニ比シ  
 精神作用ノ不健全ナル者ヲ謂フ心神喪失ノ原因ニハ先天的ノモノアリ後天  
 的ノモノアリ即チ生レナカラ精神機能發達セサル者(白痴ノ如シ)及ヒ生後疾  
 病其他ノ原因ニ因リ喪失シタル者(瘋癲ノ如シ)其他一時心神ヲ喪失スル者ア  
 リ(酒狂ノ如シ)之等ノ者ノ行爲ハ意識作用ヲ缺クモノナルヲ以テ刑事上民事  
 上無責任タルコトハ各國法律トモ認ムル所ナリ只一時發作者特ニ酒狂者  
 ノ責任ニ付キテハ議論一定セス彼ノ罪ヲ犯サンカ爲メニ酒氣ヲ借リテ決行  
 スル如キ却リテ之レヲ重ク罰スヘシトノ論アリ然レトモ這ハ事實問題ニ屬  
 スヘシ犯行ノ當時飲酒ノ爲メ全ク心神喪失ノ狀態ニ陥リ行爲ノ辨別力ナカ  
 リシコトノ確實ナル以上ハ之レヲ罰スルヲ得サルヘシ反之酒氣ニ乘シテ決  
 行スル如キハ辨別力ナキモノト云フヲ得サルヤ勿論ナリ又夢中行爲迷心行  
 爲ト稱スルモノアリ夢中行爲トハ睡眠中夢ニ幻惑シテ不知不識ノ裡ニ或動



作ヲ爲シ醒ムレハ彷彿トシテ認識セサルモノナリ夢中突然起テ傍人ヲ殺傷スル如キ例ハ稀ニ見ル所ナリ迷心行爲ハ愚夫愚婦ノ輩カ精神病者ニ對シ狐狸ノ憑ル所ト信シ神佛ノ加護ニ依リテ之ヲ驅逐スルト稱シ或ハ監禁シ毆打シ或ハ腐敗物ヲ食セシメ其他種々ノ方法ヲ以テ遂ニ愛兒ヲ死ニ致スコト往々見ル所ナリ智識ノ淺薄ナル憐ムヘク其所爲頗ル殘酷ナルモノアリト雖トモ迷心ノ極一時ノ心神喪失ニ陥リタルコト明確ナルトキハ夢中行動ト共ニ刑法上犯罪ヲ構成スルモノニアラス然レトモ迷心者ヲ教唆シ又ハ迷心ニ陥ラシメテ如斯行爲ヲ行ハシメタル者ハ(祈禱者ノ如シ)有罪タルヤ勿論ナリ

**第五七** 心神耗弱者ハ一部ノ意識作用ヲ有スルモノナルヲ以テ全ク無責任トスルノ理由ナシ故ニ其刑ヲ減輕スルコトト爲シタリ

**第五八** 瘖啞者トハ瘖ニシテ且啞ナル者ノ謂ヒナリ而シテ先天的ノ瘖啞者ハ知能發達スル能ハサルモ後天的ノ瘖啞者ハ其時期ニ依リ事理ヲ解スル者アリ殊ニ科學ノ進歩ニ從ヒ多少ノ智識ヲ注入シ行爲ノ是非善惡ヲ意識スルヲ得

ルモノアルヲ以テ犯人ノ智能ニ應シ或ハ之ヲ罰セサルモノトシ或ハ罰シテ減輕ヲ與フルモノトニ區別シタリ

**第五九** 第四十一條ハ幼年者ノ行爲ヲ罰セサルノ規定ナリ而シテ責任年齡ヲ幾歲トスルヤニ付テハ各國刑法トモ一定セス舊刑法及獨逸刑法ハ十二歲ニシテ佛蘭西白耳義刑法ハ十六歲ナリ新刑法ニ於テハ十四歲ト爲シタリ即チ十四歲未滿ノ者ハ心身ノ發育十分ナラス行爲ノ是非辨別力ナク刑事上ノ責任ヲ負ハシムルハ害アリテ益ナシト認メタルモノナリ而シテ幼年者中ニハ拘兇ノ如ク一部ノ犯罪能力頗ル發達シ性質不良ノモノアリ之レ等ハ感化院ニ收容スル等行政處分ニ因リテ國家ハ不良少年ノ陶冶策ヲ講スヘキモノナリ

第四十二條「罪ヲ犯シ未ダ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得」

「告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ」

**第六〇** 本條ハ自首減輕ヲ定メタルモノナリ其要件左ノ如シ

(イ) 犯罪ノ未ダ發覺セサルコトヲ要ス未ダ發覺セストハ犯罪事實ノ發覺セ



ナルトキハ勿論犯罪事實ハ既ニ發覺スルモ犯人ノ明カナラサル間チ云フ或ハ犯罪事實ノ發覺スル以上ハ犯人ノ分明ナラサルトキト雖モ最早自首ノ効ナシト云フ論者アルモ吾人ハ自首減輕ヲ與フルハ捜査ノ手數ヲ省キ無辜ヲ冤枉ニ泣カシムル如キ弊ヲ避クル爲メ之ヲ獎勵スル法意ナリト信スルヲ以テ假令犯罪事實ハ官ニ發覺シ捜査ノ手續中ナルモ未タ犯人ノ何某タルコト判明セサル内ニ自首シタルトキハ減輕ヲ與フヘキモノト信ス之レ刑事訴訟法ニ於ケル現行犯ノ發覺トハ其意味ヲ異ニスル所以ナリ

(ロ) 自ラ犯罪事實ヲ申告スルコトヲ要ス自カラ申告ストハ推問ヲ受ケスシテ任意ニ陳述スルヲ云フ相當官吏ノ尋問ヲ受ケテ陳述スルハ自首ニアラスシテ之レ自白ナリ

(ハ) 相當官憲ニ自首スルコトヲ要ス相當官憲トハ犯罪捜査ノ職權ヲ有スル官署ナリ檢察及司法警察官陸軍ニ於テハ陸軍檢察官ナリ巡查又ハ憲兵卒ハ司法警察官又ハ陸軍檢察官ニアラスト雖トモ補助機關タルヲ以テ

之ニ對スル自首ハ其効アリト解ス親告罪ニ付キテハ告訴權ヲ有スル者ニ首服スルハ官憲ニ首出スルト同一ノ効力ヲ與ヘタリ親告罪トハ被害者又ハ其他ノ者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スヘキ罪ナリ姦通罪秘密ヲ侵ス罪親族相盜罪等各本條ニ特ニ明示セリ

第六一 舊刑法ニ於テハ謀殺故殺罪ニ付キテハ自首スルモ減輕ヲ與ヘカリシカ新刑法ニ於テハ一般ノ犯罪ニ對シ減輕シ得ルコトトシ一ニ裁判官ノ裁量ニ委シタリ故ニ必ラスシモ自首ニ因リ減輕ヲ得ヘキモノニアラス其犯情ニ因ルヘキモノトス

### 第八章 未遂罪

第四十三條「犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス」

第四十四條「未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム」

第六二 本條ハ未遂罪ニ關スル規定ナリ凡ソ一罪ノ成立ニハ數個ノ階級アリ



内部精神作用ニ屬スルモノハ(一)犯罪ノ發意ニシテ罪ヲ犯ホシテ欲スル發端ナリ吾人ハ外界ノ事情ニ刺激セラレ種々ノ慾望ヲ生スヘシ此ノ慾望ハ良心ト相反抗シ利慾ノ邪念打テ勝テハ遂ニ(二)犯罪ノ決心トナル即チ如何ナル方法ニ依リテ如何ナル罪ヲ犯サンカノ決心ナリ此ノ決心ニシテ一定セハ外部ニ表現シ(三)犯罪ノ豫備行為トナル豫備トハ犯罪ノ實行ニ要スル諸般ノ準備行為ナリ即チ犯意ニ從ヒ犯罪供用ノ器具ヲ買ヒ入レ機會ノ到ルヲ窺フ等之ヲナリ此ノ豫備行為ヲ終レハ(四)犯罪ノ著手トナル著手トハ犯サント欲スル罪ノ成立要素ニ接追シ犯意ノ遂行カ明白トナリタル時機ヲ云フ著手行為ニ一歩ヲ進ムレハ(五)犯罪ノ實行トナル實行トハ犯罪構成要素ノ全部又ハ一部ヲ實施スルユト云フ例ヘハ人ヲ殺サント欲シテ一刀ヲ振り上ケタルハ殺人罪ノ著手ニシテ其刀ヲ被害者ニ加ヘタルハ實行ナリ又窃取ノ意思ヲ以テ人ノ所有物ニ手ヲ觸レントシタルハ竊盜罪ノ著手ニシテ之ヲ握持スルハ即チ實行ナリ而シテ犯罪ノ發意及ヒ決心ハ法律上之ヲ罰セサルチ原則トス之ヲ精神作用ニ屬スルモノハ之ヲ證明スルユト困難ナルト且表現セサルチ以

テ社會ニ實害尠ケレハナリ此ノ例外タルハ内亂罪ノ陰謀ナリ陰謀トハ二人以上ノ間ニ於ケル犯意ノ通謀ナリ内亂罪ハ國家ノ自存權ヲ侵害セントスル重大ノ犯罪ナルチ以テ陰謀ト雖トモ之ヲ罰スル必要アレハナリ豫備行為モ之ヲ罰セサルチ原則トス何トナレハ殺人ノ目的ヲ以テ刀ヲ買入レタリトスルモ殺人罪ヨリ之ヲ見レハ間接ノ行為ニシテ之ヲ證明スルユト頗ル困難ニシテ犯意ヲ罰セサルト略同一理由アルチ以テナリ而シテ特ニ罰スルチ要スル場合ハ内亂罪ノ如ク特別ノ規定ヲ設ケタリ

**第六三** 未遂罪ハ犯罪ノ目的ヲ遂ケサルトキ成立スルモノナリ此ノ遂ケサル状態ニ依リ學說上未遂犯中止犯不能犯ノ三ヲ生ス之ヲ左ニ説明スヘシ

(イ) 未遂犯 未遂犯ヲ更ニ二分ナリ著手未遂犯トシ一チ實行未遂犯ト云フ著手未遂犯トハ犯人カ豫備行為ヨリ進ンテ犯罪構成要素ニ密接ノ行為ヲ爲シタルモ意外ノ障礙ニ因リテ實行ニ至ラサル場合ヲ云フ而シテ如何ナル行為アレハ著手行為アリト謂ヒ得ヘキカハ各犯罪ノ構成要素ヲ分析シテ知ラサルヘカラス例ヘハ竊盜罪ハ他人ノ動産タルユト及



ヒ之ヲ窃取スルコトノ二條件ヲ要スルヲ以テ窃取行為ニ著手シテ遂ケ  
 カルトキ窃盜未遂罪成立ス又強盜罪ハ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘテ他人ノ動  
 産ヲ奪取スルニ因リテ成立ス故ニ暴行又ハ脅迫ハ一要素ナリ依リテ強  
 盜ノ決意ヲ以テ脅迫行為ニ著手シ其目的ヲ遂ケカレハ強盜未遂罪成立  
 スルカ如シ實行未遂犯トハ犯罪構成要素ノ全部又ハ一部ヲ實施シタル  
 モ意外ノ障礙ニ因リ其目的ヲ遂ケサル場合ヲ云フ(其遂ケサリシ結果ヨ  
 リ見テ之ヲ闕効犯トモ稱ス)即チ人ヲ毒殺セント欲シテ毒藥ヲ備メタル  
 モ分量不足ノ爲メ死ニ至ラザリシカ如シ此ノ二ノ未遂犯ハ何レモ本條  
 ニ所謂犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ云々ノ中ニ包含セラル而  
 シテ陰謀又ハ豫備ト異ナリ之ヲ罰スルハ危險ニシテ實害ノ伴フ恐レア  
 ルヲ以テナリ然レトモ既遂犯ニ比シ其害輕少ナルヘキヲ以テ犯情ニ因  
 リ減輕シ得ヘキコトト爲シタリ

(ロ) 中止犯トハ犯罪ノ實行ニ著手シタルモ犯人自己ノ意思ニ因リ  
 之ヲ中止シテ結果ノ發生ヲ防止シタルヲ謂フ其中止ノ原因ハ之ヲ問ハ

ス悔悟ニ出ツルモ又ハ再舉ヲ計ルニ因ルモ中止シタル罪ニ付キテハ等  
 シク中止犯タルヘシ然レトモ意外ノ障礙ニ因リ止ムヲ得ス中止シタル  
 ハ之レ未遂犯ニシテ中止犯ニアラス例ヘハ人ヲ殺サントシテ一刀ヲ振  
 リ上ケタルモ側隱ノ情ヲ惹起シ其刀ヲ振り下サザリシ如キハ中止犯ナ  
 ルモ人ノ來ル足音ニ驚キ恐怖シテ刀ヲ加ヘザリシハ著手未遂犯タルヘ  
 シ而シテ中止犯ハ法律上刑ヲ減輕又ハ免除スヘキモノト規定シタリ之  
 ノ衷心悔悟シテ中止シタル場合ニハ刑ヲ科スル必要ナキモ再舉ヲ計リ  
 テ一時中止シタルカ如キハ未遂犯ト異ナル所ナク相當ノ制裁ヲ加フル  
 必要ヲ認メタルニ因ル

(ハ) 不能犯トハ犯罪行為ヲ實施スルモ手段又ハ目的上ノ不能ニ因  
 リ犯人ノ豫期シタル犯罪成立セサルヲ謂フ之ヲ目的上ノ不能犯ト方法  
 上手段ノ不能犯トニ分説スヘシ

(甲) 目的上ノ不能犯ハ之ヲ絕對的不能ト相對的不能トニ分ツ

(一) 目的上ノ絕對的不能犯トハ犯罪實行當時犯罪ノ目的物存在セサル



場合ヲ謂フ例ハ暗夜人ナリト信シテ石地像ヲ斬リタルカ如シ  
 目的上ノ相對的不能犯トハ目的物存在スルモ到底其目的ヲ達スル  
 ナ得サル場合ヲ謂フ例ハ人ヲ殺サント欲シテ其居室ニ發砲シタ  
 ルニ偶々不在ナリシカ如シ

(乙) 方法上ノ不能犯モ亦之ヲ絕對的不能ト相對的不能トニ分ツ

(一) 方法上ノ絕對的不能犯トハ犯罪ノ實行方法カ其性質上目的ヲ達ス  
 ル能ハサルモノヲ云フ例ハ毒藥ナリト信シテ砂糖ヲ服用セシム  
 ルカ如キ又ハ空砲ヲ以テ人ヲ銃殺セント爲シタルカ如シ

(二) 方法上ノ相對的不能犯トハ犯人カ實行シタル方法ハ其性質ニ於テ  
 可能ナルモ手段ノ拙劣ナルカ爲メ其目的ヲ達スル能ハサルヲ云フ  
 例ハ毒藥ノ分量ヲ誤リタルカ爲メ致死ノ結果ヲ生セス又ハ狙撃  
 シタルモ命中ヲ誤リタルカ如シ

右ハ不能犯ノ生スヘキ場合ノ説明ナリ而シテ之ヲ罰スヘキモノナルヤ否ヤ  
 ニ付テハ學者實際家ニ區々ノ議論アルモ要スルニ絕對的不能犯ハ目的上ト

方法上トニ拘ハラズ之ヲ行フモ絕對ニ犯罪行爲ヲ遂クル能ハス單ニ犯意ノ  
 表示ニ過キカルヲ以テ之ヲ處罰スルヲ得サルモノトス然レトモ相對的不能  
 犯ハ目的方法トモ性質上犯罪ヲ遂ケ得ヘキモノニシテ單ニ犯人ノ用意周到  
 ナラス手段拙劣ナリシカ爲メ其目的ヲ達セサリシニ過キス故ニ犯罪ノ實行  
 ニ著手シタルモ意外ノ障礙ニ因リテ之ヲ遂ケサリシモノ即チ純然タル未遂  
 犯ト謂ハサルヘカラス依リテ絕對的不能犯ハ之ヲ罰セス相對的不能犯ハ之  
 ヲ罰ストノ結論ヲ生ス

第六四 未遂犯ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム舊刑法ニ於テハ重罪ノ  
 未遂犯ハ必ラス之ヲ罰シ輕罪ニ付キテハ特ニ之ヲ定メシカ新刑法ニ於テハ  
 罰スヘキ未遂犯ハ各本條ニ規定シ而シテ其刑ヲ減刑スルコトヲ得ルモノト  
 爲シタリ

### 第九章 併合罪

第四十五條「確定裁判ヲ經カル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止



タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス」

第四十六條「併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此ノ限ニ在ラス」

「其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス」

第四十七條「併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪

ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス」

第四十八條「罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス」

「二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス」

第四十九條「併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖トモ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得」

「二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス」

第六五 併合罪トハ確定判決以前ノ數罪ヲ合シテ一箇ノ刑罰ヲ科スルコトヲ謂

フ。舊刑法ニ所謂數罪俱發ト稱セシモノニシテ二罪以上同時ニ併發シタル場合ナリ故ニ併合罪ハ各犯罪個々獨立シテ存在シ一犯罪ノ内容ヲ爲スモノニハ在ラサルナリ而シテ併合罪ニハ學說上實體上ノ併合罪ト想像上ノ併合罪ト別アリ實體上ノ併合罪トハ多數ノ獨立シタル行為カ各犯罪ヲ構成スル場合ヲ謂ヒ想像上ノ併合罪トハ一個ノ行為又ハ之ニ牽連シタル行為カ多數ノ犯罪ヲ構成スヘキ要素ヲ含ミタル場合ヲ謂フ

第六六 併合罪ヲ如何ニ處分スヘキヤニ付キテハ各國立法例其主義一定セス

即チ(イ)數罪中最モ重キ一ノ所爲ニ對シテ刑ヲ科シ他ハ之ヲ不問ニ附スルモノ吸收主義ト稱シ佛國刑法及ヒ我舊刑法ノ採リタル主義ナリ(ロ)反之罪アリハ一罪ヲ科スル主義ヲ貫キ數罪共ニ之ヲ罰スルモノ併科主義ト稱シブラシル國刑法ノ採用スル所ナリ(ハ)以上二主義ハ共ニ極端ニ馳セ寬嚴宜シキヲ得ス依テ或ル制限ノ下ニ二主義ヲ折衷シ或ル罪ニ付キテハ併科シ又ハ併科セサルモノトス我新刑法及ヒ獨逸白耳義ノ刑法ニ採用スル所ニシテ之ヲ折衷主義或ハ制限併科主義ト謂フ



**第六七** 第四十五條ハ併合罪ノ定義ヲ下シタルモノニシテ第四十六條ハ死刑及無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處スルトキハ沒收ヲ除クノ外他ノ刑ヲ科セサルコトヲ定メ第四十七條ハ併合罪ニシテ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處スヘキ罪アルトキ加重スヘキ極度ヲ定メテ最モ重キ刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トスヘシト定メ第四十八條ハ罰金刑ト他ノ刑トハ之ヲ併科スルノ規定ニシテ第四十九條ハ沒收ハ常ニ併科スヘキコトヲ定メタルモノトス

**第五十條**「併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經タル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付處斷ス」

**第五十一條**「併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行スヘキトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行スヘキトキハ罰金、科料及沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス」

**第五十二條**「併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム」

**第六八** 第五十條ハ併合罪中一個ノ犯罪ハ既ニ裁判ヲ經タルモ他ニ裁判ヲ經サル罪アルトキハ經サルモノニ付キ更ニ併合罪ノ規定ニ從ヒ判決ヲ爲スヘキ規定ニシテ第五十一條ハ併合罪ノ刑ノ執行方法ニ關スル規定ナリ即チ併科主義ヲ採用シタル結果二個以上ノ裁判アリタルトキハ併セテ之ヲ執行スヘキモノトシタリ然レトモ制限併科主義ヲ採用シタル結果死刑及無期刑ニ處セラレタル者ハ性質上併科主義ヲ貫ク能ハス故ニ之ヲ例外トシ又<sup>○</sup>有<sup>○</sup>期<sup>○</sup>刑<sup>○</sup>ハ<sup>○</sup>各<sup>○</sup>刑<sup>○</sup>期<sup>○</sup>ヲ<sup>○</sup>合<sup>○</sup>算<sup>○</sup>シ<sup>○</sup>テ<sup>○</sup>最<sup>○</sup>モ<sup>○</sup>重<sup>○</sup>キ<sup>○</sup>罪<sup>○</sup>ノ<sup>○</sup>刑<sup>○</sup>期<sup>○</sup>ニ<sup>○</sup>半<sup>○</sup>ヲ<sup>○</sup>加<sup>○</sup>ヘ<sup>○</sup>タル<sup>○</sup>モノ<sup>○</sup>ニ<sup>○</sup>超<sup>○</sup>過<sup>○</sup>ス<sup>○</sup>ル<sup>○</sup>コト<sup>○</sup>ヲ<sup>○</sup>許<sup>○</sup>サ<sup>○</sup>ス<sup>○</sup>ト<sup>○</sup>シ<sup>○</sup>タ<sup>○</sup>リ

**第六九** 併合罪中或罪ノミ大赦ヲ受ケタルトキハ其罪ハ全ク消滅ニ歸スルモ他ノ犯罪事實ハ依然存在スルヲ以テ此ノ罪ニ付キテハ更ニ裁判ヲ爲スヘキ必要アリ之レ第五十二條ノ規定アル所以ナリ

**第五十三條**「拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ場合ハ此限りニ在ラス」

「二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス」

**第五十四條**「一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ



他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス」

「第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス」

第五十五條「連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス」

第七〇 凡ソ或ル行爲カ一罪ナルヤ數罪ナルヤノ區別ヲ立ツル標準ニ至リテハ學者ノ說一定セサル所ナリ依テ新刑法ハ明文ヲ設ケテ疑義ヲ避ケタリ即チ第五十四條ニ一罪ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷スト規定シ學者ノ所謂想像上ノ數罪ニ付キテ定義ヲ與ヘ併セテ此ノ處分方ヲ定メタリ而シテ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルトハ例ヘハ一發ノ彈丸人ヲ殺シ器物ヲ毀ツカ如ク又犯罪ノ手段又ハ結果カ他ノ罪名ニ觸ルルトハ詐欺取財罪ノ手段トシタル文書偽造行爲又ハ竊盜罪ノ贓物ヲ販賣スルカ如シ之等ノ所爲ハ其刑ヲ併科スルハ穩當ニアラサルヲ以テ其罪名中最モ重キ罪ニ付キ刑ヲ科スルコトト爲シタリ之レ併科主義ノ例外ナリトス但沒收ハ之ヲ併科スヘキヤ勿論ナリ

第七一 第五十五條ハ學者ノ所謂連續犯ニ關スル規定ナリ即チ連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪ニ觸ルルトキハ之ヲ一罪トスヘキモノナリ例ヘハ一倉庫内ノ米百俵ヲ竊取セント欲シ毎日或ハ隔日ニ十俵ツツ持出シタルカ如シ事實上數個ノ行爲ナルモ法律上竊盜ノ一罪タリ其他姦通罪ノ如キモ性質上連續犯タルヘシ

### 第十章 累犯

第五十六條「懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處スヘキトキハ之ヲ再犯トス」

「懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處スヘキトキ亦同シ」

「併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付キテハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス」



第五十七條 「再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス」

第五十八條 「裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム」

「懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付キテハ前項ノ規定ヲ適用セス」

第五十九條 「三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ」

第七二 本章ハ累犯ニ關スル規定ナリ累犯トハ前ニ一罪ヲ犯シ其確定ノ判決ヲ受ケタル後再ヒ罪ヲ犯スコトヲ云フ再犯三犯以上ヲ總稱スルノ語ナリ併合罪ト異ナルハ彼レハ確定判決ヲ經サル以前ニ數罪ヲ犯スモノニシテ之レハ確定判決後更ニ罪ヲ犯スノ差アリ

第七三 累犯ハ初犯ニ比シ刑ヲ加重スルヲ原則トス抑モ刑法ノ目的ハ社會ヨリ犯罪ヲ驅逐シ撲滅ヲ企圖スルモノナルモ世ニ盜賊ノ跡ヲ絶タサル諺ノ如ク到底不良分子ヲ杜絶スルコトヲ得ス却リテ累犯ノ數ハ逐年増加シ監獄ハ恰モ犯罪學校タルノ觀アリ故ニ再犯防遏ハ當局者及ヒ刑事社會學者等ノ最

モ苦心シテ匡救策ヲ講スル所ナリ而シテ各國立法ノ採ル所ハ刑ヲ加重スルニアリ而シテ如何ナル程度ニ加重スルヤ舊刑法ニ於テハ初犯ノ刑ニ一等ヲ加ヘタルニ過キサルヲ以テ甚ダ輕キニ失シ刑ノ威力薄弱ニシテ再犯者續出シタルヲ以テ新刑法ニ於テハ長期ノ二倍以下ヲ科スルコトヲ爲シタリ依テ窃盜罪ノ如キ加重ノ結果二十年ニ至ルコトヲ得奸惡ノ徒ト雖モ以テ懲伏スルニ足ルヘシ

第七四 累犯ヲ加重スルハ前ニ一度懲役ノ刑ヲ受ケタルニ拘ハラス之レニ懲リスシテ再ヒ同一刑ニ當ル罪ヲ犯スニ依リ人格不良ト認メ特ニ重ク處罰スルモノナリ故ニ累犯トシテ刑ヲ加重スルニハ左ノ條件ヲ要ス

(イ) 初犯ノ判決確定シ其刑ノ執行終リ又ハ執行免除アリタル日ヨリ五年内ニ再ヒ罪ヲ犯シタルコト

(ロ) 前犯罪ト同一刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタルコト即チ初犯懲役ノ刑ニ處セラレタルモノ再ヒ懲役ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタルコトヲ要ス故ニ初犯ノ罪禁錮罰金拘留科料ノ刑ニ處セラレタル者再犯ノ罪カ懲役ニ當ル



トキハ之ヲ加重セサルモノトス

第七五 第五十八條ハ裁判ヲ受クル當時累犯加重ヲ免カレシカ爲メ前犯アルコトヲ隠蔽シ初犯トシテ判決ヲ受ケタル後再犯者タルコトヲ發見セラレタルトキハ不問ニ附セスシテ更ニ加重スヘキ刑ヲ定ムルコトトシ以テ前科ヲ包ムノ弊ヲ除キタリ然レトモ既ニ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除ヲ受ケタルトキハ之ヲ追窮セサルコトト爲シタリ

### 第十一章 共 犯

第六十條「二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス」

第七六 共犯ノ觀念共犯トハ二人以上共同シテ一犯罪ニ加功スルヲ謂フ即チ二人以上ノ力ニ因リテ一犯罪ヲ成立セシムルモノナリ而シテ共犯人中各自任務ノ分擔ニ從ヒ犯罪成立ニ必要ナル行爲即チ實行行爲ヲ加擔シタル者ヲ正犯ト云ヒ犯罪行爲ヲ容易ナラシメタル者ヲ從犯ト云ヒ又人ヲ使喚シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ヲ教唆者ト謂フ本條ハ即チ正犯ニ關スル規定ナリ舊

刑法ニ於テハ二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯トシ各自ニ其刑ヲ科スル規定シタルモ新刑法ニ於テハ實行正犯タル以上ハ各自ニ刑ヲ科スルコトハ當然ナルヲ以テ之ヲ削除シ皆實行正犯トスル意義ヲ示スニ止メタリ左ニ正犯ノ要件ヲ説明スヘシ

(イ) 二人以上共同シタルコトヲ要ス共犯ハ二人以上ノ力ノ集合ニ因リテ一犯罪ヲ成立セシムルモノナルヲ以テ二人以上ヲ要スルヤ勿論ナリ而シテ何レモ他人ト共同加功ノ意思アルコトヲ要ス學者或ハ共犯ハ必ラス犯意ノ通謀アルコトヲ要スト説ク者アルモ吾人ハ相互ニ意思ノ連絡即チ他人ト共同犯罪ノ觀念アルヲ以テ十分ナリト信ス

(ロ) 共同正犯ハ實行ニ著手シタルコトヲ要ス著手ナキトキハ未ダ犯罪アリト謂フヲ得ス從テ正犯ナキナリ然レトモ著手シタルトキハ其目的ヲ遂ケサルモ著手未遂犯成立スルヲ以テ實行正犯トシテ責任ヲ負フヘシ條文ニハ犯罪ヲ實行シタル者トアリテ實行ヲ終リ目的ヲ達シタル場合ヲ指スカ如キモ然ラス實行ニ著手セハ其目的ヲ遂クルト否トニ拘ハラズ



正犯トシテ各自其行爲ノ結果ニ付キ責任ヲ生スヘシ反之豫備陰謀ニ付  
キテハ明文ナキ限り實行正犯ナキモノトス

**第七七** 責任無能力者又ハ犯意ナキ者ト共同シテ犯罪行爲ヲ爲シタルトキハ  
共犯ナルヤ否ヤハ學說ノ一定セサル所ナリ共犯ニ犯意ノ通謀ヲ要ストスル  
論者ハ之ヲ否定シ要セスト主張スル者ハ之ヲ肯定ス吾人ハ共犯ノ意思ハ他  
人ト共同シテ自己ノ犯罪行爲ヲ行フノ觀念アレハ足ルト信スルヲ以テ後説  
ニ從フ而シテ刑罰上ノ責任ハ各自ニ刑ヲ科スルモノナルヲ以テ責任能力及  
ヒ其他ノ規定ニ依リ共犯中或ハ不論罪タル者アルモ這ハ怪ムニ足ラス  
第六十一條「人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス」  
「教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ」

**第七八** 本條ハ人ヲ使喚シテ犯罪ヲ實行セシメタル者即チ教唆者ハ正犯ニ準  
シテ刑ヲ科スヘキコトヲ定メタルモツナリ教唆者ハ自己ノ犯意ヲ他人ニ注  
入シテ犯罪ヲ實行セシムル者ニシテ犯罪ノ原因ヲ爲スモノナリ之ヲ實行正  
犯ト同一視シ同等ノ刑ヲ科スルハ理ノ當然ナリ教唆ノ成立條件ヲ分説セハ

左ノ如シ

- (イ) 教唆ハ必ラス一定ノ犯罪ヲ指定シタルコトヲ要ス即チ教唆ハ特定ノ犯  
罪ヲ實行スヘキコトヲ示シ被教唆者ハ指示ニ應シテ其犯罪ヲ實行スル  
ニ因リテ成立ス故ニ竊盜ヲ教唆シタルニ被教唆者強盜又ハ殺人ヲ爲シ  
タルトキハ指定外ノ行爲ニ付キ責任ヲ負ハシムヘキニアラス反之強盜  
ヲ教唆シタルニ竊盜ヲ爲シタルトキハ強盜ニ付キテハ實行ナキヲ以テ  
責任ナク輕キ竊盜ニ對シテノミ教唆ノ責任アルモノトス  
被教唆者教唆ニ因ル犯罪ヲ實行シタルコトヲ要ス被教唆者犯意ノ注入  
ヲ受クルモ之ニ基キタル犯罪ヲ實行セサルトキハ正犯ナキヲ以テ教唆  
犯ノミ成立スルノ理由ナシ蓋シ教唆ハ實行正犯ニ犯意ヲ決定セシメタ  
ルニ因リテ目的ヲ達スルモ教唆行爲ハ正犯ノ實行ヲ俟ツテ社會ニ實害  
ヲ及ボスモノナルヲ以テ正犯ノ實行ナケレハ單ニ犯意ノ表示タルニ止  
マリ之ヲ罰スルノ必要ナキモノトス之レ教唆者ヲ罰スルハ正犯ノ犯罪  
實行ヲ條件トシタル所以ナリ
- (ロ)



**第七九** 教唆ノ教唆ハ罰スルヲ得ルヤ否ヤ舊刑法ニ於テハ明文ヲ缺キ學說區々タリシヲ以テ新刑法ニ於テハ本條第二項ヲ置キ之ヲ教唆者ト同シク罰スルコトト爲シタリ而シテ其範圍ハ教唆者ヲ直接ニ教唆シタル者ニ限ル即チ教唆者トシテ正犯ノ刑ヲ科スルハ實行正犯ニ對シ第一第二ノ教唆者ニシテ第三第四ノ教唆者ハ之ヲ罰セザルノ趣旨ナリト解スヘシ

**第六十二條**「正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス」

「從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス」

**第六十三條**「從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス」

**第六十四條**「拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非ラサレハ之ヲ罰セス」

**第八〇** 從犯ハ正犯ヲ幫助シテ其犯罪行為ヲ容易ナラシムル所爲ヲ謂フ故ニ其行為タルヤ犯罪ニ加擔スルモノナリト雖モ正犯ニ對スル影響輕微ナルモノナリ之レ實行正犯ト異ナル所ナリ舊刑法ニ於テハ從犯ノ行為ヲ規定シテ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シテ犯罪ヲ

容易ナラシムルモノトセリ然ルニ本法ニ於テハ其手段ヲ制限セザルヲ以テ如何ナル方法ニ因ルヲ問ハス正犯ヲ幫助スルモノハ總テ從犯ナリト謂フヘシ

**第八一** 從犯モ教唆犯ト同シク正犯ニ伴フモノナルヲ以テ正犯ノ犯罪成立セザレハ獨リ從犯ノミ存在スルノ理ナシ而シテ從犯ノ意思ハ正犯ノ罪ヲ犯スコトヲ知りテ之ヲ幫助スルノ意思アレハ足り正犯ト通謀スルヲ要セザルモノトス例ヘハ竊盜ノ用ニ供スル爲メ梯子ヲ貸與スルカ如シ

**第八二** 從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準シテ之ヲ罰ス然レトモ從犯ノ從犯ハ規定ナキヲ以テ罰スルヲ得サルモノト解ス

**第八三** 從犯ハ正犯ト主從ノ關係ニ立チ其犯情ニ於テ正犯ヨリ輕キヲ以テ其刑ハ正犯ヨリ減輕スヘキモノトス又拘留科料ノミニ處スル罪ハ輕微ナルヲ以テ之等ノ教唆及從犯ハ特ニ明文アルニ非サレハ罰セザルモノトスト規定セリ

**第六十五條**「犯人ノ身分ニ依リ構成ス可キ犯罪行為ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ



仍ホ共犯トス

「身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス」

第八四 舊刑法ニ於テハ犯罪ノ構成ニ特定ノ身分アルヲ要件トシタルトキ身分アル者ト之ヲ有セサル者トカ共ニ罪ヲ犯シタル場合ニ其身分ヲ有セサル者ノ處分ニ付キ規定ナカリシヲ以テ實際上種々ノ議論ヲ生シタリ例ハ官吏ト共謀シテ收賄罪ヲ犯シタル常人ノ如キ之レナリ依テ新刑法ニ於テハ本條ヲ以テ身分ナキ者ト雖モ共犯トシテ罰スヘキ規定トナシタリ元來單獨ニテハ犯ス能ハサル性質ノ罪ト雖モ數人ノ力ニ因リテ之ヲ犯シ得ル以上ハ其結果ニ付キ各個ニ全責任ヲ負擔スルハ之レ刑事責任ノ原則ナリ例ハ委託ヲ受ケタル物件ヲ横領スルニ受ケサル者カ共犯者中ニ在リトスルモ共犯人ノ一人カ受託者ニシテ其信用ニ背クコトヲ知リテ之ト共ニ横領シタルモノハ同シク横領罪ヲ以テ處罰スヘク又公務員ト結託シテ收賄シタル一私人ノ如キ之ヲ不問ニ附スヘキ理由ナシ依テ新刑法ニ於テハ之ヲ明カニ規定シタルナリ

第八五 然レトモ身分ニ因リ特ニ刑ニ輕重ノ差ヲ附シアルトキハ身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科スルコトトシタリ此ノ場合ハ特定ノ身分ヲ以テ刑ノ加重條件ト爲シタルモノナルヲ以テ身分ナキ者ニハ之ヲ及ボス必要ヲ認メサルニ依ル例ハ父祖ヲ殺害シタル子孫ハ普通殺人罪ニ比シ一層重キ刑ニ處セラルト雖モ之レト共ニ犯シタル身分ナキ他人ハ通常ノ殺人罪ニ問擬セラルルカ如シ

### 第十二章 酌量減刑

第六十六條 「犯罪ノ情狀憫諒ス可キ者ハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得」

第六十七條 「法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得」

第八六 本章ハ酌量減刑ヲ爲シ得ル規定ヲ定メタルモノナリ新刑法ハ舊刑法ニ比シ刑ノ範圍ヲ大ニ擴張シタルヲ以テ之ヲ應用スルトキハ能ク犯情ニ相當シタル刑ヲ科シ得ヘク毫モ遺憾ナキカ如シ然レトモ犯罪事實ハ千差萬別ナリ刑ノ最短期ヲ以テスルモ仍ホ其犯情ニ適セサル場合ナキヲ保セス之レ



情狀憫諒ス可キモノハ裁判官ノ認定ニ因リ刑ヲ減輕スルコトヲ得トシタル所以ナリ

### 第十三章 加減例

第六十八條「法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原因アルトキハ左ノ例ニ依ル」

- 一「死刑ヲ減輕スヘキトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス」
- 二「無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス」
- 三「有期懲役又ハ禁錮ヲ減輕スヘキトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス」
- 四「罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス」
- 五「拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス」
- 六「科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス」

第六十九條「法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス」

第七十條「懲役禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス」

「罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ」

第七十一條「酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及前條ノ例ニ依ル」

第七十二條「同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル」

- 一「再犯加重」
- 二「法律上ノ減輕」
- 三「併合罪ノ加重」
- 四「酌量減輕」

第八七 本章ハ加減例ノ規定ニシテ第六十八條ハ刑ヲ減輕ス可キ標準ヲ示シ

第六十九條ハ二個以上ノ本刑アルトキハ適用スヘキ刑ヲ定メテ後減輕スヘキコトヲ示シ第七十條ハ一日ニ滿タサル時間及ヒ一錢ニ滿タサル金額ヲ生シタルトキハ之ヲ除棄スヘキコトヲ定メ第七十一條ハ酌量減輕ノ場合ニモ第六十八條第七十條ニ依ルコトトシ第七十二條ハ同時ニ刑ヲ加重減輕スヘキトキノ順序ヲ示シタルモノナリ



## 第二編 罪

第一 本編ハ罪ニ關スル規定ニシテ犯罪ト刑罰トヲ定メタルモノナリ舊刑法ニ於テハ罪ヲ重罪輕罪違警罪ノ三ツニ區別シ又公益ニ關スル重罪輕罪及身體財產ニ對スル重罪輕罪トシ更ニ之ヲ第一章乃至第四十章ニ分類セシモ新刑法ニ於テハ重罪輕罪ノ區別ヲ無用トシテ之ヲ廢シ違警罪ニ關スル規定ハ命令ニ讓ルヲ至當ト認メテ之ヲ刑法ヨリ除外シ皇室ニ對スル罪ヲ首トシ法益ノ種類犯罪ノ性質ニ依リ順次各種ノ罪ヲ規定シ第一章ヨリ第四十章ニ分ナテ之ヲ排列セリ依テ法文ノ順序ニ從ヒ逐次説明ヲ試ムヘシ而シテ簡易明瞭ヲ主旨トシ難解ノ條ニ限り稍精細ノ解釋ヲ附シ其他ハ或ハ省略シ或ハ單簡ナル説明ニ止メントス

### 第一章 皇室ニ對スル罪

第七十三條「天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス」



第二 本條ハ大逆無道天地俱ニ容レサル危害罪ノ規定ナリ「危害ヲ加ヘ」トハ列記セル陛下殿下ノ玉體ニ對シ兇行ヲ加ヘ奉リタルコトヲ謂フ故ニ御生命ニ關セサル微傷ノ如キモ肉體ヲ害シ奉ラントスル行爲ハ總テ之ヲ包含スルモノトス「危害ヲ加ヘントシタル」トハ兇行ヲ爲サント欲シテ之ニ著手シタル場合ハ勿論其豫備陰謀ノ如キモ之ヲ包含スルモノト解ス要スルニ陛下殿下ノ御玉體ニ對シ奉リ腕力ヲ加ヘ奉ラントスル總テノ行爲ヲ含ムモノト解スヘキナリ

第三 天皇トハ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ我帝國ヲ統治シ給フ現皇帝陛下ヲ奉稱シ太皇太后トハ先々帝ノ皇后皇太后トハ先帝ノ皇后ヲ皇后トハ現帝ノ皇后ヲ奉稱シ皇太子トハ皇室典範ノ規定スル所ニ據リ皇儲ト決定セラレタル皇子ナリ皇太孫トハ皇太子ナキ場合ニ典範ニ據リ皇儲ト決定セラレタル皇孫ヲ奉稱スルノ敬語ナリトス

第四 條文ニ於テ列記シタル方々ニ限ル其他ノ皇族ニ對シ奉リテハ第七十五條ノ規定アルヲ以テ之ヲ含マス

第七十四條「天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ

三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス」

「神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ」

第五 本條ハ不敬罪ヲ定メタルモノナリ不敬トハ列記ノ陛下及殿下ノ尊嚴ヲ冒シ奉ル行爲ナリ罵詈訕笑誹毀等其手段ノ如何ヲ問ハサルモノナリ又其行爲ハ直接タルト間接タルトヲ問ハス苟クモ不敬ノ意思ニ出テ其行爲カ尊威ヲ汚シ奉ル性質ノモノハ總ヘテ之ヲ包含スト解スヘシ

第六 本條第二項ハ神宮又ハ皇陵ニ對スル不敬罪ニ關ス神宮トハ伊勢太神宮ヲ指シ皇陵トハ曆代天皇ノ御陵ヲ謂フ之レ神宮ハ皇祖天照皇太神ヲ祀リ皇陵ハ曆代天皇ノ御墳墓ニシテ靈域ノ神聖ヲ保チ奉ル必要上不敬ノ行爲アル者ヲ處罰スルコトト規定シタルナリ

第七 不敬ノ行爲ハ前述ノ如ク其手段方法ニ制限ナク極メテ廣汎ナルモノナルモ不敬ヲ加フルノ意思アルヲ要スルヤ論ナシ犯意ナキ行爲ヲ罰セサルハ刑法ノ原則ナリ無意犯ヲ罰スルハ特別ノ明文ヲ要ス然ルニ其明文ナキヲ以



テ不敬ノ意思ナキ行爲例ハ鳳箠ノ通過ニ會シ時事ヲ憤慨セル者カ聖鑒ヲ仰カント欲シ天顏ニ咫尺シ哀訴セント爲シタル如キハ不敬罪ヲ以テ罰スルハ法意ニアラスト信ス

第七十五條「皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス」

第七十六條「皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス」

第八 第七十五條ハ皇族ニ對スル危害罪第七十六條ハ不敬罪ニ關スル規定ナリ即チ一ハ御身體ニ對スル暴行チ一ハ名譽ノ毀損ヲ罰スルモノナリ第七十三條ト刑ニ多少ノ差異アルノニ意義ニ於テ異ナル所ナシ

### 第二章 内亂ニ關スル罪

第七十七條「政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス」

一「首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス」

二「謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸

般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス」

三「附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス」

「前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス」

第九 内亂罪ハ所謂國事犯ノ一ニシテ國憲ヲ侵害スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲スコトヲ謂フモノナリ國事犯ニハ内亂罪及外患罪ノ二アリ外患罪ハ次章ニ於テ規定ス内亂ノ目的トスル所ハ朝憲紊亂ニアリ政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シトハ其重ナル手段ノ例示ナリ即チ政治ノ組織ヲ變更シ元首ノ大權皇統ノ存廢其他立法司法行政ニ關スル國權ノ作用ヲ紛亂スルコトヲ目的トスルモノナリ之レ第八章騷擾罪ト其形式ニ於テ同シキカ如キモ性質上差異アル點ナリトス

第一〇 内亂罪ノ目的ハ前説明ノ如ク國家統治ノ秩序ヲ攪亂スルニアリ而シテ其手段ハ暴動ヲ爲スモノナリ暴動トハ多數ノ腕力即チ武力ヲ以テ其目的ヲ遂行セントシ抵抗ヲ排除スル實力ヲ具備シ國內ヲ騷亂スルコトヲ云フ暴



動ノ人員ハ何名以上ト云フ如ク員數ニ制限ナキモ我陸海軍ニ對スルニ足ル準備ヲ有スル團隊ニアラサレハ其目的ハ國權侵害ニアルモ其手段ニ於テ國內ヲ騷亂スルコト不能ト云ハサルヘカラス彼ノ西南役ノ如キハ内亂ノ好例ニシテ熊本神風連ノ如キハ地方ノ騷擾ニシテ内亂ノ程度ニ至ラサルモノト信ス

第一一 内亂罪ノ暴動ハ實力ヲ要スルヲ以テ其團隊ハ軍隊ノ如ク規律ナキモ又多少ノ秩序ヲ有スルコト勿論ナルヘシ故ニ内亂ニハ首領トシテ全體ノ指揮ヲ爲ス者即チ暴動ノ發起人トシテ其全權力ヲ有スル者一人又ハ數人アルヘシ之ヲ首魁ト稱ス其次位ニ立チテ一方ノ指揮ヲ爲シ或ハ謀議ニ參與シ劃策籌謀ヲ運ラス等重要ノ職務ニ當ル者アルヘシ又之レ等ノ指揮命令ヲ受ケ一部ノ長トナリ或ハ會計其他諸般ノ職ヲ執ル者アルヘシ又單ニ雷同附和シ一定ノ意見ナク盲從シ暴動隊ニ隨行スル多數ノ者アルヘキナリ依テ其刑ハ各身分地位ニ從ツテ輕重ノ區別ヲ爲シタリ

第一二 内亂ノ意義右ノ如クナルヲ以テ政府ノ施設ニ反對シ要路ノ大臣ヲ暗

殺シ自然政治ノ方針ニ變更ヲ生センコトヲ欲シ單身大臣ヲ殺傷スル行爲彼ノ島田一郎等カ大久保利通ヲ殺害シタル如キハ内亂ニアラスシテ純然タル殺人罪ナリトス終リニ注意スヘキハ本條ハ未遂ト雖モ仍ホ之ヲ罰スルコトナリ之レ内亂ハ國家ノ基礎ヲ危クスル重大ノ犯行ナレハナリ然トモ單ニ附和隨行シタル者ハ此限ニ非ストセリ

第一三 内亂罪ノ刑ハ死刑ヲ除クノ他何レモ禁錮ニ處シ定役ニ服セシメサルハ彼ノ破廉耻罪ノ如キ犯人ト異ナリ概シテ道義ノ觀念アリ時事ヲ憤慨シ政治上ノ意見ヲ異ニスルモ國家ヲ患フル衷心憫ム可キモノアリ其心情ニ於テ大ニ諒トス可キモノアルヲ以テナリ

第七十八條「内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス」

第一四 内亂罪ハ事最モ重大ニシテ國家ノ存亡ニ關スル大罪ナルヲ以テ豫備陰謀ト雖モ之ヲ罰スルノ必要アリ而シテ内亂罪ノ豫備行爲ハ種々アルモ首魁カ同志ヲ募リ或ハ武器彈藥糧食ノ準備ヲ爲シ地理地形ヲ實査スル如キ戰鬪行爲ニ關スル諸般ノ準備ヲ爲スコトヲ謂ヒ陰謀トハ二人以上カ内亂罪ヲ



犯サントスル謀議計劃ヲ爲シ犯意ヲ發表スルコトヲ謂フ  
第七十九條「兵器金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス」

第一五 本條ハ内亂ノ幫助罪ヲ規定シタルモノナリ兵器トハ戰爭ニ供スル武器ヲ謂ヒ金穀トハ金錢穀物ヲ指シ其他ノ行爲トハ内亂隊ノ嚮道ヲ爲シ又ハ集合ノ場所ヲ貸與スルカ如シ本條ハ之等ノ方法ヲ以テ内亂罪ヲ容易ナラシメタル者ヲ罰スル規定ナリトス

第八十條「前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未ダ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス」

第一六 内亂罪ハ事重大ナルヲ以テ及フ限り之ヲ未發ニ防遏スルヲ要ス之レ豫備陰謀ヲ罰スルト同時ニ暴動ニ至ラサル前ニ自首スルトキハ總則ノ例外トシテ其刑ヲ全免スルコトトシ以テ之ヲ獎勵セリ

### 第三章 外患ニ關スル罪

第一七 本章ハ國事犯ニ屬スル外患罪ノ規定ナリ内亂罪ハ自國政治上ノ意見

ヲ異ニスル者カ非常手段ニ因リテ政權ヲ奪取セントスル者ニシテ國政改革ヲ企ツル者ナルモ外患罪ハ利慾ノ劣情ニ眩惑セラレ敵國ニ與ミシテ帝國ニ反抗シ又ハ敵國ヲ幫助シ若クハ我軍事上ノ機密ヲ漏泄シ以テ父祖ノ國ヲ賣ラントスル者即チ賣國奴ニシテ其心情ノ醜陋卑劣ナル一點愛國心ナキ非日本人的性格ヲ有スル者ナリ故ニ其刑罰最モ森嚴ヲ要ス内亂罪ト異ナリ死刑ニ處セサル場合ニハ懲役ニ處シ又豫備陰謀ヲ處罰スルハ勿論自首ノ場合ニ於テモ刑ヲ全免スルカ如キコトナシ

第一八 外患罪ハ國際關係ノ平和ナル時ニ發生スルモノニ非ス何トナレハ列國ハ常ニ和親交通ヲ第一義トシ友邦國ノ情誼ヲ有スルモノナルヲ以テ平時敵國ナルモノアルコトナシ然ルニ本章ノ規定ハ敵國ニ關スルコトヲ條件トシタルハ戰時ニ限リテ生スヘキ犯罪ナルコトヲ豫想シタルナリ而シテ敵國トハ戰時國際公法ノ原則ニ從ヒ現ニ帝國ト戰鬪ヲ開始シタルカ又ハ實戰ヲ交ヘサルモ宣戰ノ公布ヲ發シタル外國ヲ謂フモノナリ

第八十一條「外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル



者ハ死刑ニ處ス」

第一九 本條ハ(一)帝國ニ對シ外國ト通謀シテ戰端ヲ開カシムル罪(二)敵國ニ與シテ帝國ニ反抗スル罪ノ規定ナリ第一ノ罪ハ本章ノ例外トモ見ルヘク即チ戰時ニアラスシテ平時發生スヘキ犯罪ナリ其外國ト通謀スルトハ外國ヲ代表スル者トノ間ニ意思ヲ連絡交通シ平和状態ニ在ル外國ヲシテ我帝國ニ對シ戰爭ヲ開始スルニ至ラシムルコトヲ云フ第二ノ罪ハ現ニ帝國ト交戦中ノ敵國ニ與シ其戰鬪力ノ一部ニ參加シ我軍ニ反抗スル所爲ナリ直接武器ヲ執リテ戰鬪ニ加ハルハ勿論敵軍ノ戰列内ニ在ル以上ハ後方勤務ニ屬スル物資輸送等ニ任スルモ本罪タルヘシ何レモ非日本人的性格ヲ有シ我國民タル觀念ヲ絶對ニ有セカル者ナルヲ以テ死刑ニ處スルコトトセリ

第八十二條「要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス」

「兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス」

第八十三條「敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、瀛車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ

供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス」

第八十四條「帝國ノ軍用ニ供セカル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス」

第二〇 右各條ハ何レモ敵ノ軍勢ニ援助ヲ與ヘ其戰鬪力ヲ増大ナラシムルモノナリ而シテ第八十二條ハ我軍用物件ヲ敵國ニ交付シテ之ニ便利ヲ與フルノ罪ナリ第一項ハ要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ノ場所又ハ建造物等ニ係リ軍ノ作戰上最モ重要ノ關係ヲ有スル物ナリ之ヲ交付スルトハ動産ナレハ有形的ニ之ヲ引渡シ不動産ナレハ賣買讓與等ノ方法ニ因リ敵國ノ支配ニ屬セシムルコトヲ謂フ第二項ハ重要ノ程度第一項ノ物件ニ比シ稍輕キ物ニ係ル即チ兵器、彈藥其他軍用物件ヲ敵國ニ交付スル罪ナリ其他ノ軍用物件トハ糧食被服ノ如キ物ニシテ軍需用物件ヲ包含スルノ意ナリ而シテ第一項ハ死刑ニ處シ第二項ハ死刑又ハ無期懲役ニ處スルハ交付ノ目的物ニ輕重ノ差アルヲ以テナリ



第二一 第八十三條ハ我軍用物件ヲ破壊シテ効用ヲ喪ハシメ以テ間接ニ敵軍ヲ利スル行爲ナリ。本條列記ノ物件ハ軍ノ作戰上最モ必要ニシテ戰鬪動作ニ及ホス影響實ニ至大ナルモノナリ然ルニ之ヲ損壞シ若クハ使用ニ堪ヘカラシムルトキハ全軍ノ不利ニ陥ルコトアルヘシ然レトモ進ンテ之ヲ敵軍ノ用ニ供セシムル第八十二條第一項ノ行爲ニ比スレハ其害稍輕カルヘキナリ依テ死刑又ハ無期懲役ニ處スヘキモノト規定セリ

第二二 第八十四條ハ帝國ノ軍用ニ供セサル兵器彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供スル物件ヲ交付スル罪ノ規定ナリ第八十二條第八十三條ハ共ニ我帝國ノ軍用ニ供スル物件ニ係ルモ本條ハ一人ノ所有ニ屬スル物ニ係ル元來一私人ノ物件ハ利益ヲ得テ賣買シ又ハ無償ニテ讓與スルモ所有者ノ自由ナルヲ原則トス故ニ戰時ニ際シ敵國ニ交付シテ利益ヲ得ル行爲ノ如キ罰スルノ限ニアラサル如キモ兵器彈藥ヲ始メ直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物件ヲ敵國軍隊ニ交付スルトキハ其戰鬪力ヲ強カラシメ我軍ノ不利ニ歸スルヲ以テ之ヲ禁遏シタルモノナリ故ニ我軍用物件ヲ敵國ニ交付スル者又ハ之ヲ破壊シテ不

使用ニ至ラシムル如キ罪トハ其犯情ニ於テ稍恕ス可キモノアリ之レ前二條ノ罪ニ比シテ輕ク無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處スル所以ナリ

第八十五條「敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス」

「軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ」

第二三 本條ハ間諜罪ノ規定ナリ間諜トハ一方ノ交戰者ニ通知スルノ意思ヲ以テ作戰地帯内ニ入り隱密ニ行動シ又ハ虛妄ノ口實ヲ構ヘテ各種ノ情報ヲ探知收集スルユトヲ謂フ間諜ハ最モ勇敢ナル行爲ニシテ一身ヲ犠牲ニ供スル覺悟アラサレハ目的ヲ達スル能ハサルモノナリ然レトモ合法ノ手段ヲ以テ敵情ヲ搜查スル彼ノ偵察又ハ斥候トハ異ナリ虛偽ノ口實ヲ設ケテ敵ヲ欺キ戰線内ニ入ルモノナルヲ以テ戰時國際公法ニ於テハ之ヲ卑劣ナル行動ト看做シ捕ヘタルトキハ俘虜ノ待遇ヲ與ヘス罪人トシテ死刑ニ處スヘキ慣例ナリ蓋シ日露戰役ニ於テ一身ヲ抛テ我軍ノ爲メニ敵情偵察ニ任シタル横川及ヒ沖氏等ノ如キハ天晴忠勇ナル行動ナルモ多數ノ外國人等ハ利慾ヲ貪ラ



ンカ爲メニ間諜トナル者多ク其目的手段トモ陋劣ナルヲ以テ交戦國ハ何國人ヲルヲ問ハス敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲ス者ヲ捕ヘタルトキハ之ヲ死刑ニ處スヘキ權利ヲ有スルモノナリ殊ニ我帝國臣民ニシテ敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ之ヲ幫助スル如キハ最モ惡ムヘキ行爲ナリトス故ニ重キハ死刑ニ輕キハ五年以上ノ懲役ニ處スヘキモノトセリ

**第二四** 本條第二項ハ軍機漏泄ノ罪ナリ軍機トハ軍事上ノ機密事項ニシテ當局者以外ニ認知セシメサル軍機軍略ニ關スルモノナリ即チ作戰ノ計畫軍ノ編成動員下令其他戰闘機關特務機關ノ設置等秘密ニ附スヘキ事項ヲ謂フモノトス敵國ニ漏泄スルトハ右ノ事項ヲ告知スルヲ謂ヒ其方法ハ直接タルト間接タルヲ問ハス敵國ニ知ラシムルヲ以テ本罪成立スルモノトス而シテ間諜ト其刑ヲ同フスルハ其性質ニ於テ略ホ同一ナルモノナレハナリ

第八十六條「前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス」

第八十七條「前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス」

第八十八條「第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス」

**第二五** 第八十六條ハ第八十一條以下第八十五條ニ至ル迄ノ方法以外ノ行爲ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ニ不利益ヲ與ヘタルトキハ其行爲ノ如何ナルヲ問ハス之ヲ處罰スルコトヲ定メタルモノナリ而シテ第八十七條ハ外患罪ハ總ヘテ未遂ノトキニ於テモ之ヲ罰スルコトヲ定メ第八十八條ハ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處スル特別規定ニシテ第八十九條ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ本章ノ規定ヲ適用スルコトヲ定メタルモノナリ戰時同盟國トハ條約ニ因リ我帝國ト或外國トカ共同シテ或一國又ハ數國ヲ敵トシ戰爭ヲ交ユルヲ謂フ即チ其國ノ陸海軍ハ我軍ト共同作戰ヲ爲シ分身一体ノ働キヲ爲スモノナルヲ以テ同盟國軍隊ニ不利ナル事項ハ即チ我軍ノ不利ニ歸ス故ニ同盟國ノ軍隊ヲ保護セサル可ラス之ノ本章ヲ適用スル所以ナリトス



## 第四章 國交ニ關スル罪

八六

第二六 本章ハ國際關係ノ發達ニ伴ヒ平和ノ交通往來頻繁トナリ國交益良好ニ赴クニ從ヒ外國主權ヲ保護尊重シ列國ノ交誼ヲ圓滑ナラシムルノ必要ニ迫ラレ舊刑法ニ規定セカリシ涉外事項ヲ規定シタルモノナリ即チ外國主權者及使臣ノ地位ヲ保護シ我帝國臣民カ外國ノ國權ヲ侵犯スルコトヲ防遏シ及ヒ外國交戰ノ際ハ臣民ヲシテ局外中立ヲ嚴守セシムル等ノ規定ナリ

第九十條「帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス」

「帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス」

第二七 本條ハ外國主權者カ我國ニ滞在セラルル場合ニ於テ之ニ對シ暴行脅迫又ハ侮辱ヲ加ヘタル者ハ通常ノ罪ニ依ラス特ニ重ク罰スルカ爲メ設ケタルモノナリ外國ノ君主トハ帝國以外ノ國家ノ元首ヲ稱シ大統領トハ共和國ノ最高機關タル者ヲ謂フ外國君主ニハ皇帝ト稱シ又ハ王ト稱スルモノアリ

何レモ國內法ニ依ル名稱ニシテ元首タルコトハ同一ナリ又外國皇族ニ對スル規定ヲ缺クモ這ハ通常ノ規定ニ依リ罰スル主義ナリトス

第二八 暴行トハ不法ノ腕力ヲ加フル行爲ナリ之ヲ廣義ニ解スルトキハ物ニ對スルト人ニ對スルトヲ區別セス苟クモ不法ノ腕力ヲ弄スル行爲ハ皆之ヲ暴行ト稱スヘシ然レトモ之ヲ狹義ニ解セハ物ノミニ對スル場合ハ之ヲ除キ人ノ身體ニ加フル暴力ノミヲ指スモノトス我刑法ニ於テハ物ノミニ對スルトキハ破壊毀損等ノ法語ヲ使用セルヲ以テ之ヲ狹義ニ解スルヲ至當ナリト信ス然レトモ物ヲ介シテ人ノ身體ニ暴力ヲ及ホスハ暴行ナリト謂ハサルヘカラス脅迫トハ害惡ヲ加ヘシコトヲ豫告シテ人ノ精神ニ畏怖ノ念ヲ與フルコトヲ謂フ又廣狹二様ノ解釋アリ一ハ他人カ害惡ノ通知ニ依リテ自由意思ノ作用ヲ喪失スル程度ノ畏怖ヲ謂ヒ一ハ自由意思ヲ失ハサル場合ナリ而シテ本條ノ脅迫ハ廣義ニ解シ自由意思ヲ失フト否トヲ問ハス一定ノ害惡ヲ加ヘント通告スルトキハ犯罪成立スルモノト信ス終リニ注意スヘキハ本條ノ罪ヲ罰スル條件トシテ外國政府ノ請求ヲ待テ論スルコトトシタルハ其性質



稍親告罪ニ似タル所アルヲ以テナリ

第九十一條「帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス」

「帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス」

第九十二條「外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス」

第二九 第九十一條ハ外國使節ノ地位ヲ保護スル特別規定ナリ外國使節トハ自國ヲ代表シテ我帝國ニ駐在シ國際事務ヲ處理スル機關ヲ謂フ常置ノ者アリ臨時ノ者アリ即チ特命全權大使、特命全權公使、代理公使ハ常設外交機關ニシテ臨時的ノ者ハ通商條約、平和條約其他特別使命ヲ帶ヒテ特派セララルル使臣ナリ何レモ其本國ヲ代表スルモノナルヲ以テ其名譽ト威嚴ヲ尊重スルノ主旨ニ基キ本條ヲ設ケタルモノナリ而シテ領事ハ使節ニアラス故ニ之ヲ含ま

サルモノトス

第三〇 第九十二條ハ外國々旗ヲ保護スル規定ナリ國旗ハ其自國ヲ標章スルモノナルヲ以テ之ニ對シ損壞除去又ハ汚穢ノ行爲ヲ加フルハ即チ其國家ヲ侮蔑スルモノト謂ヒ得ヘク國際間ノ和親ヲ保ツ上ニ於テ其國旗ヲ汚損スル如キハ大ナル惡感ヲ與ヘ文明國民ノ態度ト謂フヘカラス依テ本條ハ外國國旗其他ノ國章ニ對シ侮辱的行爲アリタルモノハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處スルコトト爲シタルナリ然レトモ外國ヲ侮辱スルノ意思ニ出テカルトキハ之ヲ問フノ限ニ非ラス例ヘハ田舎漢ノ如キハ何國ノ國旗タルコトヲモ知ラサルコトアルヘシ故ニ國旗國章ニ對スル罪ハ之ニ依リテ當該外國ニ侮辱ヲ加フルノ意思ヲ以テ之ヲ行フ場合ニ罰スルモノトセリ

第九十三條「外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス」

第三一 外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ストハ一人カ恣ニ多衆合同シテ我帝國以外ノ國家ニ對シ戰爭行爲ヲ爲スコトヲ謂フ抑モ宣戰ノ公布ハ天皇ノ大權ニ



シテ一人ハ外國カ我帝國ニ對シ如何ナル暴慢ノ行爲ヲ爲シ國威國光ヲ傷ケルモノト信スルモ妄リニ戰爭行爲ヲ行フ如キハ列國ニ對スル交誼ヲ缺キ我國ノ威信ニ關シ大權ヲ侵スモノナルヲ以テ其豫備陰謀ヲ爲スヲ處罰スルモノトス彼ノ大井憲太郎等カ連合シテ朝鮮ヲ征伐セントシタルカ如キ其一例ナリ

第九十四條「外國交戰ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス」

第三二 外國間ニ於テ戰爭ヲ開始シタルトキハ之ニ關係ナキ我國ハ局外中立ノ態度ヲ取り交戰國ノ何レノ一方ヲモ援助セサルモノトス之ノ國際公法ノ原則ニシテ此義務ニ背キタルトキハ交戰國ニ對シ其責ニ任セサルヘカラス故ニ國家ハ自ラ中立ヲ嚴守スル而已ナラス命令ヲ發シ其自國臣民ヲシテ交戰國ノ一方ヲ援助スヘキ行爲ヲ禁スルモノトス而シテ如何ナル行爲ガ中立ノ違反ナルヤ國民ハ之ヲ知ルコト困難ナルヲ以テ其禁止事項ヲ掲クルヲ例トスルモ通常兵器彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供スル物件ヲ交付スルヲ禁ス

ルモノナリ本條ハ此ノ禁止命令ニ違反シタル行爲ヲ罰スル規定ナリ

### 第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十五條「公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス」

「公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ」

第三三 舊刑法ハ官吏ノ職務執行ヲ妨害スル罪ヲ規定シタルモ其範圍狹少ニシテ公吏議員委員等法令ニ依リテ職務ヲ執行スル場合ニ適用スルヲ得サリシヲ以テ新刑法ニ於テハ廣ク公務ノ執行ヲ妨害スル罪ト爲シ公務員ノ職務執行ヲ確實ニ保護スルコトト爲シタリ而シテ公務員ニ對スル侮辱罪ハ舊刑法及草案中ニハ之レアリタルモ確定ノ際其必要ナシトシテ之ヲ刪除シタリ

第三四 公務員トハ第七條ニ規定セル官吏公吏法令ニ依リ公務ニ從事スル議員委員其他ノ職員ヲ謂ヒ職務ノ執行トハ法律命令ニ從ヒ公務員カ國家又ハ



公共團體ノ事務ヲ執行スルコトヲ謂フ爰ニ一問題アリ其職務ノ執行ハ適法ナルコトヲ要スルヤ否ヤ學說一定セサルモ公務員ノ行為カ不法ニシテ法令ノ範圍外ニ屬シ適法ノ權限ヲ有セサルトキハ形式上公務員ノ職務行為ナルカ如キモ其實一私人ノ行為ト異ナル所ナキヲ以テ之ニ服従スルノ義務ナキモノトス從ツテ之ヲ妨害スルモ本罪ノ犯人ヲ以テ目スヘカラス暴行脅迫ヲ加フルトハ不法ノ腕力ヲ加ヘテ公務員ノ身體ヲ強制シ又ハ害惡ヲ加ヘント通知シテ精神ニ畏怖ノ念ヲ生セシムルヲ謂フ而シテ暴行脅迫ノ結果公務員カ事實上職務ヲ妨害セラレタルト否トハ本罪ノ成立ニ關セサル所ナリ

**第三五** 本條第二項ハ公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ又ハ爲ササラシムルカ爲メ又ハ辭職セシムルカ爲メニ暴行脅迫ヲ加フル者モ亦之ヲ處罰スルノ規定ナリ之レ公務員ニ不當ノ行為ヲ強制スルモノニシテ職務執行ヲ妨害スルト同シク共ニ國權行使ノ作用ヲ阻止スル行為ナルヲ以テナリ

**第九十六條**「公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効トラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス」

**第三六** 本罪ノ目的物ハ公務員カ職務執行ノ爲メ特ニ施シタル封印又ハ差押ノ標示物タルコトヲ要ス例ヘハ執達吏カ裁判所ノ命令ニ基キ財産差押ヲ爲シ箆筒長持等ノ開閉ヲ禁止スル爲メニ封印ヲ爲シ又ハ差押物タルコトヲ表示スルカ爲メニ檢印ヲ押捺スルカ如シ之等ノ封印又ハ標示ヲ破棄シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ其効用ヲ無効ニ至ラシメタルトキ本罪成立スルモノトス

### 第六章 逃走ノ罪

**第九十七條**「既決未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス」

**第三七** 囚人ニハ既決未決ノ二種アリ既決ノ囚人トハ有罪ノ判決確定シテ其刑ノ執行ヲ受クル爲メ監獄ニ拘禁セラレタル者ヲ云ヒ未決ノ囚人トハ犯罪ノ嫌疑者トシテ審問ノ爲メ拘禁セララル者ヲ云フ而シテ一度ヒ拘禁セラレタル以上ハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ無罪免訴ノ言渡ヲ受ケ釋放セララル迄ハ囚人タル身分ヲ有スルモノナルヲ以テ護送途中又ハ警察署ノ留置場等ヨリ逃走スルモ本罪成立スルモノトス然レトモ保釋責付ヲ受ケ出獄中ノ者ハ逃走



スルモ本罪ニ関ハストノ説多數ヲ占ム逃走トハ監督者ノ監督區域ヲ脱シテ自由ニ進退スルコトヲ謂フ

第九十八條「既決未決ノ囚人又ハ拘引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス」

第三八 前條ハ單純逃走ノ場合ナルモ本條ハ複雑逃走即チ加重ノ情アル逃走ナリ即チ其逃走スルニ當リ(一)拘禁場又ハ械具ヲ損壞スルコト(二)拘禁場トハ囚人ヲ監置スル場所ニシテ既決監ト未決監ト併稱ス械具トハ拘禁ノ用ニ供スル器具即チ手錠鎖等ヲ謂フ(三)暴行脅迫ヲ爲シタルコト(四)暴行脅迫ノ意義ハ前既ニ説明シタルカ如ク身體ニ加フル不法ノ腕力又ハ精神ヲ畏怖セシムル害惡ノ通知ニシテ看守者ノ監視力ヲ排除スルモノナリ(五)二人以上通謀シテ逃走スルコト(六)二人以上通謀スルトキハ之ヲ防禦スルコト困難ニシテ且ツ其目的ヲ達シ易キニ因リ之ヲ嚴罰スルモノナリ右行爲ノ一アルトキ即チ本罪タルヘキモノトス

第九十九條「法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス」

第三九 法令ニ因リ拘禁セラレタル者トハ既決未決ノ囚人及拘引狀ノ執行ヲ受ケテ留置セララルル者其他罰金ヲ完納セサルカ爲メ勞役場ニ留置セララルル者ヲ謂フ之ヲ奪取スルトハ其手段ノ如何ヲ問ハス監督者ノ手ヨリ之ヲ奪フコトヲ謂フモノトス而シテ囚人逃走罪ニ比シ其刑重キハ囚人自ラ逃走ヲ計ルハ人情自然ノ理ナルモ之ヲ奪取スル如キハ國家ノ刑罰權ヲ侵害シ最モ惡ムヘキ所業ニ屬シ且外部ヨリスルモノハ防遏スルコト困難ナルヲ以テナリ

第一百條「法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシムヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス」

「前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス」

「前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス」

第一百一條「本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス」

第四〇 第一百條ハ逃走罪ヲ幫助スル罪ナリ其成立要件ハ(一)逃走セシムル目的ヲ以テスルコト(二)器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシムル行爲ヲ爲スコト



之レナリ器具トハ逃走ニ用ユル物例ヘハ梯子鋸等脱獄ニ便利ナル物件ヲ謂  
ヒ逃走ヲ容易ナラシムル行爲トハ器具ヲ給セサルモ他ノ方法ニ依リ逃走ヲ  
援助スルヲ謂フ例ヘハ獄外ニ於テ通行人ナキコトノ合圖ヲ爲スカ如シ若シ  
其手段トシテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ一層重ク之ヲ罰スル必要アリ  
之レ本條第二項ヲ置キタル所以ナリ

第四一 第一百一條ハ看守又ハ護送者カ被拘禁者ヲ逃走セシメタル行爲ヲ罰ス  
ル規定ナリ之等ノ官吏ハ監視上ノ職責ヲ有スル者ナルニ之ヲ逃走セシムル  
如キハ如何ナル方法ニ因ルヲ問ハス特ニ重ク罰セサルヘカラス之レ一年以  
上十年以下ノ懲役ニ處スル所以ナリ

第四二 第一百二條ハ本章ノ罪ハ未遂ノ場合ニモ之ヲ罰スルコトヲ定メタルモ  
ノナリ爰ニ附言スヘキハ第百條第百一條ハ囚人逃走罪ヲ幫助シタルモノ即  
チ從犯ナルヲ以テ刑法總則ノ規定ニ照シ之ヲ罰スルヲ得ヘキヲ以テ特ニ規  
定スル必要ナキカ如キモ從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ比シ減輕スルヲ原則トスル  
ニ此場合ハ却リテ正犯ヨリ重ク之ヲ罰スル必要アリ故ニ總則ノ例外トシテ

獨立ノ罪トシ規定シタルモノナリ其他ニ如此場合アルコトヲ注意スヘシ

### 第七章 犯人藏匿及證憑湮滅ノ罪

第三百三條「罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隠避セ  
シメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス」

第四三 本條ハ罪人藏匿及ヒ隠避ノ罪ヲ規定シタルモノナリ其成立要件ハ(一)  
罰金以上ノ罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ナルコト(二)藏匿又ハ隠  
避ノ所爲アルコト之レナリ罰金以上ノ罪ニ該ルヘキ犯罪人トハ事實罪ヲ犯  
シタル者ハ勿論官ニ於テ有罪ノ嫌疑者トシテ捜査中ノ者ヲモ包含スルノ意  
ナリ拘禁中逃走シタル者トハ囚人逃走罪トシテ規定シタル犯人ヲ指ス(第九  
十七條第九十八條參照)藏匿又ハ隠避トハ官ノ捜査及發見ヲ妨クルコトヲ謂  
フ或ハ隠匿ノ場所ヲ與ヘ服裝ヲ變セシムル爲メ衣服ヲ給シ逃走セシムルカ  
爲メ嚮導スルカ如シ要スルニ犯人ヲ援助シテ官ノ捜査權ヲ阻止スルノ行爲  
ナリトス



第四百條「他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造變造シ若クハ偽造變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス」

第四四 本條ハ證憑ノ湮滅ニ關スル罪ナリ其成立要件ハ(一)他人ノ刑事被告事件ニ關スルコト(二)證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造變造シ若クハ偽造變造ノ證憑ヲ行使シタルコトヲ要ス自己ノ被告事件ニ關シテ無罪ノ判決ヲ得ンカ爲メニ證憑ヲ湮滅スルハ人情ノ然ラシムル所深ク咎ムルヲ要セサルモ他人ノ被告事件ニ關シ有罪ヲ無罪ヲラシメ又ハ無罪ヲ有罪ヲラシメンカ爲メニ現存ノ證憑ヲ湮滅スルハ裁判所ノ審理ヲ困難ナラシムルヲ以テ之ヲ罰スルノ必要アリ刑事事件ニ限ルヲ以テ民事又ハ行政事件ニ付キテハ本條ノ問フ處ニアラス證憑ヲ湮滅スルトハ證據物件ヲ隱匿又ハ滅失シ犯跡ヲ不明ニ至ラシムルヲ謂フ例ヘハ血痕アル衣服ヲ洗滌シ足跡ヲ除去シ其他證據トナルヘキ物件ヲ搜查官吏ニ發見セシメサル總テノ行爲ヲ謂フモノトス然トモ證人ト爲リ裁判所ニ於テ虛偽ノ陳述ヲ爲スハ偽證罪トシテ別ニ規定アルヲ以テ之ヲ含マサルモノトス

第四五

證憑ヲ偽造變造シ又ハ偽造變造ノ證憑ヲ使用スルハ其結果ニ於テ證憑ヲ湮滅スルト同一ニシテ裁判所ノ審理ヲ困難ニ陷ラシムルヲ以テ湮滅スルモノト同シク罰スルコトト規定セリ

第四百五條「本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス」

第四六

本章ノ罪ハ犯人ノ利益ノ爲メニスル而已ナラス時ニハ不利益ニ陷レンカ爲メニ計ルコトアリ然ルニ犯人又ハ逃走者ノ親族カ其罪ヲ免カレシメンカ爲メニ證憑ヲ湮滅スルハ自己ノ罪ヲ免カレンカ爲メニ湮滅スルモノヲ罰セサルト同シク人情上之ヲ咎ムルハ冷酷ニ過タルヲ以テ之ヲ罰セサルコトト爲シタリ之レ本條ノ規定アル所以ナリ

第八章 騷擾ノ罪

第四百六條「多數聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス」  
一「首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス」



二「他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ援ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス」

三「附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス」

**第四七** 本條ハ多衆ノ聚合力ニ乘ジテ暴行脅迫ヲ爲ス罪ナリ其成立要件ハ(一)多衆聚合スルコト(二)暴行又ハ脅迫スルコト之レナリ多衆トハ何人以上ト謂フ如キ制限ナキモ其勢力ニ依リテ官吏ニ抵抗シ騷擾スルニ足ル人員タルヲ要シ事實上ノ問題ニ屬スルモノトス聚合トハ或目的ノ爲メ多衆相集マルノ意ナリ暴行又ハ脅迫スルトハ多衆ノ力ヲ以テ官廳又ハ個人ニ對シ或行爲不行爲ヲ要求シ強制スルコトヲ謂フ例ハ足尾銅山ニ於ケル鑛夫ノ騷擾事件ノ如キ其例最モ多シ要スルニ騷擾罪ハ官廳又ハ一個人ノ行爲ニ不平ヲ抱ケル多數ノ人員カ暴力ニ依リテ其目的ヲ達セント欲シ其手段トシテ暴行又ハ脅迫スルコトヲ謂フモノトス故ニ多數集合スルモ單ニ決議又ハ演說等ヲ爲スハ本罪ノ問フ處ニアラサルナリ

**第四八** 騷擾罪ハ内亂罪ト同シク多衆共同ノ暴力ナルヲ以テ其全體ヲ總理スル首魁者アルコトヲ想像セラルヘシ又首魁ノ旨ヲ受ケテ多衆ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ援ケタル者及ヒ一定ノ意見ナク單ニ附和雷同シテ隨行スル者アルヘシ依テ其階級ニ從ヒ刑ニ等差ヲ設ケタルナリ而シテ内亂罪人如ク極刑ヲ以テセスシテ首魁ト雖モ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ト爲シ附和隨行者ノ如キハ五十圓以下ノ罰金ニ止メタルハ其犯情及ヒ目的ニ於テ内亂罪等ト異ナリ一時ノ不平不満ニ出テ國家ノ統治權ヲ侵害スル如キ意思ナク國家存立ノ基礎ヲ危クスル如キ性質ヲ有スル罪ニアラカレハナリ然レトモ騷擾罪ヲ犯ス際殺人放火強姦等他罪ヲ犯シタル者ハ其罪ニ因リテ更ニ重ク罰セラルヘキヤ勿論ナリトス

**第一百七條**「暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス」

**第四九** 本條ハ多衆聚合シタルモ未ダ暴行脅迫ヲ爲ササル以前ニ解散ノ命令ヲ受ケ之ニ服從セサル場合ノ罪ナリ元來騷擾罪ハ前説明シタル如ク一時ノ



不平不滿ニ出テ多クハ勢ニ駆ラレ前後ノ思慮ナク多衆相集マリテ喧騒スルモノナルヲ以テ鎮撫ニ當ル官吏ニシテ抑制宜シキヲ得ハ犯罪ニ至ラスシテ止ムコトアリ故ニ成ルヘク行政警察ヲ以テ之ヲ鎮壓シ萬止ムヲ得サル場合ニ刑法ヲ以テ論スルノ主義ヲ採リタリ即チ解散ノ命令ヲ三回以上受テ仍ホ解散セサル場合ニ首魁以下ヲ罰スルコトト爲シタリ然トモ既ニ暴行脅迫ニ著手シタル以上ハ騷擾罪ヲ以テ論スヘシ本條ハ暴行脅迫ヲ爲ス以前ニ屬スルコトヲ要ス而シテ當該公務員トハ行政警察權ヲ有スル官吏即チ警察官憲兵其他法律命令ニ依リ其職權ヲ有スル者ヲ謂フ

### 第九章 放火及失火ノ罪

第百八條「火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、瀛車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス」

第五〇 本章ハ放火及失火ノ罪ヲ規定シタルモノナリ舊刑法ニ於テハ財産ニ對スル罪トシテ規定シタルモ社會ノ公安靜謐ヲ害スルコト大ナルヲ以テ新

刑法ニ於テハ其性質ヲ公安ニ關スルモノト認メ規定ノ位置ヲ騷擾罪ノ次章ニ置キタルモノトス而シテ故意ト過失ノ場合ヲ分チ故意ニ出ツル放火ト其目的物ニ依リテ數種ニ刑ヲ區別シタリ

第五一 第百八條ハ(一)火ヲ放タルコト(二)現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、瀛車、電車、艦船、鑛坑ナルコト(三)燒燬シタルコトノ三要素ヲ以テ成立ス火ヲ放ツトハ可燃性物ニ對シ點火シ又ハ媒介物ニ點火シテ之ニ延燒セシムルヲ云フ例ヘハ家屋ノ屋根ニ點火シ又ハ周圍ノ板塀ニ點火スル如キ之レナリ人ノ住居ニ使用スルトハ日常起居ノ生活ヲ爲シ居ルコトヲ云フ故ニ住宅ナルモノノ住居セサル貸屋ノ如キハ之ヲ含マス然トモ人ノ住居ニ使用シ居ル以上ハ放火ノ際一時外出シテ不在ナルモノノ住居スル建造物ト謂フヲ妨ケス人ノ住居ニ使用セサルモノノ現在スル建造物ナルトキハ亦本條ノ罪タリ例ヘハ倉庫ノ一部ニ現在シタルカ如シ瀛車、電車、艦船、鑛坑皆人ノ現在スルコトヲ要ス之レ本條ハ人命ノ危險ニ因リ刑ヲ重クシタルモノナレハナリ(現在セサル場合ハ次條ニ規定セリ)燒燬トハ放火ノ爲メ目的物ヲ燒盡シ其



効用ヲ喪失セシムルコトヲ謂フ故ニ全ク原形ヲ變スルニ至ラサルモ其物固  
有ノ効用ヲ失フニ至レハ即チ燒燬ナリト謂フヘシ

**第五二** 右ノ行爲ハ何レモ人命ヲ危クスルノ虞レアリ且ツ社會ノ靜謐ヲ害ス  
ルコト重大ナルヲ以テ其實害及犯情ニ因リ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ  
懲役ニ處スコトトセリ舊法ニ於テハ斯ノ如キ場合ハ死刑ニ處スル規定ナリ  
シヲ以テ彼ノ嫉妬ノ結果無情ナル夫ノ家ニ放火シタル如キ酌量ノ餘地アル  
場合ニ不都合ヲ感シタリ本條ニ於テハ斯ノ如キ遺憾ヲ生スルコトナシ

**第九九條**「火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ  
燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス」

「前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ生セサル  
トキハ之ヲ罰セス」

**第一百十條**「火ヲ放チテ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル  
者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス」

「前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス」

**第五三** **第九九條**ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬スル罪ノ規  
定ナリ**第八八條**ハ人ノ現在セル物ニ係ルヲ以テ其刑重キモ本條ハ人命ノ危  
險尠キモノナルヲ以テ二年以上ノ有期懲役ニ處スルニ止メタリ而シテ建造  
物、艦船、鑛坑ニ限リタルハ物體ノ最モ重大ナルモノヲ本條ニ規定シ其他ノ物  
ハ次條ニ讓リタルモノナリ放火罪ハ一面ニ於テハ社會ノ靜謐ヲ害シ一面ニ於  
テハ他人ノ財産ヲ侵害スル行爲ナルヲ以テ自己ノ物件ニ係ルトキハ其刑ヲ  
輕クスルノ理由アリ且又公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰スル必要ナ  
キモノトス之レ第二項及但書ノ規定アル所以ナリ

**第五四** **第一百十條**ハ人ノ現在セサル建造物、艦船、鑛坑以外ノ物件ヲ燒燬シタル  
罪ナリ比較的輕少ノ物件ニ屬スルヲ以テ公共ノ危險ヲ生セシメタルコトヲ  
條件トシテ罰スルモノトセリ故ニ若シ公共ノ危險尠モナキトキハ之ヲ罰ス  
ルノ限ニアラス蓋シ自己ノ所有物ヲ自ラ處分スルハ所有權ノ行使ニシテ法  
律上ノ權利ニ屬ス故ニ廢屋又ハ柴草ヲ燒却スル等ノ如キ之ヲ罰スルノ必要  
ナキカ如シ然トモ之レカ爲メ公安ヲ害シ延ヒテ他人ノ財産ニ危險ヲ及ボス



虞レナシトセス故ニ公共ノ危険アルトキニ限り之ヲ罰シ又自己ノ所有物ナルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處スルコトト爲シ極メテ刑ヲ輕減シタルモノトス

第百十一條「第百九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第百八條又ハ第百九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス」

「前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス」

第百十二條「第百八條及第百九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス」

第百十三條「第百八條又ハ第百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得」

第百十四條「火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス」

第五五 第百十一條ハ犯人自己ノ所有物ヲ燒燬セント欲シテ放火シタルニ他人ノ建造物、電車、電車、艦船、鑛坑ニ延燒シタルトキハ普通ノ原則ニ從ハハ犯意

ナキモノナルヲ以テ過失放火罪トシテ處分セサルヘカラス然レ其情ニ於テ重ク罰スルノ必要アリ之レ特ニ本條ヲ設ケタル所以ナリ

第五六 第百八條第百九條第一項ノ罪ハ其物体重大ニシテ公安ヲ害シ危険多キヲ以テ未遂ノ場合ハ勿論其豫備行爲ト雖モ之ヲ處罰スルノ必要アリ然レモ如何ナル場合ニモ之ヲ罰セサルヘカラサルノ理由ナシ犯人ノ性質及情狀ニ從ヒ刑ヲ免除スルヲ相當トスルコトアルヘシ然レモ未遂罪ニ至リテハ刑ヲ免除スルノ限ニアラス依テ第百十二條ハ未遂罪ヲ罰スト規定シ第百十三條ハ二年以下ノ懲役ニ處シ又ハ其刑ヲ免除スルコトヲ得ト規定シタル所以ナリ

第五七 第百十四條ハ火災ノ際ニ於ケル消防ヲ妨ケタル罪ノ規定ナリ鎮火ヲ妨クルハ一ノ放火ト見ルヘク最モ惡ムヘキ行爲ナリトス其方法ハ鎮火用ノ器具、器械ヲ隱匿又ハ損壞シ或ハ水道ヲ破損シ消防夫ノ通行ヲ阻止スル等其他ノ手段ヲ問ハサルモノトス之等ノ行爲ハ公共ノ必要上重ク罰セサルヘカラス依テ一年以上十年以下ノ懲役ニ處スルモノト規定セリ



第一百五條「第九條第一項及第十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルトキト雖モ  
差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ  
物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ」

第五八 第九條第十條ニ規定セル放火ノ目的物カ自己ノ所有ニ屬スル場  
合ハ他人ノ物ニ比シ其刑ヲ輕クシタリ然ルニ其物件ノ上ニ他人ノ權利カ附  
着セルトキ之ヲ燒燬スルハ自己ノ所有物ナルモ延キテ他人ノ權利ヲ侵害ス  
ルノ結果ヲ生ス故ニ他人ノ物ヲ燒燬スルト同一ノ刑ヲ科スルヲ至當トス之  
ノ本條ノ規定アル所以ナリ而シテ差押ヲ受ケタルトハ強制執行ヲ爲スカ爲  
メニ法律ノ規定ニ從ヒ差押ヘラレタル動產不動產ナリ物權ヲ負擔スルトハ民  
法ニ規定セル物上權即チ地上權永小作權地役權抵當權其他特別法ニ依ル物  
權例ニハ部分林設定ノ森林ノ如キヲ謂ヒ貸貸トハ使用收益ヲ爲カシムル爲  
メ賃錢ヲ得テ動產不動產ヲ他人ニ貸與スルヲ謂フ保險トハ當事者ノ一方カ  
偶然ノ事故ニ因リ生スル財産上ノ損害ヲ填補スルコトヲ約シ他ノ一方ハ之  
ニ其報酬ヲ支拂フ契約ナリ其主ナルモノハ生命保險火災保險海上保險運送

保險ナリ保險ニ付シタル物ヲ燒燬スルハ自己ノ家屋又ハ動產ヲ火災保險ニ  
付シ自ラ放火シテ其保險金ヲ詐取セントスル場合ニ生スルモノナリ  
第十六條「火ヲ失シテ第八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタ  
ル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス」

「火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第一百條ニ記載シタル物ヲ燒燬  
シ因テ公共ノ危險ヲ生セシタル者亦同シ」

第五九 本條ハ失火ノ責任ヲ定メタルモノナリ失火トハ過テ火ヲ放ツコトヲ  
謂フ即チ放火ノ意思ナキモ相當ノ注意ヲ爲サカリシ結果燒燬スルニ至ラシ  
メタルヲ謂フ他人ノ所有物件ト自己ノ所有物件トニ因リ其責任ニ區別ヲ爲  
シタリ而シテ第八條ニ記載セル場合ハ人ノ現在セル物件ナルヲ以テ自己  
ノ所有ニ屬スル場合ト雖モ重ク罰スル必要アリ依テ第八條ノ場合ハ自己  
ノ所有ト他人ノ所有トヲ問ハス三百圓以下ノ罰金ニ處シ第九條ニ記載セ  
ル物ハ他人ノ所有ニ屬スルトキニ限り同シク三百圓以下ノ罰金ニ處スルコ  
トトシ若シ自己ノ所有ニ屬スルトキ及第十條記載ノ物件ナルトキハ失火



ニ因リ公共ノ危険ヲ生セシメタルトキニ限り之ヲ罰スルコトト爲シタリ  
第百十七條「火藥、瀝罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第百八條ニ記載シタル者又ハ他人  
ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル  
第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメ  
タル者亦同シ前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ」

第六〇 本條ハ準放火罪ノ規定ナリ激發性ノ物ヲ破裂セシメテ物件ヲ損壞ス  
ルハ放火ト其性質ヲ異ニスルモ其情狀及結果ニ於テ稍同一ナルヲ以テ故意  
ト過失トヲ分チ放火失火ノ例ニ依リ處罰スルコトト爲シタルナリ即チ火藥  
瀝罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメ第百八條ニ記載シタル物人ノ現在セル  
建造物、瀝車、電車、艦船、鑛坑又ハ他人ノ所有ニ屬スル第百九條ノ物人ノ現在セ  
ル建造物、艦船、鑛坑ヲ損壞シタルトキト第百九條ノ物件ニシテ自己ノ所有  
ニ係ルトキ及第百十條ノ物件ヲ損壞シテ公共ノ危険ヲ生セシメタルトキト  
ヲ區別シ放火罪ノ例ニ依リテ處罰スルコトト規定シタリ若シ過失ニ因リテ  
破裂セシメタルトキハ失火罪ノ例ニ據ルモノトス

第百十八條「瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命身體  
又ハ財産ニ危険ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス」

「瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ  
傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス」

第六一 本條ハ科學ノ進歩ニ伴ヒ各種ノ工場及器械ノ運轉等ニ瓦斯、電氣及蒸  
氣力ノ應用益々頻繁ヲ加ヘ從テ生命、身體、財産ニ危険ヲ加フルコト往々アリ  
依テ之ヲ取締ランカ爲メ規定シタルモノナリ故ニ之等ノ設備不完全ニシテ  
瓦斯、電氣又ハ蒸氣等ヲ流出漏出シテ危険ヲ生スル程度ニアル以上ハ本條ヲ  
以テ罰スルヲ得ヘシ必ラスシモ實害ヲ受ケタルコトヲ要セサルナリ又之レ  
カ爲メ人ヲ死傷ニ致シ物件ヲ燒毀シタルトキハ第五十四條ニ從ヒ其重キ罪  
名ニ因リ處罰スヘキモノトス

### 第十章 溢水及水利ニ關スル罪

第六二 本章ハ溢水及水利ニ關スル罪ノ規定ナリ放火罪ト稍其實質ヲ同クス



彼レハ火力ニ因リテ人ノ生命身体ニ危険ヲ與ヘ財産ヲ燒毀スルモノナルモ之レハ水力ニ因ルノ差アル而已トス其公安ヲ害シ生命財産ニ重大ナル危険ヲ及ホスハ同一ナリ故ニ放火罪ノ規定ト大同小異ナリ

第百十九條「溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建築物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス」

第百二十條「溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限り前項ノ例ニ依ル」

第百二十一條「水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス」

第百二十二條「過失ニ因リ溢水セシメテ第百十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス」

第百二十三條「堤防ヲ決潰シ水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシムベ

キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス」

**第六三** 本章ハ放火罪ト同シク人命ノ危険ト被害物件ノ輕重及ヒ他人所有ノ物ト自己所有ノ物トニ從ヒ刑ニ輕重ノ差ヲ設ケタリ而シテ其成立要素ハ(一)溢水セシムルコト(二)浸害シタルコト(三)列記ノ物件ニ關スルコト之レナリ溢水トハ洪水汎溢スル状態ヲ謂フ即チ堤防ヲ毀損シ水閘ヲ破壞シ水流ヲ導キ汎溢セシメテ水害ヲ惹起スルノ行爲ナリ浸害スルトハ溢水ノ爲メ建築物ヲ漂流シ動産ヲ流失シ其他浸水ノ爲メ物ノ効用ヲ喪失スルニ至ラシムルコトヲ謂フ其物件ガ人ノ現在セル建築物、汽車、電車、鑛坑ニ係ルトキハ之ヲ重ク罰シ其他ノ物件ナルトキハ輕キ刑ヲ科スル理由ハ放火罪ト性質ヲ同シクスルヲ以テナリ

### 第十一章 往來ヲ妨害スル罪

第百二十四條「陸路水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス」



「前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス」

**第六四** 本章ハ往來ヲ妨害スル罪ノ規定ナリ往來ノ用ニ供スル主ナルモノハ陸路水路橋梁鐵道ナリ而シテ鐵道ニ關シテハ特ニ第二百五條ニ規定シ第百二十四條ハ陸路水路橋梁ヲ損壞壅塞スルノ罪ヲ規定セリ其成立要素ハ(一)一定ノ通路ニ關スルコト(二)損壞壅塞スルコト(三)往來ヲ妨害スルコト之レナリ一定ノ通路トハ自由往來ヲ許シタル公道及ヒ橋梁又ハ海上河川ノ航路ヲ云フ故ニ一私人カ自家ノ用ニミ使用スルモノハ之ヲ含マスト信ス然トモ私有ノ道路ナルモ公衆ノ往來ヲ許シタルモノハ本條ノ道路橋梁タルヤ勿論ナリ損壞トハ物質的ニ之ヲ破壞スルヲ云ヒ壅塞トハ土砂等ヲ堆積スルヲ謂フ往來ヲ妨害スルトハ交通ヲ不便ナラシメ又ハ不能ニ至ラシムルコトナリ故ニ單ニ往來止メノ立札ヲ建ツルカ如キ單純ナル惡戯ヲ爲シタル者ハ本條ノ罪ニアラサルナリ

**第六五** 右ノ罪ヲ犯シタル結果人ヲ死傷ニ致シタルトキハ即チ想像上ノ數罪俱發ナリ第五十四條ニ從ヒ其重キニ因テ處斷スヘシ本條第二項ハ之ヲ明定

シタルニ過キス

第二百五條「鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ瀛車又ハ電車ノ往來ノ危険ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス」

「燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危険ヲ生セシメタル者亦同シ」

**第六六** 本條第一項ハ瀛車電車ノ往來ニ危険ヲ加ヘタル者ヲ罰スヘキ規定ナリ其手段ハ鐵道又ハ標識ヲ損壞スル等ノ行爲ナリ例ヘハ線路上ニ大石其他ノ障礙物ヲ置キ或ハ「ポイント」ヲ破損スルカ如キ之レナリ第二項ハ艦船ノ往來ニ危険ヲ生セシメタル行爲ナリ即チ燈臺又ハ浮標ハ航路ノ危険ヲ避ケル爲メニ特設シタル物ナリ然ルニ之ヲ損壞スルハ航路ノ安全ヲ妨害シ航海業者ノ一大苦痛ナリ故ニ瀛車電車ノ妨害ト共ニ前條ニ比シ一層重ク罰スルノ必要アリ特ニ本條ヲ設ケタル所以ナリ

第二百二十六條「人ノ現在スル瀛車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス」

「人ノ現在スル艦船ヲ顛覆又ハ破壞シタル者亦同シ」



「前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス」

第二百二十七條「第二百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ瀕車又ハ電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタル者亦前條ニ同シ」

第六七 第二百二十六條ハ人ノ現在スル瀕車電車ヲ顛覆又ハ破壊シタル者及艦船ヲ覆没又ハ破壊シタル者ヲ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處スル規定ナリ前條ハ單ニ往來ニ危険ヲ加ヘタルニ止マルモ本條ハ之ヲ顛覆又ハ覆没スル等其危険重大ナルヲ以テ更ニ之ヲ一層重ク罰スルコトト爲シタルナリ何レモ人ノ現在スルコトヲ要シタルハ人ノ現在セサルトキハ人命ノ危険ナキヲ以テナリ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス之レ犯人ハ初メヨリ人ノ死ニ至ラシムル意思ナシトスルモ人ノ現在スルコトヲ知リテ顛覆又ハ覆没セシムルハ此ノ如キ結果ヲ生スルコトアルヲ豫期セルモノト謂フヘク且ツ一個人ニ對スルモノト異ナリ社會公衆ノ安全ニ關スルコト重大ナルヲ以テ特ニ之ヲ嚴罰スル所以ナリ

第六八 第二百二十七條ハ第二百二十五條ノ罪ヲ犯シタル結果瀕車又ハ電車ノ顛

覆破壊若クハ艦船ノ覆没又ハ破壊ヲ生シタルトキハ前條ト同シク處分スルコトヲ定メタル規定ナリ説明ヲ要セス

第二百二十八條「第二百二十四條第一項第二百二十五條及第二百二十六條第一項第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス」

第二百二十九條「過失ニ因リ瀕車電車又ハ艦船ノ往來ノ危険ヲ生セシメ又ハ瀕車電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス」

「其業務ニ従事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス」

第六九 第二百二十八條ハ未遂ノ場合ヲ罰スル罪ヲ擧ケタルモノニシテ別ニ説明ヲ要セス

第七〇 第二百二十九條第一項ハ過失ニ因リテ瀕車電車艦船ノ往來ニ危険ヲ生セシメ又ハ顛覆破壊若クハ覆没セシメタル者ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處スル規定ニシテ第二項ハ其業務ニ従事スル者ナルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處スル規定ナリ業務ニ従フ者トハ機關士運轉士等鐵道又ハ船舶ノ職員ナリ之ノ等ハ普通人ニ比シテニ重ク罰スルノ必要アルヲ以テナ



### 第十二章 住居ヲ侵ス罪

第七一 住居トハ各人生活ノ本據ニシテ日常起居ノ用ニ供スル場所ヲ謂フ各人ハ之ヲ城廓トシテ家庭ヲ作り人生ノ幸福ヲ享受スル唯一ノ樂境ナリ故ニ住居ノ安全ハ憲法ノ保障スル所ニシテ國家ト雖トモ法律ノ規定ニ依ラサルハ之ヲ侵スユト能ハサルモノトス故ニ妄リニ人ノ住居ニ立チ入ル者ハ之ヲ罰セサルヘカラス即チ本章ハ住居ヲ侵ス罪ヲ規定シタルモノナリ

第三百十條「故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若シクハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサルモノハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス」

第三百十一條「故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタルモノハ三年以上五年以下ノ懲役ニ處ス」

「神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ」  
第三百十二條「本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス」

第七二 第三百十條ハ住居侵入罪ノ普通ノ場合ヲ定メタルモノナリ其成立要素ハ(一)故ナク侵入スルコト(二)人ノ住居又ハ人ノ看守スル建造物若シクハ艦船内ニ入ルコト又ハ要求ヲ受ケテ退去セサルコトナリ

第七三 「故ナク」トハ權利ナクシテ人ノ住居ニ立チ入ルコトヲ謂フ故ニ法律ニ依リ豫審判事カ家宅搜索ノ爲メ立チ入り又ハ傳染病消毒ノ爲メ行政官吏カ立チ入ルカ如キハ罪トナラス又習慣上許サレタル範圍迄立チ入ルハ居住者ノ默認スルモノト認メ無罪タルヘシ例ヘハ玄關迄進入スルハ通常ノ慣習ナルモ案内ナクシテ應接室ニ通ルカ如キハ不法ナリ人ノ住居トハ日常生活ノ場所ナリ獨立ノ家屋タルコトヲ要セス下宿屋ニ於ケル一定ノ居室ノ如キハ下宿人ノ住居ナリトス邸宅トハ家屋及ヒ家屋ノ附屬タル圍繞區域ヲ總稱ス艦船トハ軍艦商船浮舟一切ヲ含ムノ意ナリ而シテ之等ハ人ノ住居スルカ又ハ人ノ看守スルコトヲ要ス依テ人ノ住居セス又ハ看守ヲモ附セサル廢屋ノ如キニ入ルハ本罪ノ問フ處ニアラサルナリ

第七四 「要求ヲ受ケテ退去セサル者」ハ故ナク入ルモノト性質上異同ナシ一度



七住居者ノ承諾ヲ得テ入り若シクハ慣習上許サレタル場所ニ入ルモ住居者又ハ看守者カ承諾ヲ取消シ又ハ之ヲ禁止シタルトキハ退去セサル可ラス然ルニ之ノ要求ヲ背カサル者ハ本條ニ依テ處罰スルモノトス

第七五 第三百三十一條ハ皇居禁苑離宮行在所及神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル罪ノ規定ナリ何レモ神聖ノ地ニシテ皇室ノ尊嚴ヲ維持スル必要ヨリ普通ノ場所ニ比シ重ク罰スルノ必要アリ之レ特ニ本條ヲ設ケタル所以ナリ

第七六 第三百三十二條ハ未遂ノ場合ヲ罰スル規定ナリ別ニ説明ヲ要セス

### 第十三章 秘密ヲ侵ス罪

第七七 舊刑法ニ於テハ秘密ヲ侵ス罪ヲ隱私漏告ノ罪トシテ誹毀罪中ニ規定シタルモ新刑法ハ信書ニ對スル罪ト共ニ一章ヲ設ケタリ即チ本章ハ信書ノ秘密ヲ侵ス罪及ヒ隱私ヲ漏告スル罪ノ規定ナリ

第三百三十三條「故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス」

第七八 本條ハ信書ノ秘密ヲ侵ス罪ナリ其成立要件ハ(一)權利ナキコト(二)封緘シタル信書ヲ開披スルコト之レナリ條文ニ故ナクトハ權利ナキコトヲ意味スルモノナリ法令ニ基キ豫審判事カ開披スル如キ又ハ親權者カ子女ノ信書ヲ披見スル如キハ本罪ノ問フ處ニアラス信書トハ人ノ意思ヲ他人ニ通知スル爲メニ記載スル文書ナリ而シテ封緘シタルモノヲ開披スルヲ要スルヲ以テ信書ノ封緘ヲ破リ内部ノ文書ヲ露出スルコトヲ要ス之ヲ公衆ニ示スト又ハ文意ヲ讀了スルトハ敢テ問フ所ニアラサルナリ然トモ封緘ノ信書ニ限ルヲ以テ既ニ信書ノ効用ヲ終リタル手紙又ハ書類ノ如キハ之ヲ含マサルモノトス

第三百三十四條「醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ之等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコト又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス」

「宗教若シクハ禱祀ノ職ニ在ルモノ又ハ之等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知り得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ」



**第七九** 本條ハ隱私漏告ノ罪ナリ犯罪ノ主体トナル者ハ法文ニ列舉シタル者ナリ此等ノ者ハ其身分又ハ職業ノ性質上人ノ隱私ヲ知ルモノナリ隱私トハ人カ秘密ナランコトヲ欲シ之ヲ社會ニ表白スルハ甚タシク其人ノ地位品格ヲ傷ケ差汚ノ念ヲ生スルモノトス然ルニ之ヲ漏告スルハ誹毀ト同シク德義ニ背反スルコト大ナルヲ以テ之ヲ罰スルコトト爲シタルナリ故ニ例ヘハ醫師ノ如キ患者ノ依頼ヲ受ケテ手術ヲ施シ患者ノ身体ニ不具又ハ人ノ嫌忌スヘキ疾病アルヲ知ルモ之ヲ秘密ニスヘキ義務アリ又辯護士カ訴訟事件ヲ依頼セラレ一家ノ内事ヲ知ルモ之ヲ他人ニ漏スヘカス斯ノ如キ規定ヲ設ケサレハ患者ハ安シテ醫師ノ診察ヲ受クル能ハス依頼者ハ辯護士ニ對シ自己ノ秘密ヲ打テ明ク事件ノ内容ヲ語ル能ハサルヲ以テ之等ノ職務ヲ有スル者ニ特別ノ義務ヲ附シタルモノトス

第三百三十五條「本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス」

**第八〇** 本章ノ罪ハ專ラ被害者ノ利益ヲ保護スル規定ナルヲ以テ告訴ナケレハ其罪ヲ論セサルモノトセリ

### 第十四章 阿片煙ニ關スル罪

**第八一** 阿片ノ害毒タルヤ一度之ヲ吸收スルノ習慣ヲ馴致スルトキハ之ヲ廢スル能ハス而シテ漸次精神恍惚トシテ心身共ニ衰弱シ健康ヲ害シ氣力ヲ喪ヒ終ニ癡疾ノ狀況ニ陥リ一身ヲ傷ケ國家ヲ衰亡ニ導クモノトス其害ノ虞ルヘキ計リ知ル可カラサルモノナリ然ルニ我國ト一帯ノ海ヲ隔ツル清國ニ於テハ其害已ニ國內ニ瀰蔓シ之ヲ如何トモスル能ハサル實況ナリトス之レ本章ノ規定アル所以ナリ

第三百三十六條「阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若シクハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス」

第三百三十七條「阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若シクハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス」

第三百三十八條「税關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス」



第八二 右三條ハ阿片煙及ヒ阿片吸食用ノ器具ヲ製造シ販賣シ所持シ又ハ我國ニ輸入スルコトヲ罰スル規定ナリ輸入トハ外國ヨリ我帝國領土内ニ入ラシムルコトヲ謂フ製造トハ之ヲ作成スルヲ云ヒ販賣トハ代金ヲ得テ賣渡スコトヲ云ヒ所持トハ之ヲ占有スルコトヲ謂フ稅關官吏カ自ラ輸入シ又ハ輸入スルコトヲ許シタル場合ハ其職務ノ關係アルヲ以テ特ニ重ク之ヲ罰スルコトト爲シタルナリ

第三百三十九條「阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス」

「阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス」

第四百十條「阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタルモノハ一年以下ノ懲役ニ處ス」

第四百十一條「本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス」

第八三 第三百三十九條第一項ハ阿片煙ヲ吸食シタル罪ナリ三年以下ノ懲役ニ處スルハ其性ヲ馴致セサルニ先キ之ヲ防遏センカ爲メ重ク罰スルモノトス同條第二項ハ吸食ノ爲メ房屋ヲ給與シタル罪ナリ彼ノ清國ニハ各都市ニ煙館ト稱シ阿片吸食ヲ業トスル者頗ル多シ本條ハ斯ノ如ク一定ノ職業トセサ

ルモ利ヲ得ルコトヲ圖リテ房屋ヲ給與スルトキハ犯罪成立スルモノトス  
 第八四 第四百十條ハ阿片煙又ハ阿片煙吸食用ノ器具ヲ所持スル者ヲ罰スル規定ナリ故ニ紀念品トシテ之ヲ所持スルモ仍ホ本條ノ犯罪ナリ之ノ害ヲ未發ニ防遏セントスルノ法意ナリトス然レトモ法令ノ許シタル用ニ使用スル爲メ之ヲ所持スルハ差支ヘナキ所ナリ例ヘハ醫師又ハ藥劑師カ藥劑トシテ所持スルカ如シ

### 第十五章 飲料水ニ關スル罪

第八五 飲料水ハ人生ノ生活上一日モ缺ク可ラサル必要物ナリ之ヲ汚穢シ又ハ毒物等ヲ混入シ人ノ健康ヲ害スルニ至ラシムル如キハ個人及公衆ノ衛生ヲ害スルモノニシテ最モ惡ムヘキ行爲ナリトス之ノ本章ノ規定アル所以ナリ  
 第四百十二條「人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用ユルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス」

第四百十三條「水道ニ因リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用ユルコ



ト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第四百四十四條「人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス」

第八六 第四百四十二條ハ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シタル罪ナリ河水池井泉等凡テ人ノ飲用ニ供スル水ヲ謂ヒ之ヲ汚穢スルトハ泥土塵芥等ヲ投入シ混濁スルコトヲ謂フ而シテ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタルトキ本罪成立スルモノトス

第八七 第四百四十三條ハ水道ノ水源ヲ汚穢シ之ヲ用ユルコト能ハサルニ至ラシメタル罪ナリ水道ハ其用方廣ク害ヲ被ムル者多キヲ以テ其刑ヲ特ニ重クシタルナリ第四百四十四條ハ毒物其他人ノ健康ヲ害スヘキ物ヲ混入シタル罪ナリ毒物トハ人体内ニ入りテ化學的作用ニ因リ健康ヲ害スル物ナリ斯ノ如キ有害物ヲ投入スルハ衛生上危險アルヲ以テ三年以下ノ懲役ニ處スルコトトシタリ

第四百四十五條「前三條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從フ

テ處斷ス」

第四百四十六條「水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若シクハ五年以上ノ懲役ニ處ス」

第四百四十七條「公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス」

第八八 第四百四十五條ハ淨水ヲ汚濁シ又ハ毒物等ヲ混入シ人ヲ死傷ニ至ラシメタルトキハ傷害罪ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷スヘキ規定ナリ第四百四十六條ハ水道ノ淨水又ハ其水源ニ毒物ヲ混入シタル罪及ヒ因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ例外トシテ重ク罰スルコトヲ定メタルモノトス之レ水道ハ普通ノ淨水ニ比シ公衆ノ衛生ニ關スルコト廣ク危險大ナルヲ以テナリ其他說明ヲ要セス

### 第十六章 通貨偽造ノ罪



第八九 本章ハ舊刑法ニ於テ貨幣偽造罪ト稱シタル罪ヲ修正シ之ニ銀行券ヲ加ヘテ通貨偽造ノ罪トシ偽造變造行使輸入取受等ニ分ケテ罰スル規定ト爲シタリ

第四百十八條「行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス」

「偽造變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ」

第九〇 本條ハ(一)通貨偽造罪(二)通貨變造罪(三)偽造變造通貨行使罪(四)偽造變造通貨交付罪(五)偽造變造通貨輸入罪ヲ定メタル規定ナリ其成立要素ハ(一)行使ノ目的アルコト(二)偽造變造ノ通貨タルコト(三)偽造シ變造シ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若シクハ輸入スルコト之レナリ以下之ヲ説明スヘシ

第九一 行使ノ目的トハ眞貨トシテ之ヲ流通セント欲スル意思ヲ謂フ故ニ必シモ之ヲ流通シタルコトヲ要セス其意思ヲ以テ偽造變造セハ本罪成立スル

モノトス然トモ初メヨリ流通スルノ意思ナク單ニ美術品又ハ紀念品トシテ眞貨ニ模擬シタル物件ヲ製作スルハ本罪トナラサルナリ

第九二 通貨トハ國家カ交換ノ用具トシテ強制通用力ヲ認メタル物ナリ即チ通用ノ貨幣紙幣銀行券ヲ謂フモノトス故ニ通用期限ヲ終リタル廢貨ノ如キハ之ヲ含マスト信ス

第九三 偽造トハ國家ノ有スル通貨製造ノ特權ヲ侵シテ眞正ナル通貨ニ模擬シタル物ヲ製作スルコトヲ謂フ即チ眞貨ノ外觀ヲ有スル物件ヲ作ルモノナリ如何ナル程度ニ達スレハ偽造ト謂フヘキヤハ事實上ノ問題ニ屬スヘシト雖トモ文字紋章形狀大小等眞貨ト酷似シ一般人カ一見シテ眞貨ト區別スルコト困難ナル物ニ非カレハ不可ナリ彼ノ玩弄紙幣ノ如キ到底眞物ト認メラレサル物ハ之ヲ含マスト信ス而シテ行使ノ意思ヲ以テ偽造セハ直チニ本罪成立ス實際行使シタルコトヲ要セス

第九四 變造トハ既存ノ通貨ニ工作ヲ加ヘテ命價ノ異ナル新貨ヲ作ルコトヲ云フ例ヘハ二錢銅貨ニ鍍金シテ五拾錢銀貨トシ一圓紙幣ノ色合ヲ變シ且一



ヲ五ト變更シテ五圓紙幣ト爲スカ如シ而シテ行使ノ意思アレハ本罪成立ス  
ルコト偽造ト同シ

**第九五** 行使トハ偽造變造ノ通貨ヲ真正ノ通貨トシテ流通スルコトヲ謂フ流  
通トハ交換ノ用具トシテ他人ニ交付スルコトナリ物品ノ代價トシテ支拂ヒ  
又ハ租稅トシテ納付スルカ如シ而シテ行使罪タルニハ初メヨリ偽造變造ノ  
通貨タルコトヲ知ルコトヲ要ス之ヲ知ラスシテ受取り後之ヲ知リテ行使ス  
ルハ**第九五**條ノ罪ナリ

**第九六** 交付トハ偽造變造貨ヲ有償又ハ無償ニテ他人ニ引渡スコトヲ謂フ行  
使ト異ナル所ハ彼レハ偽造通貨ヲ眞貨トシテ其命價ニ從ヒ流通スルモノナ  
ルモ交付ハ一ノ物件トシテ引渡スモノナリ例ヘハ偽造通貨一千圓ヲ五百圓  
ニテ賣却シ又ハ贈與スルカ如キ之レナリ

**第九七** 輸入トハ偽造變造ノ通貨タルコトヲ知リテ我帝國領土内ニ持チ來ル  
コトヲ謂フ即チ我稅關線内ニ入レタルトキ犯罪成立スルモノナリ新ニ偽造  
變造スルモノト同一結果ヲ生スルヲ以テ偽造變造ト同シク之ヲ罰スルモノ

ト規定セシナリ

**第九八** 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變  
造シタルモノハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

「偽造變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若  
シクハ輸入シタル者亦同シ」

**第九九** 行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル者ハ三年以下  
ノ懲役ニ處ス

**第九八** 第九九條ハ内國ニ流通スル外國通貨ヲ偽造變造シタル罪ノ規定  
ナリ外國通貨ハ帝國内ニ於テハ強制通用力ヲ有セサルヲ原則トスルカ故ニ  
開港場等ニ於テ取引上任意ニ通用スルモノヲ謂フカ又ハ貨幣同盟條約等ニ  
依リ我帝國ニ於テ外國貨幣ノ流通力ヲ認メタル場合ニ限ルカニ付キテハ學  
者間議論一定セサル所ナリ然レモ單純ニ商人間ノ取引ニノミ使用セラルル  
モノノ如キハ所謂流通ト稱スルヲ得サルヲ以テ我法令ニ依リ其流通力ヲ認  
メラレタル外國貨幣ニアラサレハ本罪ノ目的物ト爲ラスト信ス



第九九 第五百十條ハ行使ノ目的ヲ以テ偽造變造ノ通貨ヲ收得シタル罪ノ規定ナリ收得トハ贈與交換賣買拾得盜奪詐取等其手段ヲ問ハス自己ノ占有ニ移スコトヲ云フ本罪タルニハ行使ノ目的ヲ有シ且偽造變造タルコトヲ知りテ收得スルヲ要スルモノトス

第五百十一條「前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス」

第五百十二條「貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知リテ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之人ニ交付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ一圓以下ニ下スコトヲ得ス」

第五百十三條「貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス」

第一〇〇 第五百十一條ハ前三條ノ未遂罪ヲ罰スル規定ニシテ第五百十二條ハ偽造變造ノ通貨タルコトヲ知ラスシテ收得シタル後之ヲ知リテ行使シ又ハ人ニ交付シタルトキハ名價三倍以下ノ罰金ニ處シ第五百十三條ハ偽造變造ノ豫備行爲トシテ器械又ハ原料ヲ準備スルコトヲ罰スル規定ナリ別ニ説明

ヲ要セス

### 第十七章 文書偽造ノ罪

第一〇一 本章ハ文書ノ真正ヲ害スルノ罪ニシテ分テ御名、御璽、國璽ヲ以テスル文書ニ關スルモノ公務員又ハ公務所ノ名ヲ以テスル文書ニ關スルモノ及ヒ私人ニ關スル文書ノ偽造變造又ハ行使ノ罪ヲ規定シタルモノナリ各條ノ説明ニ先キ文書ノ意義ヲ述フルノ必要アリ文書ノ觀念ニ付テハ學說判例區々ニシテ一定セス法學者カ難解ノ一トスル所ナリ而シテ其第一說ヲ形式主義トス即チ文書偽造罪ハ文書ノ形式ヲ保護スルモノナルヲ以テ假令其內容ハ事實ト符合スルモ形式ヲ僞ルトキハ文書ノ偽造ナリト謂ヒ第二說ヲ實質主義トシ文書ノ目的ハ事實ノ真正ニアルヲ以テ實質ヲ僞ラサル以上ハ其形式ヲ僞ルモ文書偽造ヲ以テ論スヘカラスト多數ノ學者ハ第二說ヲ主張スルモ大審院判例ハ第一說ヲ採ル而シテ吾人ハ文書偽造罪ハ文書ノ真正ヲ害シ實質ヲ生シ得ヘキモノヲ罰スル規定ナルヲ以テ其形式ト實質トニ關セス



眞正ヲ偽リ實害ノ伴フヘキ性質ノモノハ凡テ之ヲ包含スルモノト解ス

第一〇二 文書トハ文字又ハ符號ニ因ル意思ノ表示ナリ必スシモ紙面ニ筆墨ヲ以テ記載シタルモノニ限ラス板壁金厨等ニ彫刻シタルモノハ勿論絹布類ニ染附ケタル如キ皆之ヲ包含ス又符號ヲ以テスル電信或ハ盲目者用ノ點字ノ如キ皆文書ト謂フヘキモノナリ而シテ文書ニハ公文書及私文書ノ區別アリ公文書トハ舊刑法ノ所謂官文書ニシテ官吏公吏カ其資格ニ於テ作製スル文書ヲ云ヒ私文書トハ一人ノ資格ヲ以テ作成スル文書ヲ謂フ或ハ公文書トハ公務員カ公法上ノ關係ニ於テ作成スルモノニ限り私法的行爲ノ爲メニ作成スルモノハ私文書ニ屬スト云フ學者アルモ吾人ハ公法上ト私法上トヲ論セス公務員カ其權限内ニ於テ作成スルモノハ皆公文書ナリト云フ至當ナリト信ス

第一〇三 文書ニ對スル物ハ圖畫ナリ圖畫モ思想ノ表示ナルモ一定ノ文字ニ依ラス其形狀ニ依リテ思想ヲ表示スルモノナリ例ハ圖面又ハ屋號ノ如キ之ナリ新刑法ニ於テハ文書ト同シク其偽造變造ヲ罰セリ

第一〇四 文書ハ事實ノ證明ニ供スル具ナリ單ニ意見又ハ論說ヲ記載シタルモノハ文書ニアラス又一定ノ思想ノ表示ナルヲ以テ其草案ノ如キハ文書自体ニアラサルヲ以テ偽造罪ノ目的物トナラサルモノナリ文書ニハ一定ノ責任者ノ名義アルヲ以テ其證明ノ用ヲ爲スモノナリ換言セハ責任者ナキ文書ハ文書ニアラサルナリ而シテ其名義又實在ノ人ヲ要スルヤ否ヤハ多少ノ問題ナリ即チ公文書偽造罪タルニハ其公務員又ハ公務所ノ實在スルユトヲ要スルヤ又私文書ナレハ其名義人ハ現ニ存在スル者タルヲ要スルヤ之ナリ元來文書偽造ヲ罰スルハ文書ノ眞正ヲ保チ取引上ノ信用ヲ確實ナラシムル爲メナルヲ以テ官制上存在セサル官ノ文書ナルモ人ヲシテ相當官署ノ文書ナルカ如ク信セシムルニ足ル程度ノモノナレハ官文書偽造ト謂フヘク私文書ニアリテモ名義人ヲ實在ノ者ト信スルニ足ルヘキ形式ヲ具備スレハ實害アリト謂フヘク從テ文書偽造罪ハ成立スルモノト信ス要スルニ名義ヲ冒サレタル官署又ハ私人ノミヲ保護スルニアラスシテ文書ノ提示ヲ受ケテ之ヲ取引シタル第三者ヲモ保護スル主旨ナルヲ以テナリ



第一〇五 文書ノ偽造トハ公務員公務所又ハ私人ノ名ヲ冒シテ新ニ文書ヲ作成スルヲ云ヒ變造トハ現在セル文書ノ内容ニ變更ヲ加フル行爲ナリ然トモ既存ノ文書ト雖トモ權利關係ヲ全ク變更スルモノハ偽造ナリ例ヘハ金百圓ノ借用證書ニ五ヲ加ヘテ五百圓トスルハ變造ナルモ借用名義人甲ヲ乙ニ變更シ又ハ借用證ヲ贈與トスル如キハ既存ノ文書ヲ基本トスル偽造ナリト謂フヘシ

第一百五十四條「行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若シクハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若シクハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタルモノハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス」

「御璽、國璽ヲ捺捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ」  
 第一〇六 本條ハ文書中最モ名義ノ重大ナルモノニシテ至尊又ハ帝國ノ國璽ヲ冒シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造又ハ變造スル罪ノ規定ナリ而シテ御璽トハ天皇陛下ノ御印章ナリ國璽トハ大日本帝國ノ印章ナリ御名トハ天皇陛下ノ御名ヲ奉稱ス詔書トハ國務ニ關スル詔勅又ハ皇室ニ關スル大事ヲ宣言シ給

フ文書ナリ即チ本罪ハ御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シテ詔書等ヲ作成スルモノナリ眞正ナル御印章ヲ盗用スルト之ヲ偽造シテ使用スルトヲ問ハサルモノナリ而シテ眞正ナル詔書其他ノ文書ニ工作ヲ加ヘテ變造シタル者モ其害ハ偽造ト異ナラサルヲ以テ同シク之ヲ罰シ何レモ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處スヘキモノト規定セリ之レ君主及國家ノ威信ニ關スル重要ノ罪ナレハ其刑重キモノトス

第一百五十五條「行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若シクハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若シクハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若シクハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス」

「公務所又ハ公務員ノ捺印若シクハ署名シタル文書若シクハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ」  
 「前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若シクハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務員ノ作リタル文書若シクハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以上ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス」

第一〇七 本條ハ公文書偽造及變造罪ニ關スル規定ナリ公文書トハ官吏公吏



其他ノ公務員カ法令ノ規定ニ從ヒ其權限内ニ於テ國家又ハ公共團體ノ業務執行ノ爲メ作成スル文書ヲ謂フ而シテ第一項ハ公務所又ハ公務員ノ印章若シクハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書又ハ圖畫ヲ偽造スル罪ノ規定ナリ凡ソ文書ニ最モ信用ヲ置クハ其署名又ハ印章ニアリ然ルニ公務所又ハ公務員ノ印章ヲ使用シテ文書ヲ偽造シ之ヲ行使スルトキハ國家又ハ公共團體ノ信用ヲ害スルコト重大ナルヲ以テ私文書ニ比シ重ク之ヲ罰スルノ必要アリ故ニ詔書ニ次キテ重ク一年以上十年以下ノ刑ニ處スルコト爲シタリ本罪ハ公務員ノ作成スヘキ文書ヲ其名義ヲ冒シテ作成スルヲ要スルヲ以テ舊刑法ニテハ一私人カ作成シテ官ニ提出シタルモノ例ヘハ屆書願書申請書等ノ如キハ官ニ保管セル間ハ官文書ナリトノ判例ナリシモ新刑法ニ於テハ之等ハ公文書ニアラスト解セサル可ラス然トモ苟モ公務員ノ作ルヘキ文書又ハ圖畫ナル以上ハ假令實質形式トモ真正ノ文書ニ符合シ眞實ヲ僞ラス又公法上ノ行爲ト私法上ノ行爲ヲ問ハス總テ公文書偽造ナリト謂フヘシ

**第一〇八** 本條第二項ハ既存ノ公文書ノ内容ニ工作ヲ加ヘテ變更スル罪ノ規定ナリ即チ公務員カ法令ノ規定ニ依リ公務所又ハ公務員ノ名ヲ以テ作成シタル文書若シクハ圖畫ノ記載事項ヲ増減變換スルモノナリ斯ノ如キハ公文書ヲ新ニ偽造スルト同シク公務所又ハ公務員ノ信用ヲ傷クルコト極メテ大ナルヲ以テ偽造罪ト同一ノ刑ヲ科スヘキモノト規定セリ

**第一〇九** 本條第三項ハ前二項ニ規定セル以外ノ公文書ヲ偽造シ又ハ變造スル罪ノ規定ナリ例ヘハ公務所又ハ公務員ノ印章ヲ用ヒス又ハ其署名ナキ文書ヲ偽造シ又ハ變造スル行爲ナリ署名捺印アル文書ニ比シ他人ヲ確信セシムル力薄弱ニシテ其害前二者ニ比スレハ輕少ナルヘキヲ以テ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ヲ科スルニ止メタルナリ

**第一一〇** 以上何レモ行使ノ目的ヲ以テスルコトヲ本罪成立ノ一要素トス行使ノ目的アルノミニテ足ルヲ以テ實際使用シタルコトヲ要セス而シテ行使ノ目的トハ文書ノ効力ヲ相手方ニ對抗セント欲スル希望ヲ謂フ必シモ當事者ニ提出スルコトヲ要セス一定ノ場所ニ備ヘ付ケテ効用ヲ爲スモノハ之ヲ



備付ケント欲スルヲ以テ充分ナリトス

第一百五十六條「公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ文書若シクハ圖畫ヲ作り又ハ文

書若シクハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル」

第一一一 本條ハ自己ノ名義ヲ以テスル文書ノ偽造變造ニ關スル罪ノ規定ニシテ學說上所謂無形ノ文書偽造ト稱スルモノナリ凡ソ文書偽造ノ觀念ハ他人ノ名義ヲ冒スニアリテ自己ノ名義ヲ以テスルトキハ其責任者ハ自己ニ存シ實害ノ伴フユトナキ理ナルヲ以テ之ヲ罰スルノ必要ナシ然トモ官吏公吏カ職務上作成スヘキ場合ニ虚偽ノ文書ヲ作り又ハ既存ノ文書ニ變更ヲ加フル如キハ假令自己名義ノ文書ナルモ決シテ實害ナシト謂フヘカラス故ニ舊刑法第二百五條ニ於テモ官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ云々ト規定シ無形ノ文書偽造變造ヲ罰スル規定アリタリ本條ハ之ヲ修正シタルニ過キス無形偽造ノ例ヲ舉クソハ出納官吏カ金圓ヲ騙取セント欲シテ虚偽ノ支拂命令書ヲ作り又ハ登記官吏カ登記ノ申請ナキニ登記簿證ヲ作ルカ如シ又變造トハ自己ノ管掌スル公文書ノ内容ニ増減變換

ヲ加フルヲ云フ例ヘハ出納官吏カ現金出納簿ノ支拂金額ヲ増加記入スルカ如キ之レナリ斯ノ如キ行爲ハ普通ノ公文書ヲ偽造變造スルト其害少シモ異なる所ナシ故ニ印章署名ヲ使用シタルト否トヲ區別シ其刑ハ第一百五十五條ノ規定ニ依リテ罰スルコトト定メタルナリ

第一百五十七條「公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲シメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲シメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス」

「前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス」

第一一二 本條ハ公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ不實ノ記載ヲ爲シメタル罪ノ規定ナリ前條ハ公務員自ラ虚偽ノ事實ヲ假想的ニ記載シタル罪ナルモ本條ハ公務員ヲ欺キテ不正ノ公文書ヲ作成セシメタル罪ナリ例ヘハ登記官吏ニ對シ虚偽ノ賣買契約書ヲ提出シテ權利移轉ノ登記ヲ爲シメ又ハ公證人ニ虚偽ノ事實ヲ陳述シテ證書ヲ作成セシムルカ如シ又虚偽ノ申立ヲ爲シ



テ免狀鑑札又ハ旅行券ニ不實ノ記載ヲ爲サシムル如キモ亦是レナリ如斯ハ  
公務員ノ手ヲ籍リテ公文書ヲ偽造スルモノト謂ヒ得ヘシ而シテ第百五十五  
條及第百五十六條ノ犯罪ニ比シ稍其情輕キヲ以テ其刑ヲ少シク減シタルモ  
ノナリ

第百五十八條「前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若  
クハ變造シ又ハ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑  
ニ處ス」

「前項ノ未遂罪ハ之ヲ罪ス」

第一一三 本條ハ偽造又ハ變造ノ文書圖畫ヲ行使シタル罪ノ規定ナリ舊刑法  
ニ於テハ官私文書ノ偽造變造罪ハ其行使シタルコトヲ以テ罪ノ成立條件ト  
爲シタルモ新刑法ハ行使ノ目的ヲ以テ偽造變造スレハ犯罪成立スルモノト  
定メ行使シタルコトヲ要セスト爲シタリ故ニ偽造變造ノ文書タルコトヲ知  
リテ之ヲ行使スルモノハ獨立ノ一罪ト定ムル必要アリ本條ハ即チ之ヲ明カ  
ニシタルモノナリ故ニ第百五十四條乃至第百五十七條ニ規定セル文書ナル

コトヲ知リテ之ヲ行使スルトキハ之ヲ偽造變造シタル者ト同一ノ刑ヲ科セ  
ラル可キモノナリ若シ偽造變造者自ラ之ヲ行使シタルトキハ第五十四條ニ  
依リ併合罪ニ照ラシテ處斷スヘキモノトス而シテ行使ノ既遂未遂ヲ區別ス  
ル標準ハ如何凡ソ文書ノ目的ハ其効力ヲ相手方ニ對抗スルカ爲メ他人ニ提  
示スルニアリ故ニ相對スル者ニアリテハ議論ナキモ隔地者ニ對スルトキハ  
(一)文書ヲ發送シタルトキ(例ヘハ郵便ニ付シタルトキノ如シ)(二)文書カ相手方  
ニ到達シタルトキ(三)相手方カ其文書ヲ實見シテ之ヲ諒知シタルトキニ分ツ  
コトヲ得ヘシ而シテ吾人ハ第三諒知主義ヲ採リ相手方カ文書ノ内容ヲ實見  
シタルトキ既遂ト爲ルヘキモノト信ス夫レ迄ハ未遂ノ狀況ニアルモノトス  
此未遂罪ヲ罰スル必要アルハ別ニ説明ヲ要セス

第百五十九條「行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ  
關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ利用シテ權利義  
務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス」  
「他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖



書ヲ變造シタル者亦同シ」

「前二項ノ外權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖書ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス」

第一一四 本條ハ私文書及圖書ヲ偽造又ハ變造シタル罪ノ規定ナリ本罪ノ目的タル私書ハ權利義務又ハ事實立證ノ用ニ供スル文書ニ限ル即チ諸種ノ契約書受取書注文書等法律行為ニ關スルモノ及之ヲ立證スル文書例ヘハ委任狀保證書受書ノ如キ之ナリ故ニ單純ナル日用文タル彼ノ花見誘引狀又ハ案内狀ノ如キハ之ヲ含マサルモノトス

第一一五 私文書偽造ノ重ナル場合ハ他人ノ名義ヲ以テ作成スルモノナリ然トモ彼ノ白紙委任狀ト稱シ真正ノ署名捺印ノミアリテ委任條項ヲ記載セスシテ交付ヲ受ケタルモノカ委任權限外ノ事項ヲ妄リニ記入スル如キモ又偽造ナリ保證人タル承諾ヲ得スシテ他人ノ姓名ヲ記入シ金圓ヲ借用スル如キ遺言ヲ受ケサルニ之ヲ受ケタル如ク裝フテ遺言書ヲ作製スル如キモ皆私書偽造ナリト云フヘシ私文書ノ變造モ偽造ト同一ノ實害ヲ伴フヘキヲ以テ刑

ヲ同シクシタルナリ變造ノ如何ナルモノナルヤハ公文書變造ノ説明ニ依リテ明カナリ

第六十條「醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書檢案書又ハ死亡證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス」

第一一六 本條ハ無形ノ私文書偽造ヲ罰スル規定ナリ公文書ニアリテハ公務員其職務ニ關スルトキニ限り無形ノ偽造ヲ罰シ私文書ニ付テハ本條ヲ以テ醫師ニ限り之ヲ罰スルニト規定シタリ其成立要素ハ(一)醫師ナルコト(二)公務所ニ提出ス可キ診斷書檢案書又ハ死亡證書ナルコト(三)虛偽ノ記載ヲ爲シタルコト之ナリ診斷書トハ自己カ診察シタル患者ノ病狀ヲ證明スルモノヲ云ヒ檢案書トハ變死者等ノ屍體ニ付キ其死因ヲ検査證明スルモノヲ云フ而シテ死亡證書トハ自己カ診察シタル者ノ死亡シタルトキ之ヲ證明スルモノトス虛偽ノ記載ヲ爲ストハ疾病ニアラサル者ヲ病氣ト爲シ又ハ毒殺ヲ病死ト檢案シ或ハ死亡日時ヲ變更スル等ノ如キ之ナリ何レモ公務所即チ裁判所警察署市町村役場等ノ官廳公署ニ提出スヘキ場合ニ限り之ヲ罰スルモノトス



第六十一條「前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若シクハ變造シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス」

「前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス」

第一一七 本條ハ偽造變造シタル私文書ヲ行使シタル罪ノ規定ナリ公文書ニ付キテ述ヘタルカ如ク新刑法ニ於テハ偽造變造シタル而已ヲ以テ一罪ト爲シタルヲ以テ偽造變造者自テ之ヲ行使スルトキハ想像上ノ數罪俱發ト爲ルヘク他人カ偽造變造ノ文書タル情ヲ知リテ之ヲ行使スルトキハ本條ニ依リ偽造變造シタル者ト同一ノ刑ヲ科セラルヘシ第二項ハ行使ノ未遂ヲ罰スルノ規定ナリ別ニ説明ヲ要セス

### 第十八章 有價證券偽造ノ罪

第一一八 本章ハ有價證券ノ信用流通ヲ保護スルカ爲メ其偽造變造又ハ虛偽ノ記載ヲ爲ス罪ヲ規定シタルモノナリ有價證券トハ其權利ノ行使ニ證券ノ占有ヲ必要條件トスルモノヲ云フ換言セハ其證券ヲ離レテハ權利ノ實行ヲ

爲スコト能ハサル性質ノ證券ナリ例ヘハ公債證書大藏省證券各官府ノ支拂命令書及爲替手形約束手形小切手並ニ倉庫業者ノ發スル預證券質入證券ノ如シ之等ノ證券ハ動産ト同シク證券ノ占有ニ依リテ權利ヲ移轉シ其効用殆ント貨幣又ハ紙幣ト同シク流通スルモノニシテ權利ノ實行ハ一ニ證券ニ依リテ行ハルモノナリ故ニ之ヲ偽造變造スルハ取引上ノ信用ヲ害シ經濟界ニ不安ノ念ヲ與フルヲ以テ普通ノ私文書偽造罪ニ比シ一層重ク之ヲ罰スルノ必要アリ且ツ特別ノ性質ヲ有スルモノナルヲ以テ文書偽造罪ヨリ分離シテ本章ヲ設ケタルモノトス

第六十二條「行使ノ目的ヲ以テ公債證書官府ノ證券會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス」

「行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ」

第六十三條「偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之人ニ交付シ若シクハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス」

「前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス」



第一一九 第六十二條第一項ハ有價證券ノ偽造變造ニシテ第二項ハ既存證券ニ虚構不實ノ記載ヲ爲ス罪ノ規定ナリ而シテ何レモ行使ノ目的ニ出タルコトヲ要ス第六十三條ハ右不正ノ證券タルコトヲ知リテ之ヲ行使シ又ハ人ニ引渡シ若シクハ我國内ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ト同シク三月以上十年以下ノ懲役ニ處スルノ規定ナリ別ニ説明ヲ要セス

### 第十九章 印章偽造ノ罪

第一二〇 本章ハ舊刑法ノ官印及ヒ私印ヲ偽造スル罪ノ規定ヲ修正シタルモノナリ其規定スル所ハ御璽、國璽、御名及ヒ公務所、公務員ノ印章、署名並ヒニ一人ノ印章署名偽造及行使ニ關スル罪ナリ凡ソ印トハ印類ニ依リ顯ル印影ヲ指スモノナルヲ以テ印章ノ偽造トハ印類ヲ偽造スルヲ云フモノナルヤ又ハ印影ヲ偽造スルコトヲ云フモノナリヤニ付テハ學者間議論一定セサル所ナルモ舊刑法ニハ印類ノ偽造ト印影ノ盗用ヲ區別シテ規定シタルモ新刑法ニハ印影盗用ノ規定ナキニ依リテ見レハ之ヲ合シテ印章ノ偽造ト爲シタル法

意ナルヘシト信ス

第一二一 印章ノ偽造ハ必ラスシモ實物ニ酷似スルコトヲ要セス一般人ヲシテ真正ノ印ナリト信セシムル程度ニ達スレハ可ナリ故ニ實印タルト認印タルヲ問ハス又形狀大小等眞印ト異ナルモ本罪タルヲ失ハス若シ公務所、公務員ノ印ナルトキハ人ヲシテ公務所又ハ公務員ノ印ナリト信セシムル形式ヲ具備スレハ足レリ寸尺文字ニ於テ多少ノ差異アルモ仍ホ偽造罪タルヘシ

第六十四條「行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス」

「御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ」

第六十五條「行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若シクハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス」

「公務所又ハ公務員ノ印章若シクハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若シクハ署名ヲ使用シタル者亦同シ」



第六十六條「行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス」

「公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ」

第六十七條「行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若シクハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役

ニ處ス」

「他人ノ印章若シクハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者

亦同シ」

第六十八條「第六十四條第二項第六十五條第二項第六十六條第二項及前條第二項ノ

未遂ハ之ヲ罰ス」

第一二二 御璽トハ天皇陛下ノ御印ヲ奉稱シ國璽トハ大日本帝國ノ印章ヲ謂

ヒ御名トハ天皇陛下ノ御署名ヲ指ス意ナリ偽造トハ新ナル材料ニ依リテ眞

印ニ模擬シタル印章ヲ製作スルコトヲ謂ヒ御名ヲ偽造スルトハ眞正ナル御

名ニ模擬シタル名義ヲ作ルコトヲ云フ不正ニ使用スルトハ御璽國璽又ハ御

名ヲ盜用スルコトヲ云フ而シテ本章規定ノ印章ヲ偽造又ハ盜用シテ詔書其

他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ第十七章文書偽造罪ト本章ノ罪ノ併合罪タルヘ

キナリ

第一二三 公務員ノ印トハ法令ニ依リテ定メラレタル印ヲ云フ故ニ公務員自

身ノ實印認印ヲ偽造スレハ私印偽造ト謂ハサルヘカラス然トモ眞印ト符合

スルコトヲ要セス大体ニ於テ公務員ノ印ト認メシムルニ足レハ十分ナリ公

務所ノ記號トハ產物商品等ニ押捺スル官ノ符號ニシテ印章ト異ナルハ文字

ヲ以テ表示スルト否トニ存ス記號ハ單ニ符牒タルニ過キサルモノナリ

第一二四 私印トハ一人ノ印章ナリ法人ノ如キ法律上人格ヲ有スル者ハ勿

論組合其他團體ノ用ユル印モ亦私印中ニ包含ス他人ノ署名ヲ使用スルトハ

眞正ナル署名ニ擬シテ新ニ作成シ又ハ眞正ノ署名ヲ切り抜き之ヲ不正ニ使

用スルコトヲ云フ

### 第二十章 偽證ノ罪

第六十九條「法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ

懲役ニ處ス」



第一二五 證人トハ自己ノ實見シタル過去ノ事實ヲ陳述スル第三者ヲ云フ民事刑事ノ裁判ニ於テ事實確定ノ爲メ裁判官ノ心證ヲ十分ナラシメ裁判ヲ公平圓滑ニ實施スルニハ事件ニ付内容ヲ認知シタル第三者ヲ審訊スルノ權ヲ認メサルヘカラス又何人モ裁判官ノ訊問ニ對シ眞實ヲ述ヘテ裁判權ノ施行ヲ圓滿ナラシメサルヘカラス故ニ法律ハ特定ノ人ヲ除クノ外裁判所ノ呼出シニ應シテ出廷シ訊問ヲ受ケ眞實ヲ述フルノ義務アルコトヲ規定セリ

第一二六 偽證罪ハ法律ニ依リ宣誓ヲ爲シタル證人ニシテ虛偽ノ陳述ヲ爲スニ因リテ成立スルモノナリ宣誓トハ良心ニ從ヒテ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサル誓言ナリ而シテ法律ニ因ルトハ刑事民事訴訟法及行政裁判法陸海軍治罪法等ニ於テ證人訊問ノ權ヲ規定シタル法律ヲ云フモノナリ故ニ其法律ニ於テ證人タルノ義務ヲ免除シタル者ハ假令誤リテ宣誓ヲ爲シタル上虛偽ノ陳述ヲ爲スモ罪ト爲ラサルナリ

第一二七 虛偽トハ自己ノ認識シタル事實以外ノ事實ヲ陳述スルヲ謂フ證人ハ過去ノ事實ヲ其記憶ニ因リ誠實ニ供述スルモノナリ故ニ記憶ニ存セサル

事實ヲ假想シテ陳述スルヲ許サス然トモ自己ノ意見トシテ參考ノ爲メニ陳述スルハ差支ヘナシ偽證ノ多クハ當事者ヲ曲庇シ又ハ陷害セシメント欲スル目的ニ出スルモノナルヘシ然トモ本條ハ其目的ヲ有スルト否トニ拘ハラズ虛偽ノ事實ヲ陳述スレハ本罪直チニ成立スルモノトス而シテ偽證ヲ罰スルハ裁判ノ眞實ヲ誤ラシメサルニアリ故ニ例ヘハ被告人ヲ曲庇セント欲シテ自己ノ記憶ニ反スル證言ヲ爲スモ其證言カ偶事實ニ符合スルトキハ之ヲ罰スルノ必要ナシ故ニ虛偽トハ證人ノ主觀的ニモ又客觀的事實ニ於テモ虛偽タル場合ヲ云フモノト解ス

第一百七十條「前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得」

第一百七十一條「法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ」

第一二八 偽證ヲ爲シタル者事件ノ終結以前ニ事實ヲ自白シタルトキハ之ヲ罪スルノ必要ナシ偽證罪ハ元來裁判ノ公平ヲ維持センカ爲メニ刑罰ヲ科シ



強制スルモノナルヲ以テ裁判確定前ニ眞實ヲ述フルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルヲ得ヘキコトト規定シタリ之レ自白ヲ促カス一ノ政策ヨリ出タルモノナリ

**第一二九** 鑑定トハ自己ノ特別ノ技能ニ因リ事件ニ關シ意見ヲ陳述スル第三者ヲ云フ。通常學識技藝ニ因リ或事物ノ判斷ヲ爲シ裁判官ノ特別智識ヲ補充スルモノナリ致死ノ原因又ハ偽造印鑑ニ付キ醫師又ハ彫刻師カ鑑定スルカ如シ通事トハ訴訟當事者間ニ立テテ意思ヲ疏通スル第三者ナリ外國人カ被告ナルトキ之ヲ通譯スル者或ハ瘡腫者ノ意思ヲ通スル者ノ如キ皆之ヲ通事ト云フ法律ニ依リ宣誓シタル上虛偽ノ鑑定又ハ通事ヲ爲ストキハ偽證ト同シク實害アルヲ以テ之ヲ罰スルモノトセシナリ

### 第二十一章 誣告ノ罪

**第一三〇** 誣告トハ刑事又ハ懲戒處分ヲ受ケシメント欲シ無實ノ申告ヲ爲スコトヲ謂フ故ニ一定ノ犯罪ヲ行ヒタル者ヲ告訴スルハ法律上ノ權利ニシテ

誣告ニアラス誣告ハ故意ヲ以テ犯罪事實ナキ者ニ對シ有リト誣ユルヲ云フ  
**第七十二條** 「人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ**第六十九條ノ例ニ同シ**」

**第七十三條** 「前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得」

**第一三一** 刑事ノ處分トハ刑法上ノ刑罰ヲ受クルコトヲ謂ヒ懲戒トハ公務員及辯護士公證人等カ職務上ノ義務ニ違反シタル場合ニ行政上ノ懲罰ヲ加フルコトヲ謂フ官トハ犯罪搜查ニ付キ法律上ノ職權ヲ有スル公務員又ハ懲戒訴追ノ權ヲ有スル監督長官ヲ指ス故ニ之等ノ職權ナキ者ニ申告スルモ本罪ト爲ラス

**第一三二** 本罪ハ偽證罪ト其性質ヲ異ニスルモ要スルニ公平ナル裁判權ノ施行ヲ害スル行爲ニ屬スルヲ以テ之ト刑罰ヲ同クシ又裁判若クハ懲戒處分ノ確定前自白シタルトキハ其刑ヲ減免スルコトト爲シタリ

### 第二十二章 猥褻姦淫及重婚ノ罪



第七十四條「公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス」

第七十五條「猥褻ノ文書圖書其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ」

第一三三 猥褻ノ行爲トハ淫事ニ關シ醜陋見ルニ堪ヘサル行爲ヲ云フ即チ善良ノ風俗ニ反シ淫靡ノ感情ヲ挑發スルモノナリ而シテ之ヲ罰スルハ社會ノ風教ヲ害シ青年男女ヲ駢リテ墮落ノ淵ニ陥ラシムル動機ト爲ルヲ以テ之ヲ防遏シ善良ノ風俗ヲ養ハンカ爲メナリ故ニ公然之ヲ行フコトヲ條件ト爲シタリ秘密ニ之ヲ行フ如キハ假令醜行ニ亘ルモ外部ニ曝露セサルヲ以テ善良ノ風俗ヲ害スルノ恐レナクハナリ公然トハ公衆ノ眼目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ行フコトヲ云フ例ヘハ公園道路汽車船待合室ノ如ク人ノ自由通行ヲ許シタル場所ハ勿論私邸内ト雖モ店頭浴場等モ亦之ヲ含ムヘシ

第一三四 猥褻ノ文書圖書其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣又ハ公然陳列スルトキモ亦善良ノ風俗ニ害アリ且特定ノ物件ニ係ルヲ以テ一層深刻ナル感情ヲ與フ故ニ其刑ヲ重クシタルモノトス

第七十六條「十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ」

第七十七條「暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ」

第一三五 第七十六條ハ暴行脅迫ヲ加ヘテ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル罪ナリ十三歳以上ノ婦女ハ淫事ヲ解スル者ナルヲ以テ任意ニ之ヲ行フハ公然ノ場合ヲ除クノ外之ヲ罰スルノ必要ナシ然トモ其意ニ反シ殊ニ暴行脅迫ヲ加フル如キハ其場所ノ如何ヲ問ハス之ヲ罰セサルヘカラス十三歳ニ滿タサル婦女ハ智育體育共ニ發達セサルモノナルヲ以テ其手段ノ如何ヲ問ハス猥褻ノ行爲ヲ爲ス如キハ惡感化ヲ與ヘ幼者ノ發育ヲ害スルヲ以テ意思ニ反セサル場合ト雖モ之ヲ罰スルコトト爲シタルナリ

第一三六 第七十七條ハ強姦罪ノ規定ナリ強姦トハ暴行脅迫ヲ加ヘテ婦女ヲ姦淫スルコトヲ謂フ其成立要素ハ(一)被害者ハ婦女ナルコト(二)姦淫シタルコト(三)其手段トシテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコト之レナリ被害者ノ婦女ト



ルヲ要スルハ其貞操ヲ保護スル法意ナリ故ニ男子間ニ行ハルル姦姦ノ如キハ猥褻罪タル場合アルヘシト雖モ本罪ノ目的物ト爲ラサルナリ而シテ被害者ハ婦女ナルコトヲ要スルモ加害者ハ男子ノミニ限ラス男子ト女子ト共犯スルトキハ女子モ強姦罪ノ正犯ヨリ得ヘシ(女子カ男子ノ強姦ニ加擔シテ暴行又ハ脅迫ノ一要素ヲ實行スルカ如シ)姦淫トハ男女間ノ交接ヲ謂ヒ之ヲ遂クル手段トシテ暴行又ハ脅迫ヲ加フルヲ要スルナリ暴行トハ腕力ヲ以テ抵抗力ヲ無効ニ歸セシムルコトヲ云ヒ脅迫トハ害惡ヲ通告シ精神上ニ恐怖ノ念ヲ生セシメ以テ何レモ婦女ノ自由意思ヲ拘束スルモノナリ而シテ被害者カ十三歳未滿ノ婦女ナルトキハ暴行脅迫ノ手段ヲ用ヒサルモ姦淫シタル一事ヲ以テ強姦罪ト同シク二年以上ノ有期懲役ニ處スモノト規定セリ之レ十三歳未滿ノ者ハ承諾スルモ完全ナル意思アリト認ムルヲ得ス又體育發達セサル者ヲ犯スカ如キハ人道ニ反シ且幼者ノ發育ヲ害スルヲ以テ和姦ヲ認マサル法意ニ出テタルモノトス

第一百七十八條「人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗

拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ」

第一百七十九條「前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス」

第一百八十條「前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス」

第一三七 第一百七十八條ハ準強姦罪及猥褻罪ノ規定ナリ即チ心神喪失ノ狀況ニアル婦女ニ對シ(發狂者ノ如シ)猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫スル者ハ猥褻及強姦罪ノ規定ニ照シテ處分スヘキコトヲ定メタルモノナリ抗拒不能トハ抵抗力ヲ失ヒタル場合ニシテ疾病睡眠其他身體ニ障礙ヲ受ケテ排除スル力ヲ失ヒタルコトヲ云フ之等ノ場合ヲ利用シタル者ハ勿論之ヲシテ心神喪失ニ至ラシメ又ハ抗拒不能ナラシメテ猥褻又ハ姦淫シタルモノモ同シク之ヲ罰スルコトト爲シタリ

第一三八 第一百七十六條乃至第一百七十九條ノ罪ハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スルコトト爲シタリ蓋シ之等ノ所爲ハ人ノ名譽ニ關スルコト重大ナルヲ以テ被害者ノ意思ニ反シテ訴追スルハ隱秘ヲ曝露シ益被害者ノ地位ヲ耻カシムルコトナシトセス是レ告訴ヲ條件ト爲シタル所以ナリ告訴權ヲ有スル者ハ被害



者及其法定代理人ナリトス

第百八十一條「第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス」

第百八十二條「營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以上ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス」

第百八十三條「有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ」

挑發シテ淫逸ニ流カレシムルコトヲ防クニアルヲ以テ既ニ淫行ノ常習アル者ヲ勸誘スル如キ本罪ノ間フ所ニアラサルモノトス

「前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ効ナシ」

第百八十四條「有夫ノ婦姦通シタルノ規定ナリ其要件ハ(一)有夫ノ婦ナルコト(二)夫以外ノ男子ト姦淫シタルコト之レナリ有夫ノ婦トハ民法ノ規定ニ從ヒ正當ニ婚姻ヲ爲シ戸籍吏ニ届出テタル夫ヲ有スル婦女ノ謂ヒナリ地方慣例ニ從ヒ夫婦盃ヲ爲シ又ハ内縁ト稱スル如キモノハ法律上ノ夫婦タル身分關係ヲ有セサルモノトス而シテ夫以外ノ男子ト通シタル事實アルコトヲ必要トス有夫ノ婦女タルコトヲ知リテ相通シタル男子ハ共犯トシテ其婦女ト共ニ姦通罪ノ刑ヲ受クヘキコト勿論ナリトス

第百八十五條「姦通ハ本夫ノ名譽ニ關スル重大ナルヲ以テ其告訴ヲ待テ罪ヲ論スルコトト爲シタリ然トモ本夫カ姦通行爲ヲ明示又ハ默示ヲ以テ許容シタル事實アルトキハ其告訴ハ効力ナキモノトス是レ夫權ノ一部ヲ拋棄シタルモ



ノト認メラルルニ因ル

第百八十四條「配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ」

第一四三 本條ハ重婚罪ノ規定ナリ一夫一婦ハ我國法上ノ制度ナリ然ルニ配偶者アル者カ重ネテ婚姻スル如キハ身分關係ヲ紊リ秩序ヲ害スルヲ以テ既婚者ハ前婚ノ解消セサル限り重ネテ婚姻スルハ法律ノ許ササル所ナリ故ニ二年以下ノ懲役ニ處スルコトト爲シタリ配偶者アルコトヲ知リテ之ト相婚シタル者モ亦共犯トシテ同一ノ刑ニ處セラルヘキコト勿論ナリ然レモ其情ヲ知ラサル相手方ハ無罪タルヤ明カナリ

### 第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第一四四 賭博ハ射倖心ヲ增長シ遊逸ニ流レ惰民ヲ増シ國家ノ生産力ヲ減シ勤儉力行ノ美風ヲ壞ルモノナルヲ以テ之ヲ禁遏スルモノナリ賭博ニ博戯ト賭事ノ二種アリ博戯トハ二人以上ノ當事者カ偶然ノ争ヒニ因リテ勝敗ヲ決

シ敗者カ勝者ニ約束ノ財物ヲ交付スルモノナリ賭事ハ或事物ノ判斷ニ付キ意見ヲ異ニシタル當事者カ豫メ約束シテ勝者ニ一定ノ財物ヲ交付スル契約ヲ爲シ其結果ニ依リ勝者カ敗者ヨリ受取ル行爲ヲ云フ何レモ賭博罪ニシテ特ニ之ヲ區別スルノ必要ナシ富籤モ賭博ト同シク偶然ノ出來事ニ依リ僥倖ヲ得ルモノナルモ其方法ハ財物ヲ醜集シ抽籤ヲ以テ其當籤者ニ特定ノ財物ヲ配當スルモノナリ我刑法ニ於テハ賭博ト富籤ハ之ヲ分テ規定ヲ設ケタリ

第百八十五條「偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

第一四五 本條ハ賭博罪ノ規定ナリ而シテ財物ヲ賭セサルモノ及之レヲ賭スルモノ一時ノ娛樂品タルモノハ之ヲ罰セサル精神ナリ偶然ノ輸贏ニ關スルコトヲ條件トシタルハ競技ト區別センカ爲メナリ競技トハ當事者ノ智識技能力量等ニ依リ優劣ヲ争フモノナルヲ以テ獎勵ノ爲メ賞與ヲ與フルカ如キコアルモ決シテ弊害ナク咎ムヘキモノニアラサレハナリ要スルニ賭博ニ於テ



勝敗ヲ決スルハ財物取受ノ手段トスルモノナルヲ以テ特別ノ技能ヲ要セス何人ト雖モ直チニ之ヲ行ヒ得ヘキ性質ノモノニ屬ス是レ競技ト大ニ異ナル所以ナリ舊刑法ニ於テハ體刑ヲ科シタルモ短期ノ體刑ハ何等ノ効力ナキヲ以テ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處スルコトト爲シタリ且舊刑法ニテハ現行犯ノ場合ニ在ラサレハ之ヲ罰セカリシモ新刑法ニ於テハ非現行犯ト雖モ之ヲ罰スルコトト爲シタリ

第百八十六條 「常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス」

「賭博場ヲ開帳シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス」

第一四六 本條ハ常習ノ博徒及ヒ博徒ノ親分ト稱スル者ニ重刑ヲ科シ惡風ヲ一掃セヨトト期シタルモノナリ即チ賭博ノ慣行アル者ハ三年以下ノ懲役ニ處シ賭場ヲ開キタル者寺元又ハ堂元ト稱ス又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖ル者俗ニ親分ト稱スハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス之等ノ輩ハ常ニ一定ノ職業ヲ有セス地方ヲ徘徊シ良民ヲ欺キ或ハ脅威シ不正行爲ヲ逞クスルモノナルヲ以テ重キ體刑ヲ科スルコトト爲シタルナリ

第百八十七條 「富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス」

「富籤發賣ノ取次ヲ爲シタルモノハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス」

「前二項ノ外富籤ヲ授受シタルモノハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス」

第一四七 本條ハ富籤ヲ發賣取次又ハ授受シタル者ヲ罰スル規定ナリ富籤モ又賭博ト同シク射倖心ヲ挑發シ遊民惰食ノ弊ヲ助長スルヲ以テ之ヲ禁止シタルモノナリ然トモ其目的殖産興業又ハ貧民救助等公共事業ニ充ツル費用ヲ求ムル爲メニ特別ノ法令ヲ以テ或ル地方ニ限り之ヲ許スコトアリ例ヘハ台灣富籤法ノ如シ是レ素ヨリ其地域ニ限ル例外規定ナルヲ以テ内地ニ於テ之ヲ賣買スルヲ得サルハ勿論内地人カ郵便等ニ依リ之ヲ購買スル所爲モ不法ナルモノトス

### 第二十四章 禮拜所及墳墓ニ關スル罪

第百八十八條 「神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス」



「説教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス」

第一四八 本條ハ禮拜所ニ對シ公然不敬ヲ加ヘ又ハ説教、禮拜式ヲ妨害シタル罪ノ規定ナリ。神社、佛堂、墓所等ハ各人ノ尊崇スル所ニシテ之ヲ汚瀆セサルハ其尊嚴ヲ維持スル所以ナリ。然ルニ之ヲ侮蔑シ公然不敬ノ所行ヲ加フル如キハ風教上許スヘカラサル不徳ノ行爲ナリ。説教、禮拜及ヒ葬式ヲ妨害スルハ人ノ信教ノ自由又ハ死者ニ對スル儀式ヲ妨クルモノニシテ人道上許スヘキモノニアラス。依テ共ニ刑法ヲ以テ所罰スルコトト爲シタルモノナリ。

第一百八十九條「墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス」

第一四九 墳墓トハ屍體、遺骨、遺髮等ヲ埋葬シタル場所ヲ謂フ。即チ墓所ノ義ニシテ我國ニ於テハ神聖ナル靈地トシテ尊崇スル所ナリ。之ヲ發掘ストハ埋葬物ヲ掘リ出スコトヲ謂フ。而シテ他人所有ノ土地ト自己所有ノ土地トヲ區別セサルモノナリ。

第一百九十條「死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス」

第一百九十一條「第一百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス」

第一五〇 第一百九十條ハ棺廓ヲ破リ又ハ之ヲ放棄シ若クハ自己ノ所有物ト爲ス如キ行爲ニシテ第一百九十一條ハ墳墓ヲ發掘シ棺内ニ收メタルモノヲ損壞、遺棄又ハ領得スル罪ノ規定ナリ。其所爲一層惡ムヘキヲ以テ前條ニ比シ之ヲ重ク罰シタルモノトス。

第一百九十二條「檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス」

第一五一 變死者ハ行政規則上當該官吏ノ檢視ヲ要スルモノナリ。變死トハ其死因カ普通ノ疾病ニ在ラサルモノヲ云フ。之ヲ妄ニ埋葬又ハ火葬スルトキハ犯罪ノ證據ヲ湮滅ニ歸セシムルヲ以テナリ。

### 第二十五章 瀆職ノ罪

第一五二 本章ハ公務員カ其職務ヲ耽カシムルコトヲ罰スル規定ナリ。即チ公務員其職權ヲ濫用シテ人ノ權利ヲ妨害スル罪、被告人ニ凌虐ヲ加フル罪、賄賂



收受罪等ヲ網羅セルモノナリ

第百九十三條「公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス」

第一五三 職權濫用トハ公務員カ自己ノ權限ヲ超越シテ或行爲ヲ行フコト云フ即チ公務員タル地位ヲ利用シ權限ニ屬セサル命令ヲ以テ人ニ義務ナキ行爲ヲ強ヒテ行ハシメ又ハ行ヒ得ヘキ權利ヲ妨害スルヲ罰スル規定ナリ

第百九十四條「裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス」

第一五四 本條ハ公務員カ濫ニ人ヲ逮捕監禁スルコトヲ罰スル規定ナリ犯罪ノ主体トナル者ハ公務員中裁判檢察警察ノ職務ヲ行フ者又ハ之ヲ補助スル者ナリ即チ判事、檢事、警視、警部、陸海軍檢察官タル諸官ヲ始メ之レ等ノ補助者タル巡查、憲兵卒等ヲ包含ス而シテ職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕監禁スルコトヲ要ス故ニ正當ノ理由ニ依リ法律規則ニ準據シテ之ヲ行フハ即チ職務ノ實行ナルヲ以テ審問ノ結果被告人ハ免訴又ハ無罪トナルモ之ヲ罰スルヲ得サルヤ

勿論ナリ本條ハ之等ノ公務員カ法令ノ手續ニ依ラス權限ヲ超ヘテ濫ニ人ヲ逮捕監禁スル場合ナリ例ヘハ巡查、憲兵卒カ人ヲ逮捕スルニハ句引狀又ハ逮捕狀ヲ要スルニ之ニ依ラスシテ制縛シ又ハ句引狀ニ依ル被告人ハ四十八時間以上留置スヘカラサルニ其時間ヲ經過スルモ之ヲ解カサルカ如シ

第百九十五條「裁判檢察警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス」  
「法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ亦同シ」

第一五五 本條ハ刑事被告人其他ノ者ニ暴行又ハ凌虐ヲ加ヘタル罪ノ規定ナリ凌虐トハ毆打拷責等殘酷ナル所置ヲ爲スコトヲ云フ本條ノ最モ多ク適用ヲ見ルハ被告人ニ自白ヲ強制シテ之ヲ拷問スル者ナリ古ノ裁判制度ニ於テハ拷問ヲ以テ唯一ノ手段ト爲シ詰責至ラサルナク冤ヲ訴フルノ途ナク涙ヲ吞テ無實ノ罪ニ服スルノ弊アリシモ今ヤ全ク一變シ被告人ノ自白ハ必ラスシモ之ヲ要セス罪ノ有無ハ諸般ノ憑證ニ據リテ決セラル故ニ被告人ニ自白



ヲ強要スルノ必要ナク其身体ニ凌虐ヲ加フル如キハ野蠻未開ノ遺風トシテ  
裁判廷ニ其跡ヲ絶テタルモ司法警察官等ニ於テ仍ホ未ダ苛酷ナル取扱ヲ爲  
スノ例往々アリ之レ本條ノ規定アル所以ナリ

第九十六條「前二條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ  
處斷ス」

第一五六 本條ハ結果犯ノ規定ナリ即チ不法ニ逮捕監禁シ又ハ凌虐ヲ加ヘタ  
ル結果人ヲ死傷ニ至ラシメタルトキハ傷害罪ト比較シ重キ罪ニ付キテ處分  
スヘキモノト爲シタルナリ

第九十七條「公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタル  
トキハ三年以上ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年  
以上十年以下ノ懲役ニ處ス」

「前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハカ  
ルトキハ其價格ヲ追徴ス」

第九十八條「公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付提供又ハ約束シタル者ハ三年以上ノ懲役又ハ

ヒ事務分配ニ依リ其事件ヲ處理スヘキコトヲ擔任スルニ依リテ定マルモノ  
トス故ニ其事件ニ付キ何等ノ處分權ナキトキハ職務ニ關スルモノト謂フヲ  
三百圓以下ノ罰金ニ處ス前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ輕減又ハ免除スル  
コトヲ得」

第一五七 第九十七條ハ公務員收賄罪ニシテ第九十八條ハ賄賂提供罪ニ  
關スル規定ナリ舊刑法ハ官吏ノ收賄ニ限りテ之ヲ罰シ廣ク公務ヲ執行スル  
者ヲ斂キ又賄賂ヲ贈リタル者ヲ罰セサルノ規定ナリシヲ以テ官吏ニ賄賂ヲ  
提供シ人情ノ弱點ニ乘シテ不正ノ要求ヲ爲シ其弊ニ堪ヘカリシヲ以テ新刑  
法ニ於テハ收賄者贈賄者共ニ罰スルノ主義ヲ採リ且公務員ノ外仲裁人ヲモ  
加ヘタルモノナリ

第一五八 公務員トハ刑法第七條ニ規定セル者ヲ云ヒ仲裁人トハ民事訴訟法  
仲裁手續ノ規定ニ從ヒ當事者双方ノ依頼ヲ受ケテ其紛議ヲ判斷スル者ヲ云  
フ故ニ自ラ進テ争ノ和解ヲ試ムル如キ者ハ本條ノ仲裁人ニアラサルナリ而  
シテ職務ニ關スルコトヲ要ス職務ニ關スルトハ其事項カ公務員又ハ仲裁人



ノ處分シ得ヘキ範圍内ニ屬スルモノヲ云フ凡ソ公務員ノ職務權限ハ法令ノ定ムル所ニ依ルモ特定ノ事項カ其處分權内ニ屬スルハ更ニ内部ノ規定ニ從得サルモノナリ賄賂トハ財産上ノ利益即チ金錢有價物ハ勿論人ノ行爲ト雖モ金錢ニ見積リ得ヘキモノハ皆之ヲ包含スト解スヘキナリ收受トハ之ヲ受領スルコトヲ云ヒ要求トハ進ンテ請求スルヲ云ヒ約束トハ交付ヲ後日ニ履行セントノ契約ヲ爲スヲ云フ故ニ公務員又ハ仲裁人ハ賄賂ヲ收受セサルモ一定ノ利益ヲ提供スヘシト要求シ又ハ後日提供ストノ約束ヲ爲セハ直チニ本罪成立スルモノトス

**第一五九** 右ハ單ニ賄賂ヲ收受要求約束シタル罪ノ規定ナルモ若シ公務員又ハ仲裁人カ之ニ基キ不正ノ處分ヲ爲シ又ハ爲スヘキ行爲ヲ爲ササルトキハ其害一層甚シキヲ以テ之ヲ重ク罰スルノ必要アリ之レ一ハ三年以下ノ懲役ニ處シ一ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處スト爲シタル所以ナリ

**第一六〇** 收賄罪ニ因リ得タル利益ハ之ヲ沒收シ若シ之ヲ費消シタルトキハ其價格ヲ追徴スルモノトス之レ財産上ノ利益ヲ被告ノ手ニ存セシムル如キ

ハ刑罰ノ効力ヲ十分ニ達スル能ハサルヲ以テナリ  
**第一六一** 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付シ又ハ提供シ若クハ約束スル者ハ犯罪ヲ誘導スルモノニシテ之ヲ放任スヘキニ在ラス故ニ新刑法ハ特ニ之ヲ罰スル規定ヲ設ケタルナリ自首シタル者ニ特例ヲ與ヘタルハ實害ヲ未發ニ防カントノ法意ニ出ツ

## 第二十六章 殺人ノ罪

**第九十九條** 「人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス」

**第一百條** 「自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス」

**第二百一條** 「前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得」

**第一六二** 本章ハ殺人罪ノ規定ナリ舊刑法ニ於テハ謀殺故殺毒殺誤殺等其他種々區別シタルモ新刑法ニテハ總ヘテ不正ニ人ヲ殺シタル者ハ第九十九條ヲ以テ論シ只尊屬親ヲ殺シタル者ヲ重ク罰スル爲メニ第二百一條ヲ設ケタリ



其成立要件ハ(一)人ナルコト(二)人ヲ殺シタルコト之レナリ人トハ自然人ヲ云  
 ヒ法人ハ無機体ナルヲ以テ之ヲ含マズ人ナル以上ハ老幼男女ヲ問ハス瀕死  
 ノ病人モ僅カニ母胎ヲ離レタル嬰兒モ皆之ヲ包含ス然レモ未ダ分娩セサル  
 モノハ墮胎罪タルハ格別殺人罪ノ目的トナラス人ヲ殺ストハ生命ヲ絶ツコ  
 トヲ云フ其方法ハ謀殺故殺毒殺絞殺等種々アルヘク其目的モ千差萬様ナル  
 ヘシ故ニ刑ノ範圍ヲ廣クシ其目的方法及犯情ニ照シ死刑無期又ハ三年以上  
 ノ懲役ニ處スルモノト規定セリ舊刑法ニ於テハ謀殺シタル者ハ必ラス死刑  
 ニ處シ故殺ハ無期懲刑ニ處スト爲シタルヲ以テ實際ノ適用ニ甚々情ヲ得サ  
 ル結果ヲ生シ刑罰ノ目的ニ副ハサルコト多カリシヲ以テ之ヲ改正シタルモ  
 ハトス

**第一六三** 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬親ヲ殺ス如キハ如何ナル事情アルモ人  
 倫ノ大道ニ戻リ悖惡ノ行爲ナルヲ以テ普通人ヲ殺シタル罪ニ比シ之ヲ重ク  
 罰スルノ必要アリ之レ特ニ第二百條ヲ設ケ死刑又ハ無期懲役ノ一ヲ科スル  
 コトト爲シタルナリ而シテ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ限ルヲ以テ傍系ノ

尊屬ハ之ヲ含マス即チ民法第七百二十六條ノ規定ニ從ヒ自己ヲ中心トシ父  
 母ヲ直系一等親トシ祖父母ヲ二等親トシ曾祖父母ヲ三等親トス以上之ニ準  
 スヘシ兄姉叔父母ハ尊屬親ナルモ傍系ナルヲ以テ之ヲ含マス又養子ノ養父  
 母ニ於ケル繼子ノ繼父母ニ於ケル關係ハ民法ノ規定上血族ト同一ニ看做ス  
 ヲ以テ直系尊屬親タルヘシ

**第一六四** 殺人ノ目的ヲ以テ豫備ヲ爲スハ危險ナルヲ以テ害ヲ未然ニ防遏ス  
 ル爲メ之ヲ罰スルコトト定メタリ然トモ一時ノ憤怒ニ乘シ決行セント欲シ  
 タル者ハ其時ヲ經過シテ心身冷靜トナリ徐ロニ利害得失ヲ考慮セハ再ヒ犯  
 スノ虞レナキ者アリ故ニ其情狀ニ因リテ其刑ヲ免除スルコトヲ得ト定メタ  
 リ

**第二百二條** 人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得  
 テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

**第二百三條** 第九十九條第二百條及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

**第一六五** 自殺トハ自己ノ生命ヲ自カラ絶ツ行爲ヲ謂フ人ハ自己ノ生命ヲ自



ヲ捨ツルハ自由ニシテ生命ヲ保存スヘキノ義務ヲ有スルモノニアラス故ニ  
 自殺セント欲スルモノハ之ヲ罰セサルナリ然レトモ他人ヲシテ自殺セシム  
 ルハ社會ノ秩序ヲ害ス故ニ自殺ヲ勸誘シ又ハ自殺ノ補助ヲ爲シ又ハ自殺者  
 ノ依頼ヲ受ケ若クハ承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ本條ニ依リ處罰スヘキモ  
 ノト規定セリ要スルニ生命身體ニ關スル約束ハ公ノ秩序ヲ害スルヲ以テ之  
 チ無効ト認ムル法意ナリトス

## 第二十七章 傷害ノ罪

第二百四條「人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ  
 處ス」

第二百五條「身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス」

「自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス」

第一六六 本章ハ舊刑法ノ毆打創傷罪ノ規定ヲ修正シタルモノナリ舊刑法ニ  
 於テハ創傷ノ輕重ニ依リ刑ニ等差ヲ設ケタルモ新刑法ハ此ノ區別ヲ廢シタ

リ傷害トハ人ノ身體ニ生理的毀損ヲ加フル行爲ナリ有形タルト無形タルト  
 其手段ヲ問ハサルモノトス故ニ刀劍木石等ヲ以テ毆打シ又ハ水火熱湯電氣  
 蒸氣等ヲ注キ或ハ病毒ヲ感染セシメテ疾苦セシムル等何レモ傷害ノ結果ヲ  
 生セシムルモノハ皆之ヲ含ムモノト解スヘシ而シテ死ニ至ラサルモノハ其  
 傷ノ大小輕重及犯情ニ從ヒ第二百四條ノ範圍内ニ於テ處罰スルモノトス

第一六七 第二百五條第一項ハ傷害ノ結果死ニ致シタルトキハ二年以上ノ  
 有期懲役ニ處スヘキ規定ナリ死ニ致ストハ人ノ生命ヲ亡失スルニ至ラシメ  
 タルコトヲ云フ加害者ハ殺人ノ意思ナカリシコトヲ要ス何トナレハ殺人ノ  
 意思ヲ以テ死ニ致スハ殺人罪ニシテ傷害致死ニアラサレハナリ故ニ致死ノ  
 結果ハ犯人豫期セカリシ事實ニシテ過失ニ屬スト雖モ傷害ノ意思アル以上  
 ハ其結果ニ付キテ責任ヲ負ハシムルハ敢テ不當ニアラス是レ特ニ之ヲ重ク  
 罰スル爲メ本項ヲ設ケタル所以ナリ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ傷害スル  
 ハ人倫ノ大義ニ反スル所ナルニ況ンヤ之ヲ死ニ致ス如キハ大惡無道ト謂ハ  
 サルヘカラス故ニ一層重ク無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處スルコトト爲シタ



第二百六條「前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五拾圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス」

第二百七條「二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル」

第二百八條「暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五拾圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス」

「前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス」

第一六八 第二百六條ハ傷害ヲ加フル現場ニ於テ言語又ハ舉動ヲ以テ助勢シタル者ハ自ラ手ヲ下シテ人ヲ傷害セスト雖モ之ヲ罰スル規定ナリ思慮淺薄ナル者ヲ煽動シテ人ヲ毆打セシムル如キ場合少シトセス同條ハ斯ノ如キ無賴漢ヲ取締ランカ爲メナリ第二百七條ハ共犯ニ對スル特例ヲ定メタルモノ即チ二人以上ニテ人ヲ傷害シ傷ヲ爲スノ輕重ヲ知ル能ハス又ハ傷ヲ生セシ

メタル者ヲ知ル能ハサルトキハ共犯ニアラスト雖モ仍ホ共犯トシテ各自ニ刑ヲ科スヘキコトト爲シタルナリ第二百八條ハ暴行ヲ加ヘタルモ傷害スルニ至ラサル者ハ實害少キヲ以テ輕キ刑ヲ科スルコトト定メ尙被害者ノ告訴ヲ待テ罪ヲ論スルコトト定メタリ

### 第二十八章 過失傷害ノ罪

第一六九 本章ハ過失ニ因リテ人ヲ傷害シタル罪ノ規定ナリ過失ノ意義ニ付キテハ總則ニ於テ既ニ説明シタル所ナリ要スルニ注意ヲ怠リタルカ爲メ豫期セサル結果ヲ生セシメタルコトヲ云フナリ始メヨリ傷害スルノ意思ヲ以テ傷クレハ傷害罪タリ人ヲ殺スノ意思ヲ以テ生命ヲ絶テハ殺人罪ナリ然ルニ過失傷害罪ハ殺人及傷害ノ犯意ナク疎虞懈怠等ノ爲メ十分ノ注意ヲ加ヘカリシニ因リ過テ人ヲ傷ケ又ハ死ニ至ラシムル者ナリ故ニ犯意ヲ缺クニ因ル無罪ナルモ傷害又ハ致死等重大ノ結果ヲ惹起シタル者ヲ不問ニ附スルハ危險ナルヲ以テ再ヒ過失ナキ如ク注意ヲ加ヘシメシメカ爲メ相當ノ制裁ヲ加



へ之ヲ取締ルコトト爲シタルモノナリ

第二百九條 「過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス」

「前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス」

第二百十條 「過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス」

第二百十一條 「業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス」

第一七〇 第二百十一條ヲ以テ業務上必要ナル注意ヲ怠リタル者ヲ特ニ重ク罰スヘキモノト爲シタルハ其情重キヲ以テナリ例ヘハ氣車電車ノ機關士カ通行人ヲ轢殺スルカ如ク又ハ蒸氣電氣ノ機械工場ノ監督者技師等カ相當ノ注意ヲ加ヘサリシカ爲メ傍人ヲ傷ケタルカ如キ之レナリ

### 第二十九章 墮胎ノ罪

第二百十二條 「懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス」

第二百十三條 「婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス」

「因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス」

第二百十四條 「醫師產婆藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス」

「因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス」

第二百十五條 「婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得シテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス」

「前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス」

第二百十六條 「前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス」

第一七一 本章ハ墮胎罪ニ關スル規定ナリ墮胎トハ胎兒ヲ分娩期ニ先テ母胎内ニ於テ生育セシメサル行爲ヲ云フ其原因ハ不正ノ情交ヲ蔽ハンカ爲メニスルコトアリ養育教育ノ困難ヲ避ケンカ爲メニスルコトアルヘシ彼ノ嬰兒